



平成27年度

Shizuoka City Museum of Art ANNUAL REPORT 2015

静岡市美術館年報 No.6

目 次

1. 基本理念・沿革	
1-1 基本理念	3
1-2 沿革	3
1-3 平成27(2015)年度事業一覧	4
2. 展覧会事業	
2-1 静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	6
2-2 青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代まで	12
2-3 錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	20
2-4 静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	27
2-5 静岡市美術館開館5周年記念 静岡市芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	36
2-6 スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	45
3. 交流事業(教育普及事業)	
3-1 交流事業	53
1)Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭／2)Shizubiシネマアワー／3)ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」／4)しずびオー ブンアトリエ／5)しずびチビッコプログラム／6)暦とあそぶワークショップ／7)プレゼントワークショップ／8)夜店市／9)静岡市美術館 開館5周年記念 ポスター展	
3-2 連携事業	62
1)ミュージアム教室・展示解説／2)静岡大学アートマネジメント力育成事業「めぐりアート静岡」／3)生涯学習センター・静岡市美術館 連携事業「しずび出前講座」／4)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)／5)キニナルスキニナルプロジェクト／6)その他 施設との連携等	
4. 受託事業等	
4-1 受託事業等	68
1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展／2)静岡市清水文化会館マリナート常設展示「平野富山ー清水が生んだ彩色木彫の名匠」／3)徳川家康公顕彰 四百年記念事業 神の葵と将軍の葵ー京都洛北世界遺産 上賀茂神社展ー／4)中勘助生誕130年・没後50年 中勘助文学記念館開館20周年記 念事業 展覧会「緑の作家、中勘助展ー静岡の人々と共に」	
5. 調査研究・研修受入等	
5-1 調査研究	71
5-2 研修受入等	73
5-3 博物館実習	73
5-4 視察等受入	73
6. 収蔵品・図書等	
6-1 収蔵品・画像貸出等	74
6-2 図書等	74
7. 広報活動	
7-1 広報印刷物	74
7-2 ウェブサイト	75
7-3 施設広報記録	76
8. 管理運営	
8-1 利用者数	77
8-2 過去展覧会一覧	83
8-3 静岡市美術館運営協議会	85
8-4 組織図・職員名簿	86
8-5 条例・施行規則	87
8-6 施設・建築概要	89

1. 基本理念・沿革

1-1 基本理念

静岡市美術館は、JR静岡駅北口の25階建ビル「葵タワー」3階に、平成22年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念とし、展覧会、教育普及、調査研究活動を行っています。

展示室では、美術を主軸にデザインや工芸など幅広いジャンルの展覧会を開催します。

また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの「交流ゾーン」では、様々なアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、美術映画の上映など普及事業を実施します。駅から徒歩3分という立地を活かし、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い街の中の広場”のような美術館を目指しています。

美術館ロゴマーク



◆開館5周年ロゴマーク

開館5周年を記念し作成。平成27年度開催のすべての展覧会、および年間スケジュールで使用した。



美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。そんなロゴマークを富士山に見立て、5年という歳月を重ねてみます。そうすると“5”はまるで登山の軌跡のよう！山の裾野を一周し、斜めに登って、山頂を横切った跡。美術館の歩みを表しました。

デザイン：柿木原政広(アートディレクター)

1-2 沿革

平成18(2006)年

- 3月 「静岡市文化振興ビジョン」策定
- 8月1日 有識者による「(仮称)静岡市立美術館基本計画懇話会」設置

平成19(2007)年

- 3月 「(仮称)静岡市立美術館 基本計画」策定
- 4月1日 「静岡市新美術館準備検討委員会」設置
- 7月4日 「葵タワー」着工

平成20(2008)年

- 3月 「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定

平成21(2009)年

- 7月8日 美術館内装建築工事着工[内装設計：(株)丹青研究所、内装建築工事：(株)木内建設]
- 7月16日 静岡市美術館条例制定
- 11月12日 静岡市美術館条例施行規則制定

平成22(2010)年

- 3月24日 静岡市が(財)静岡市文化振興財団を指定管理者に指定
- 3月31日 「葵タワー」竣工
- 4月1日 「葵タワー」オープン
- 4月21日 静岡市美術館竣工
- 5月1日 静岡市美術館開館・完成記念式典開催
- 9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施
- 10月1日 静岡市美術館グランドオープン記念式典開催
- 10月2日 開館記念展<I> 「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催(～11月28日)

平成23(2011)年

- 5月9日 館のヴィジュアル・アイデンティティー(含：ロゴマーク)が「ワンショウ(ONE Show)」の銀賞を受賞

平成24(2012)年

- 1月4日 館エントランスに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」設置

平成25(2013)年

- 9月14日 来館100万人記念式典実施

平成26(2014)年

- 5月2日 静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定

平成27(2015)年

- 3月20日 静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に再指定
- 5月1日 静岡市美術館開館5周年

※過去展覧会一覧については、83～84頁を参照。

1-3 平成27(2015)年度事業一覧

		展覧会	交流事業
平成27年 (2015年)	4月	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅 4月18日-5月31日<開館39日間>	1日 徳川家康公顕彰四百年記念事業 神の葵と将軍の葵-京都洛北世界遺産 上賀茂神社展-(3月28日より開催) 同 関連事業「葵祭のヒロイン・斎王代」(-5日)
	5月		4日 同 記念シンポジウム「葵をめぐる 京都×静岡」 25日 暦とあそぶワークショップ vol.10「こどもの日の準備をしよう！」
	6月	青磁のいま -受け継がれた技と美 南宋から現代まで 6月13日-8月16日<開館56日間>	2日 静岡市美術館開館5周年記念 プレゼントワークショップ vol.14 「母の日だ! 柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」 23日 しずびチビッコプログラム①
	7月		13日 静岡市美術館開館5周年記念 プレゼントワークショップ vol.15 「父の日だ! 柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」 21日 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト 科学茶房「青磁のひみつ-魅力ある“青”が生まれるまで」 26日 しずびチビッコプログラム②
	8月		1日 しずびオープンアトリエ「青磁の色とかたちをつくろう!」(-16日) 4日 Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭(-9月27日) 5日 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト 「青磁釉作りに挑戦! 丹波青磁の小皿を作ろう」 14日 夜店市(-16日)
	9月	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番! 8月23日-9月27日<開館36日間>	12日 しずびチビッコプログラム③ 26日 Shizubi Project 5 カタログ刊行記念 トークイベント 27日 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡・室内楽フェスティバル2015 ミュージアムコンサート「後藤幸治&水島結子 琵琶デュオ・コンサート」
	10月	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと 10月10日-11月23日<開館39日間>	1日 静岡市美術館開館5周年記念 ポスター展(-7日) 17日 Shizubi シネマアワー vol.15「印象派の画家-ルノワールとモリゾ」 ①『ルノワール 陽だまりの裸婦』 18日 同 ②『画家モリゾ マネの描いた美女 名画に隠された秘密』
	11月		3日 ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」 第9回「MUSIC CARAVAN」 8日 しずびチビッコプログラム④
	12月	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様 12月5日-1月11日<開館29日間>	12日 キニナルスキニナルプロジェクト「芹沢銈介の家」お二階拝見ツアー 同 プレゼントワークショップ vol.16「クリスマスの準備をしよう!」 (子ども編) 13日 同 (大人編) 23日 キニナルスキニナルプロジェクト 芹沢銈介の作品をめぐる 見学ツアー
	1月		9日 しずびチビッコプログラム⑤ 同 Shizubi シネマアワー vol.16「世界一美しい本を作る男-シュタイデルとの旅-」
平成28年 (2016年)	2月	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。 1月23日-3月27日<開館57日間>	26日 静岡大学アートマネジメント力育成事業「めぐりアート静岡」 (-3月27日) 30日 暦とあそぶワークショップ vol.11「節分の準備をしよう!」
	3月		6日 しずびオープンアトリエ「未知の惑星と宇宙人でモビールをつくろう!」(-3月20日) 11日 しずびチビッコプログラム⑥-1 13日 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト 「“この一曲”をとことん語る J.ウィリアムズ:映画「スターウォーズ」の音楽」
			5日 Shizubi シネマアワー vol.17「美術館を手玉にとった男」 21日 しずびチビッコプログラム⑥-2

2. 展覧会事業 目次

2-1 静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	6
2-2 青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代まで	12
2-3 錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	20
2-4 静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	27
2-5 静岡市美術館開館5周年記念 静岡市芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	36
2-6 スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	45

2. 展覧会事業

2-1 静岡市美術館開館5周年記念

大原美術館展 名画への旅

会期：4月18日(土)～5月31日(日)

概要：大原美術館は、日本で初めて西洋美術が鑑賞できる美術館として1930(昭和5)年岡山市倉敷市に開館した。その豊富なコレクションの基礎を築いたのは、実業家・大原孫三郎(1880-1943)とその盟友で岡山県出身の洋画家・児島虎次郎(1881-1929)であった。虎次郎は孫三郎の支援を受けて三度渡欧し、フランス、ベルギー、ドイツ、スペインなどを巡った。今でこそ西洋絵画は身近な存在だが、海外の情報を得ることも旅行も容易でない当時に、虎次郎がもたらした名品の数々は、日本で高い関心と熱狂をもって受け入れられた。美術館創設時の強い公共精神―若い芸術家や一般の愛好者のために優れた美術作品を鑑賞、研究する場を提供する―は現在まで受け継がれ、そのコレクションはそれぞれの時代を反映しながら豊かに発展してきた。

静岡市美術館開館5周年記念となる本展では、児島虎次郎の作品をはじめ、珠玉の西洋絵画、日本近代美術の名作、そして静岡ともゆかり深い芹沢銈介や民藝運動の作家、さらに山口晃ら近年活躍めざましい現代の作家たちの作品など、大原美術館を代表する75点を一堂に紹介した。大原美術館のこれまでの活動を辿りながら、孫三郎と虎次郎が目指した美術館、そして初めて本物の西洋絵画に触れた当時の人々の熱い想いに、改めて触れる機会となった。

巡回先：なし(自主企画展)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、TOKAIグループ、静岡新聞社・静岡放送

特別協力：公益財団法人 大原美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：セキスイハイム東海

観覧料：一般 1,300円(1,100円)

大高生・70才以上 900円(700円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障害者手帳をご持参の方および介助に必要な方は無料

観覧者数：32,133人(有料25,229人、無料6,904人、有料率78.5%)

出品点数：79点(資料等を含む)

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4)

70,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：グラディアCoC 120.5kg (B1・B3)、OKミューズガ

リバー グロスCoC (ハイホワイト)135kg (B2)

サイズ・数量：B1 140部、B2 2,150部、B3 2,800部



チラシ表面



チラシ中面

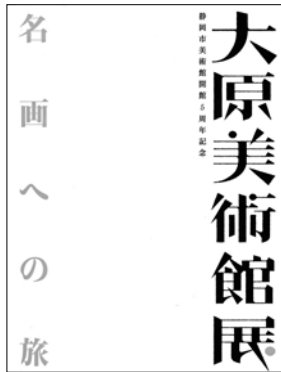


B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：
 <仕様>183×244mm、181頁



カタログ表紙

カラー図版106点
 参考図版(カラー23点、モノクロ13点)

柳沢秀行「今を生きる人々にとって意義あること。美術館は生きて成長してゆくもの。文化が汗をかく世紀。」

大原美術館のあゆみ／作品リスト

編集：静岡市美術館
 発行：静岡市美術館
 発行年：2015年

普及ツール：1)音声ガイド

2)パスポート型DM

主に若年層向けの広報として、サブタイトルの「名画への旅」にちなみパスポート型DMを制作、市内店舗等へ配架した。



DM表面



DM中面

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、特別メニューの提供を行った。

印刷物：

チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

その他：

1)5月1日開館記念日プレゼント

開館5周年を記念し、開館記念日に展覧会を観覧した先着50名に当館オリジナルグッズをプレゼントした。



5月22日 来場2万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「IPPOセレクション：大原美術館展紹介」SBSラジオ『IPPO』、4月20日放送。
- ・「展覧会紹介」トコちゃんねる『TCNワイド』、4月20日放送。
- ・「大原美術館 来場者2万人に」静岡放送『イブアイしずおか』、5月22日放送。

2)新聞

- ・伊藤鮎「大原美術館展 名画への旅 上ー児島虎次郎《芝の上》」『静岡新聞』（夕刊）、4月14日。
- ・伊藤鮎「大原美術館展 名画への旅 中ーアメデオ・モディリアアーニ《ジャンヌ・エピュテルヌの肖像》」『静岡新聞』（夕刊）、4月15日。
- ・「「名画への旅」間近 大原美術館展 準備大詰め 18日から静岡市美術館」『静岡新聞』、4月16日。
- ・伊藤鮎「大原美術館展 名画への旅 下ー芹沢銈介《伊曾保物語屏風》」『静岡新聞』（夕刊）、4月16日。
- ・「大自在」『静岡新聞』、4月23日。
- ・「静岡市美術館で来月31日まで展示 大原美術館の収蔵品75点」『産経新聞』静岡版、4月26日。
- ・「大原美術館1万人 静岡市美術館 開館5周年の記念日」『静岡新聞』、5月2日。
- ・河野貴子「1万人目 白鳥さんら 葵区で大原美術館展」『中日新聞』静岡版、5月2日。
- ・「静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 「名画への旅」心ゆくまで」『静岡新聞』、5月5日。
- ・「大原美術館展 名画への旅」『富士ニュース』、5月14日。
- ・「大原美術館展2万人 静岡市美術館 梅田さん夫妻(焼津)に記念品」『静岡新聞』、5月23日

3)雑誌他

- ・「美術館および展覧会紹介」『芸術新潮』、5月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Yahoo!JAPAN」、「artscape」、「TLC会員サービス」、「TNC静岡ジモティーズ」

関連事業：

1)葵タワー・静岡市美術館開館5周年スペシャルイベント 開幕式・内覧会&特別講演会にご招待！

概要：当館および葵タワーの開館5周年を記念して、本展開幕式および内覧会、特別講演会への市民参加者を広く募集した。内覧会冒頭では大原美術館館長の高階氏、同館学芸課長の柳沢氏によるギャラリートークも行われた。特別講演会は大原謙一郎大原美術館理事長が講師を務める予定であったが、都合により柳沢氏が代講し、「文化・芸術・人文の力」をテーマに進められた。

日時：4月17日(金)15:00-18:00(16:00-特別講演会)

会場：多目的室・展示室

参加者数：49人(開幕式・内覧会)、91人(特別講演会)

講師：高階秀爾氏(大原美術館 館長)、柳沢秀行氏(同館学芸課長)

主要広報記録：

◆新聞

- ・「「名画への旅」へようこそ 大原美術館展きょう開幕 静岡」『静岡新聞』、4月18日。



2)特別講演会「絵画の冒険 大原美術館所蔵作品にみる西洋と東洋」

概要：大原美術館館長の高階氏による講演。大原美術館の成り立ちから、本展出品作品の魅力を余すことなく紹介いただいた。

日時：4月18日(土)14:00-15:30

会場：多目的室・展示室 **参加者数：**122人

講師：高階秀爾氏(大原美術館 館長)

主要広報記録：

◆新聞

・「今を生きる人への意義 高階秀爾大原美術館長 特別講演」『静岡新聞』、5月5日。



3)当館学芸員によるギャラリートーク

概要：当館学芸員によるギャラリートークを会期中計2回実施した。

日時：5月2日・5月23日 いずれも(土)14:00-

会場：展示室 **参加者数：**計109人

参加料：観覧会観覧料



4)シズオカ×カンヌウィーク2015 連動企画

映画上映会『モンパルナスの灯』

概要：静岡市と姉妹都市のフランス・カンヌで毎年5月に行われる映画祭と連動して実施される「シズオカ×カンヌウィーク」にあわせ実施。エコール・ド・パリの画家、アメデオ・モディリアーニの人生を描いた伝記映画を上映した。映画では、本展出品作の《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》も登場した。

日時：5月3日(日・祝)14:00-(開場 13:30)

上映内容：『モンパルナスの灯』(1958年、フランス、104分)

会場：多目的室 **参加料：**500円

参加者数：112人

企画協力：(株)サールナートホール



5)講演会「洋画家たちの挑戦—大原美術館所蔵作品を中心に」

概要：大原美術館学芸課長の柳沢氏による、同館が所蔵する日本近代洋画の魅力についての講演。1876年の工部美術学校の開校から始まり、洋画家たちの留学や影響関係などを紐解きながら、作品を紹介した。

日時：5月10日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**105人

講師：柳沢秀行氏(大原美術館学芸課長)

主要広報記録：

◆新聞

・「近代美術の歴史解説 静岡 大原美術館学芸課長が講演」『静岡新聞』、5月11日。



出品作品リスト

・no.1は個人蔵(大原美術館寄託)、それ以外はすべて大原美術館蔵。
・作品寸法は、平面作品は縦×横cm、立体作品は横(径)×高さ×奥行cmで記している。

・会期中一部展示替えを行った。特に表記のないものは通期展示。
【前期】4月18日(土)－5月10日(日)
【後期】5月12日(火)－5月31日(日)

1 大原美術館設立への道

番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法	展示期間
1	児島虎次郎	大原孫三郎像	1915年	油彩、画布	81.5×65.5	
2	児島虎次郎	自画像	1922年頃	油彩、画布	58.2×46.0	
3	児島虎次郎	風景	1908年	油彩、画布	65.0×81.0	
4	児島虎次郎	凝視	1909年	油彩、画布	116.7×89.1	
5	児島虎次郎	姉妹	1911年	油彩、画布	162.0×114.0	
6	児島虎次郎	芝の上	1914年	油彩、画布	111.7×132.8	
7	児島虎次郎	夏のポート	1920年	油彩、画布	66.8×58.0	
8	児島虎次郎	アルハンブラ宮殿	1920年	油彩、画布	68.5×56.5	
9	児島虎次郎	寓憩	1920年	油彩、画布	168.8×132.0	
10	児島虎次郎	ストックホルム風景	1922年	油彩、画布	51.0×61.5	
11	児島虎次郎	スウェーデンの少女	1922年	油彩、画布	153.2×135.3	
12	児島虎次郎	蘇州の塔	1924年	油彩、画布	68.0×56.7	
13	児島虎次郎	団扇を持つ朝鮮婦人	1927年	油彩、画布	206.0×122.0	
14	満谷国四郎	裸婦	1913年頃	油彩、画布	50.0×65.0	
15	満谷国四郎	早春の庭	1931年	油彩、画布	91.0×116.0	
16	ジャン・デルヴァン	連馬	不詳	油彩、画布	81.5×110.5	
17	エミール・クラウス	冬の果樹園	1911年	油彩、画布	89.3×116.3	
資1	『大原孫三郎氏蔵泰西名画家作品集 画家略伝』		1923年	冊子	22.0×15.2	
資2	『大原孫三郎氏蔵泰西名画展覧図録』(於恩賜京都博物館)		1927年	冊子	19.1×13.5	
資3	『大原美術館図録』(1928年開催「大原孫三郎蒐集泰西美術展」目録(於東京府美術館)を加工)			冊子	21.3×14.0	
資4	『新聞記事・印刷物等スクラップブック(昭和15年7月15日～昭和27年10月17日)』			スクラップブック	30.0×22.0	

2 珠玉の西洋絵画

番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法	展示期間
18	シャルル・コッテ	聖ジャンの祭火	1900年頃	油彩、画布	89.1×130.1	
19	リュシアン・シモン	曲馬場	1917年頃	油彩、画布	134.5×182.0	
20	ラモン・デ・スピアウレ	オンドロアの港	不詳	油彩、画布	100.5×91.0	
21	ジョルジュ・デヴァリエール	ミュージック・ホール	1903年	油彩、画布	153.0×138.5	
22	ジュール・フランドラン	聖母によせる頌歌	1920年	油彩、画布	114.2×162.4	
23	アルフレッド・シスレー	マルリーの通り	1879年	油彩、画布	38.0×55.2	
24	ジャン＝ルイ・フォラン	舞台裏－青のシンフォニー	1900-23年頃	油彩、板	45.3×54.7	
25	ジョルジュ・デスパニャ	幼児のはなをかむ若い母	不詳	油彩、画布	115.0×122.0	
26	ポール・シニャック	オーヴェルシーの運河	1906年	油彩、画布	65.0×80.8	
27	ポール・セリュジェ	春の小川	1906-17年頃	油彩、画布	69.4×49.1	
28	アンリ・マティス	エトルター海の断崖	1920年	油彩、画布	54.2×65.2	
29	アルマン・ギヨマン	ラ・セデルの丘	1917年	油彩、画布	54.0×69.0	
30	アンドレ・ドラク	静物	1924年	油彩、画布	59.4×67.0	
31	モーリス・ユトリロ	パリ郊外－サン＝ドニ	1910年	油彩、厚紙	49.8×73.0	
32	アメデオ・モディリアーニ	ジャンヌ・エビュテルヌの肖像	1919年	油彩、画布	92.3×54.4	
33	シャイム・スーティン	吊るされた鴨	1925年頃	油彩、板	93.0×57.0	
34	ホアン・グリス	コップと瓶	1917年	油彩、板	54.8×32.7	
35	ジョアン・ミロ	夜のなかの女たち	1946年	油彩、画布	50.3×135.3	
36	パブロ・ピカソ	黒い顔	1948年頃	陶器	23.5×2.3 23.5×2.3 24.0×2.8	

3 日本近代美術の名作

番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法	展示期間
37	藤島武二	耕到天	1938年	油彩、画布	91.0×97.5	
38	青木繁	男の顔	1903年	油彩、画布	81.0×61.0	
39	萬鉄五郎	雲のある自画像	1912年	油彩、画布	59.5×49.0	
40	吉田苞	別府の港	1915年	油彩、画布	63.5×79.0	
41	岸田劉生	静物－赤りんご三個、茶碗、ブリキ罐、匙	1920年	油彩、画布	36.5×44.0	
42	梅原龍三郎	裸婦扇	1938年	油彩、画布	81.0×61.0	
43	安井曾太郎	画室にて	1951年	油彩、画布	116.0×89.0	
44	土田麦僊	ヴェトウイウ風景	1922年	テンペラ、画布	46.5×61.0	
45	前田寛治	二人の労働者	1923年	油彩、画布	144.0×110.5	
46	中山巍	静物(パンのある静物)	1925年頃	油彩、画布	53.1×80.7	
47	須田国太郎	浜－室戸	1949年	油彩、画布	89.5×115.5	
48	荻須高德	中庭	1954年	油彩、画布	162.0×97.0	
49	高村光太郎	腕	1917-19年	ブロンズ	51.0×15.0×15.0	

4 大原美術館と民藝運動の作家たち

番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法	展示期間
50	濱田庄司	黒釉面取土瓶	1931年頃	陶器	18.9×18.5	
51	濱田庄司	白釉黒流描大皿	1960年	陶器	52.0×14.3	
52	バーナード・リーチ	鉄釉抜絵兎文大皿	1935年	陶器	49.1×9.3	
53	富本憲吉	色絵芦文陶板	1938年	磁器	34.5×2.0	
54	富本憲吉	色絵四弁花文小皿	1941年	磁器	15.3×8.3×9.5	
55	富本憲吉	白磁ひさご形大壺	1943年	磁器	28.0×35.6	
56	河井寛次郎	飴釉呉須辰砂丸文盛鉢	1940年	陶器	24.1×18.8	
57	河井寛次郎	白釉丸文草絵隅切角鉢	1941年	陶器	32.2×8.2	
58	棟方志功	大原寿恵子歌集抄板画欄 〈立つ子の欄〉 〈一人想ふの欄〉 〈酒津鉢の欄〉 〈枇杷花の欄〉 〈春日藤の欄〉 〈月光の欄〉 〈日まわりの花の欄〉 〈幾山河の欄〉 〈白椿花の欄〉 〈梨花の欄〉 〈大比叡の欄〉 〈時折の欄〉	1959-62年	木版(墨摺)・彩色、紙	33.0×23.0 32.5×22.3 33.0×22.0 31.3×22.5 32.3×23.7 32.5×22.0 33.7×23.0 33.0×23.0 32.0×22.2 32.0×22.5 32.5×22.0 33.5×22.0	【前期】 ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ 【後期】 ◇ ◇ ◇ ◇ ◇
59	棟方志功	大原美術館を初めて観る	不詳	墨、紙	16.2×23.0	
60		『工藝』(芹沢銈介装幀)	1931年	雑誌	1-12号(挟入り)	入替
61	芹沢銈介	伊曾保物語屏風	1932年	型絵染、絹	151.4×222.0 (各105.4×33.6)	【前期】
62	芹沢銈介	法然上人絵伝	1941年	型絵染・手彩色、紙	62.1×47.2×1.1	頁替
63	芹沢銈介	小川紙漉村文着物	1943年	型絵染、木綿	着丈：160.0、衿：64.0	【前期】
64	芹沢銈介	団扇散らし屏風	1960年	型絵染、絹	156.5×169.4 (98.3×138.3)	【後期】
65	芹沢銈介	津村小庵文着物	1967年	型絵染、絹	着丈：162.0、衿：67.0	【後期】
66	芹沢銈介	工芸館構想図	1961年	墨・鉛筆、紙	25.4×35.2	

5 生きて成長していく美術館—現代の作家とともに

番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法	展示期間
67	福田美蘭	モネの睡蓮	2002年	アクリル、画布(パネル貼)、額縁(既製品)	86.3×116.5×8.3	
68	山口晃	倉敷金刀比羅圖	2005年	油彩・水彩・墨・画布	120.0×150.0	
69	太田三郎	Heystack 1855 and Waraguro 2008	2008年	レーザープリント、紙	40.0×23.0	
70	太田三郎	童女舞姿扇	2008年	レーザープリント、紙、扇子	27.2×43.6×2.0	
71	鯉江真紀子	From the series "M" Oh-2-Oh-4	2008年	写真(タイプCプリント、アルミパネル貼)	各100.0×150.0(計3点)	
72	北城貴子	Waiting Light-maison-so-	2006年	油彩、画布	各162.0×162.0(3点組)	
73	花澤武夫	ゴールドヘルグ(倉敷眺望)	2011年	油彩、画布	162.4×130.4	
74	岩熊力也	reverb (祈る手殺める手、兎、野犬、鳥)	2007年	アクリル、ポリエステル布	227.0×181.0	
75	岩熊力也	reverb (群れ、女)	2007年	アクリル、ポリエステル布	227.0×181.0	

2-2 青磁のいま -受け継がれた技と美 南宋から現代まで

会期：6月13日(土)～8月16日(日)

概要：中国に起源を持つ、青緑色を基調とする美しい釉色のやきもの“青磁”。かつて中国皇帝が「雨過天青」とその“青”を喩えるなど、古来より理想の色を求めて様々な青磁が生み出された。日本には12世紀頃より伝わり、茶の湯の発達のなかで選び出され大切に受け継がれてきた。本展では、第Ⅰ章で日本に伝来した中国・南宋時代(12～13世紀)の官窯や龍泉窯の名品を、第Ⅱ章では古陶磁の再現に心を砕き、次第に独自の青磁を作り出した板谷波山や岡部嶺男など11名の近代の物故作家の作品を、第Ⅲ章では人間国宝の中島宏をはじめ今を生きる現代作家10名の最新作まで、約120点を一堂に展示した。

巡回先：東京国立近代美術館工芸館、兵庫陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

主催：静岡市、静岡市美術館、(公財)静岡市文化振興財団、NHK静岡放送局、NHKプラネット中部

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70才以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金
※障害者手帳をご持参の方および介助に必要な方は無料

観覧者数：13,907人(有料9,000人、無料4,907人、有料率64.7%)

出品点数：118点

印刷物：

1)チラシ

<仕様>紙：

①ミラーコート・プラチナ 110kg (通常版)

②OK金藤+ 110kg (市内回覧版)

③ユーライト 110kg (片面次回展早刷)

サイズ・数量：

各A4

①65,000部 ②23,100部 ③25,000部

2)ポスター

<仕様>紙：マットコート 135kg (B1・B3)

ミラーコート・ゴールド 135kg (B2)

サイズ・数量：B1 110部(うち40枚はJR帯つき)、

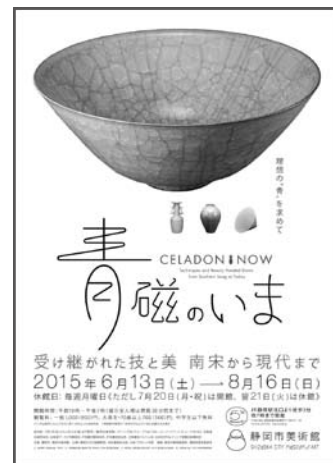
B2 2,000部、B3 1,150部(うち400枚はJR帯つき)



チラシ表面(①～③共通)



チラシ裏面(①および②共通)



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞231×297mm、166頁



カタログ表紙

カラー図版165点

参考図版(モノクロ36点)

唐澤昌宏「青磁－古陶磁鑑賞から創作への歩み」

作家略歴／中国陶磁器窯址関連地図／用語解説／作品リスト
／参考文献

企画構成：唐澤昌宏

編集：東京国立近代美術館工芸館(唐澤昌宏、今井陽子)

兵庫陶芸美術館(マルテル坂本牧子)

静岡市美術館(森谷紗世)

山口県立萩美術館・浦上記念館(徳留大輔)

NHKプラネット中部(吉田南都子、大西亜希)

翻訳：山本仁志

ザ・ワード・ワークス(ルース・S・マクレリー)

発行：NHKプラネット中部

発行年：2014年

普及ツール：

1)型抜きDM

従来の美術ファン層に留まらない、美術・デザインに関心の高い、30～40代女性をターゲットに、作品の形や釉色の美しさをクローズアップした型抜きDMを作成した。

＜仕様＞紙：ミラーコート・ゴールド 180kg

サイズ・加工・数量：100×150mm 型抜き加工3種

計36,000部



DM①表



DM①裏



DM②表



DM②裏



DM③表



DM③裏

2)雨の日特典

雨天時の来館者に、美術館オリジナルグッズである「Shizubiオリジナル色鉛筆」を限定数進呈。“「雨過天青」の器を見に来ませんか”など、印象に残るキャッチコピーを打ち出し、出足が遠のきがちな雨天の来館者増を狙った。

3)鑑賞ガイド・鑑賞ガイド活用シート

青磁の基礎知識や鑑賞ポイントをまとめた「鑑賞ガイド」を、独自に制作した。展示内容と連動させ、キャプション横のアイコンパネルを目印に鑑賞できる仕組みとした。制作にあたっては現役中学教員から聴取した中学生の実態も考慮した。また当初の試みとして、授業や夏休みの課題の投げかけ案をまとめた、教員向けの「鑑賞ガイド活用シート」も地元中学教員と連携し、あわせて制作。学校現場との連携を深めることができた。なお、鑑賞ガイドの内容は、解説パネルにも転用し、展示内容の補完に努めた。

＜仕様＞

①鑑賞ガイド

紙：上質 90kg

サイズ・加工・数量：210×594mm (仕上210×148.5mm)

じゃばら折り加工 30,000部

②鑑賞ガイド活用シート

紙：上質 75kg

サイズ・数量：A4 850部



鑑賞ガイド表



鑑賞ガイド裏



鑑賞ガイド活用シート表



鑑賞ガイド活用シート裏

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、特別メニューの提供を行った。

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



2)他施設との連携

静岡科学館る・く・る定例プログラム「科学茶房」に本展担当が企画協力。出品作家を講師として紹介したほか、当日は作品取扱いのレクチャーを担当した。また、巡回館である兵庫陶芸美術館で開催された青磁釉の調合ワークショップも実施した。詳細は65頁を参照。

3)「陶芸家・高垣篤の器にける花展」との連携

会期中、出品作家の高垣篤氏の器にける小原流の華展が葵タワー1Fで開催された。この華展にあわせ、当館では高垣氏のアーティストトークを開催、同展開催を告知するなどの広報協力を行った。アーティストトークについては15頁を参照。

会期：6月27日(土)および28日(日)

場所：葵タワー1階エントランス

主催：いけばな小原流 静岡支部 濱村真弓(1級家元教授)



主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「青磁展示会の内覧会」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、6月12日放送。
- ・「青磁展示会の内覧会」NHK静岡放送局『ニュースしずおか845』、6月12日放送。
- ・「みーつけた：青磁の世界」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、6月15日放送。
- ・「みーつけた：近代日本の青磁」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、6月16日放送。
- ・「みーつけた：現代の青磁」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、6月17日放送。
- ・「展覧会紹介」FMしみず『マリンパルほっとライン』、6月25日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-たじみ『pipi っとcafé :お出かけマップ』、7月16日。
- ・「「青磁のいま」展示会 入場者1万人達成」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、8月7日。

2)新聞

- ・「美術散歩：青磁のいま 静岡市美術館 13日から」『富士ニュース』、6月11日。
- ・田中泰義「青磁の技と美120点 きょうから 静岡市美術館で」『毎日新聞』静岡版、6月13日。

- ・河野貴子「理想の青磁に魅せられて。中国・南宋から現代日本の120点 静岡市美術館で企画展 人間国宝中島宏氏作品も」『中日新聞』静岡版、6月14日。
- ・森谷紗世「理想の“青”を求めて 青磁のいま―受け継がれた技と美 南宋から現代まで 憧れを原動力に 時代を映す多様な表現」『新美術新聞』No.1381、7月11日。
- ・「青磁の歴史たどる 静岡市美術館」『読売新聞』静岡版、7月11日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『尾張中央タイムズ』、vol.272。
- ・「展覧会紹介」『ボトス』尾張旭・瀬戸・守山版、No.256。
- ・「展覧会紹介」『月刊美術』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『あじくりげ』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『茶道雑誌』、7月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「ミュージアムカフェ」、「Japan Design Net」、「インターネットミュージアム」、「静岡観光コンベンション協会ホームページ」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「サライ.JP」、「artscape」、「びあポイント」、「ウォーカープラス」

関連事業：

1)アーティストトーク①

概要：本展出品作家が、自身の作品について語るイベント。本展担当学芸員とのインタビュー形式で実施した。本展出品作の他、参考出品も交えたスライドを元に、青磁の制作を志すに至った背景も織り交ぜながらその変遷を追った。作陶風景を収めた貴重な映像も放映され、高垣氏の作品の特徴である、屏風のような壁面で構成される造形の成型技術や、独自の釉薬掛けの手法も見ることができた。

日時：6月27日(土)14:00-15:00

会場：多目的室 **参加者数：**58人

講師：高垣篤氏(本展出品作家・陶芸家)



2) 講演会「青磁－受け継がれた技と美 近・現代陶芸作品を中心に－」

概要：本展監修者の唐澤氏を講師に、展覧会の企画趣旨や、近・現代を中心とした本展出品作品の魅力を紹介した。現代作家については、アトリエ風景や、作家それぞれの人柄が窺い知れるエピソードも披露された。

日時：7月4日(土)14:00－15:30

会場：多目的室 **参加者数：**109人

講師：唐澤昌弘氏(東京国立近代美術館工芸課長・本展監修者)



3) アーティストトーク②

概要：本展出品作家の神農氏^{しんのう}を招き、氏の作品をスライド等を用いながら、作家自身の言葉で紹介した。神農氏の作品の特徴である、泥漿状の磁土を筆で塗り重ね、線の文様を器胎に巡らす「堆磁^{でいしよう}」技法の解説のほか、青磁や焼物に対する思いなどが述べられた。

日時：7月11日(土)14:00－15:00

会場：多目的室 **参加者数：**70人

講師：神農巖氏(本展出品作家・陶芸家)



4) 学芸員によるギャラリートーク

概要：当館学芸員によるギャラリートークを、会期中計2回実施した。中国・南宋時代を中心とする名品から、それらに大きな影響を受けた日本の近代・現代の青磁を、青磁の基礎知識や鑑賞ポイントも交えながら紹介した。

日時：7月18日・8月8日 いずれも(土)14:00－

会場：展示室 **参加者数：**計83人

参加料：展覧会観覧料



出品作品リスト

※欠番(I-01、I-02、I-03、I-11、I-14、I-15)は未出品。
※サイズのは「高さ」、wは「幅」、dは「奥行き」、Dは「胴径」を表す。

第1章 日本に伝わった青磁							
通し 番号	図録 番号	窯名または作家名	作品名	制作年		サイズ(cm)	所蔵先
				和暦または時代	西暦		
1	I-04	官窯	青磁盤	南宋時代	12-13世紀	h5.4 w23.8 d23.2	東京国立博物館
2	I-05	龍泉窯	青磁筭形瓶	南宋時代	13世紀	h26.8 w15.3 d15.4	名古屋市博物館
3	I-06	龍泉窯	青磁下蕪形瓶	南宋時代	13世紀	h21.4 w13.7 d13.8	個人蔵
4	I-07	龍泉窯	青磁下蕪形瓶	南宋時代	13世紀	h26.9 D15.3	個人蔵
5	I-08	龍泉窯	青磁鉢	南宋時代	13世紀	h3.5 D11.5	個人蔵
6	I-09	龍泉窯	青磁蓮弁文碗	南宋時代	13世紀	h7.2 w17.3 d17.2	個人蔵
7	I-10	龍泉窯	青磁蓮弁文碗	南宋-元時代	13世紀	h5.6 D13.7	名古屋市博物館
8	I-12	龍泉窯	青磁輪花碗 銘 錢	南宋時代	13世紀	h6.5 D15.4	マスプロ美術館
9	I-13	龍泉窯	青磁琮形瓶	南宋時代	13世紀	h26.3 w10.4 d10.3	個人蔵
10	I-16	龍泉窯	青磁鳳凰耳瓶	南宋時代	13世紀	h31.5 D13.0	東京国立博物館
11	I-17	龍泉窯	青磁觥耳瓶	南宋時代	13世紀	h25.8 w11.8 d11.6	個人蔵
12	I-18	龍泉窯	青磁筒形香炉	南宋時代	13世紀	h4.8 w5.9 d5.7	個人蔵
13	I-19	龍泉窯	青磁袴腰香炉	南宋時代	13世紀	h11.7 D15.2	個人蔵
14	I-20	龍泉窯	青磁貼花蓮花文香炉	南宋時代	13世紀	h9.6 D14.0	愛知県陶磁美術館
15	I-21	龍泉窯	青磁双鱼文盤	南宋-元時代	13世紀	h5.4 w22.0 d21.9	個人蔵
16	I-22	哥窯	米色青磁杯	元時代	13-14世紀	h3.7 w8.2 d8.1	大阪市立東洋陶磁美術館
17	I-23	龍泉窯	青磁玉壺春形瓶	元時代	14世紀	h25.2 w14.2 d6.8	個人蔵
18	I-24	龍泉窯	青磁長頸瓶	元時代	14世紀	h21.6 w9.4 d9.3	個人蔵
19	I-25	龍泉窯	重要美術品 青磁刻花花卉文盤	元時代	14世紀	h6.7 w32.8 d32.6	個人蔵
20	I-26	龍泉窯	青磁刻花花卉文鉢	明時代初期	14世紀末- 15世紀前半	h9.8 w20.5 d20.8	個人蔵

第2章 近代の陶芸家と青磁							
通し 番号	図録 番号	窯名または作家名	作品名	制作年		サイズ(cm)	所蔵先
				和暦または時代	西暦		
21	II-01	初代 宮川香山	青磁牡丹唐草文双耳瓶	大正元年	1912年	h35.9 D19.6	東京国立博物館
22	II-02	初代 宮川香山	青磁獅子摘香炉	明治時代末期	1900-16年頃	h12.0 w10.8 d10.6	個人蔵
23	II-03	三代 清風與平	青磁銀杏文花瓶	明治20年代前半	1887-91年頃	h34.0 D21.7	兵庫陶芸美術館
24	II-04	三代 清風與平	青磁鉄斑文大瓶	大正元年	1912年	h56.4 D32.0	東京国立博物館
25	II-05	三代 清風與平	青瓷下蕪形花瓶	明治時代後期- 大正時代初期	1894-1914年頃	h28.2 D15.2	個人蔵
26	II-06	三代 清風與平	青瓷袴腰香炉	明治時代後期- 大正時代初期	1900-14年頃	h14.2 w15.0 d15.2	個人蔵
27	II-07	初代 諏訪蘇山	青瓷鳳凰耳花瓶	大正3年	1914年	h24.0 D12.0	東京国立博物館
28	II-08	初代 諏訪蘇山	青瓷鳳雲文花瓶	大正8年	1919年	h46.5 D24.0	宮内庁三の丸尚蔵館
29	II-09	初代 諏訪蘇山	青瓷浮牡丹文花瓶	大正元-11年頃	1912-22年頃	h47.9 D23.3	個人蔵
30	II-10	初代 諏訪蘇山	青瓷紅魚文花瓶	大正元-11年頃	1912-22年頃	h27.3 w14.0 d14.1	個人蔵
31	II-11	初代 諏訪蘇山	青瓷竹乃子形花瓶	大正元-11年頃	1912-22年頃	h26.1 D16.2	個人蔵
32	II-12	初代 諏訪蘇山	青瓷菊象嵌花瓶	大正元-11年頃	1912-22年頃	h27.6 D14.0	個人蔵
33	II-13	初代 諏訪蘇山	青瓷袴腰香炉	大正元-11年頃	1912-22年頃	h13.5 w14.9 d14.4	個人蔵
34	II-14	板谷波山	霽青磁牡丹彫文花瓶	大正14年	1925年	h29.5 D22.1	東京国立近代美術館
35	II-15	板谷波山	青磁下蕪形花瓶	大正15-昭和18年頃	1926-43年頃	h21.9 D13.6	出光美術館
36	II-16	板谷波山	青磁竹節花瓶	大正15-昭和18年頃	1926-43年頃	h31.7 D14.6	出光美術館
37	II-17	板谷波山	青磁鎬文鳳耳花瓶	大正15-昭和18年頃	1926-43年頃	h31.1 D14.0	出光美術館

通し 番号	図録 番号	窯名または作家名	作品名	制作年		サイズ(cm)	所蔵先
				和暦または時代	西暦		
38	II-18	板谷波山	青磁蓮花口耳付花瓶	昭和19年	1944年	h30.0 D14.2	出光美術館
39	II-19	板谷波山	青磁菊香炉	昭和29年	1954年	h7.9 D14.0	出光美術館
40	II-20	板谷波山	淡黄磁牡丹文花瓶	昭和33年	1958年	h26.8 D14.8	出光美術館
41	II-21	初代 宇野宗璣	青磁下蕪形花生	昭和28-35年頃	1953-60年頃	h24.6 w15.1 d15.0	大阪市立東洋陶磁美術館
42	II-22	初代 宇野宗璣	青磁鉄斑文花生	昭和35年頃	1960年頃	h30.0 D14.8	大阪市立東洋陶磁美術館
43	II-23	初代 宇野宗璣	青磁鳳凰耳花生	昭和30年代	1955-64年頃	h29.6 w13.8 d13.7	大阪市立東洋陶磁美術館
44	II-24	初代 宇野宗璣	青磁辰砂壺	昭和39年	1964年	h25.6 D29.4	大阪市立東洋陶磁美術館
45	II-25	初代 宇野宗璣	青磁下蕪形花生	昭和47年	1972年	h27.4 D15.4	大阪市立東洋陶磁美術館
46	II-26	小森 忍	青磁魚文手付水注	大正10-昭和3年頃	1921-28年頃	h22.8 w19.0 d15.1	瀬戸蔵ミュージアム
47	II-27	小森 忍	青磁浄瓶	昭和16-18年頃	1941-43年頃	h32.3 w13.2 d12.1	瀬戸市美術館
48	II-28	小森 忍	青磁合子	昭和16-18年頃	1941-43年頃	h17.4 D25.6	瀬戸市美術館
49	II-29	小森 忍	青磁梅文蓋物	昭和16-18年頃	1941-43年頃	h28.9 D16.0	愛知県陶磁美術館
50	II-30	小森 忍	青磁裏紅花文壺	昭和26-37年頃	1951-62年頃	h28.0 w26.5 d26.8	愛知県陶磁美術館
51	II-31	河井寛次郎	青瓷貼文花瓶	大正10-14年頃	1921-25年頃	h27.6 w22.2 d22.4	個人蔵
52	II-32	河井寛次郎	青瓷鱗血文花瓶	大正12年頃	1923年頃	h20.9 w12.0 d10.4	京都国立近代美術館
53	II-33	河井寛次郎	青瓷裏紅壺	大正15年頃	1926年頃	h31.8 w32.3 d32.4	京都国立近代美術館
54	II-34	石黒宗磨	青瓷水裂文盃	昭和25-34年頃	1950-59年	h5.2 D16.4	愛知県陶磁美術館
55	II-35	岡部嶺男	翠青瓷大盃	昭和43年	1968年	h11.2 D27.9	個人蔵
56	II-36	岡部嶺男	粉青瓷大砵	昭和44年	1969年	h33.0 D22.9	個人蔵
57	II-37	岡部嶺男	窯変米色瓷盃	昭和45年	1970年	h6.9 D14.1	個人蔵
58	II-38	岡部嶺男	窯変米色瓷博山炉	昭和46年	1971年	h19.8 D17.6	柳澤コレクション
59	II-39	岡部嶺男	粉青瓷茶盃	昭和48年	1973年	h9.2 D14.2	個人蔵
60	II-40	岡部嶺男	窯変米色瓷双耳砵	昭和49年	1974年	h28.4 D16.2	柳澤コレクション
61	II-41	岡部嶺男	翠青瓷大瓶	昭和49年	1974年	h31.6 D22.5	個人蔵
62	II-42	清水卯一	青瓷鉢	昭和42年	1967年	h9.0 w32.6 d32.3	東京国立近代美術館
63	II-43	清水卯一	青瓷大鉢	昭和48年	1973年	h15.6 D40.5	東京国立近代美術館
64	II-44	清水卯一	萌黄瓷蓋付壺	昭和52年	1977年	h29.0 w27.0 d27.1	滋賀県立近代美術館
65	II-45	清水卯一	藍青瓷鉢	昭和53年頃	1978年頃	h13.6 w47.9 d47.6	個人蔵
66	II-46	清水卯一	萌黄瓷輪花鉢	昭和56年	1981年	h12.8 w31.4 d30.9	滋賀県立近代美術館
67	II-47	三浦小平二	青磁大鉢	昭和51年	1976年	h16.0 D30.0	東京国立近代美術館
68	II-48	三浦小平二	青磁色絵曼荼羅大皿	昭和60年	1985年	h5.0 D46.5	東京国立近代美術館
69	II-49	三浦小平二	青磁花瓶「インド文」	平成元年	1989年	h31.6 w37.8 d38.4	東京国立近代美術館
70	II-50	三浦小平二	青磁飾り壺「仔象」	平成元年	1989年	h30.0 D28.5	東京国立近代美術館

第3章 現代の青磁

通し 番号	図録 番号	窯名または作家名	作品名	制作年		サイズ(cm)	所蔵先
				和暦または時代	西暦		
71	III-01	中島 宏	青瓷壺	昭和52年	1977年	h40.0 D40.0	東京国立近代美術館
72	III-02	中島 宏	青瓷線彫文平鉢	平成17年	2005年	h13.0 D44.5	東京国立近代美術館
73	III-03	中島 宏	青瓷窯変壺	平成23年	2011年	h33.0 D37.8	個人蔵
74	III-04	中島 宏	青瓷彫文花生	平成24年	2012年	h32.0 D17.5	個人蔵
75	III-05	中島 宏	青瓷彫文壺	平成25年	2013年	h40.0 D33.5	個人蔵
76	III-06	高垣 篤	青瓷象嵌壺	昭和63年	1988年	h32.8 D33.6	個人蔵
77	III-07	高垣 篤	青瓷象嵌壺	平成元年	1989年	h35.6 D28.7	個人蔵

通し 番号	図録 番号	窯名または作家名	作品名	制作年		サイズ(cm)	所蔵先
				和暦または時代	西暦		
78	Ⅲ-08	高垣 篤	青瓷稜壺	平成7年	1995年	h53.3 D41.8	個人蔵
79	Ⅲ-09	高垣 篤	茜青瓷一屹立	平成17年	2005年	h46.2 w68.8 d30.7	東京国立近代美術館
80	Ⅲ-10	高垣 篤	茜青瓷一相象	平成22年	2010年	h56.0 w40.0 d24.0	兵庫陶芸美術館
81	Ⅲ-11	深見陶治	宙	平成4年	1992年	h46.8 D62.0	愛知県陶磁美術館
82	Ⅲ-12	深見陶治	遙カノ景〈望〉	平成5年	1993年	h194.0 w59.0 d17.2	東京国立近代美術館
83	Ⅲ-13	深見陶治	瞬Ⅱ	平成10年	1998年	h45.0 w127.6 d24.1	茨城県陶芸美術館
84	Ⅲ-14	深見陶治	立	平成17年	2005年	h207.0 w66.0 d52.0	兵庫陶芸美術館
85	Ⅲ-15	深見陶治	屹	平成24-26年	2012-14年	h199.0 w29.5 d20.2	個人蔵
86	Ⅲ-16	川瀬 忍	青磁大鉢	平成22年	2010年	h13.5 w37.0 d36.8	柳澤コレクション
87	Ⅲ-17	川瀬 忍	青磁水下 銘「仁无末留」	平成23年	2011年	h10.8 w15.0 d14.5	柳澤コレクション
88	Ⅲ-18	川瀬 忍	翠青瓷茶碗	平成25年	2013年	h6.8 w11.9 d12.1	個人蔵
89	Ⅲ-19	川瀬 忍	翠青瓷茶碗	平成25年	2013年	h7.7 w13.2 d13.0	個人蔵
90	Ⅲ-20	川瀬 忍	翠青瓷茶碗	平成25年	2013年	h7.8 w12.6 d12.7	個人蔵
91	Ⅲ-21	川瀬 忍	青磁花入鉢「参星」	平成26年	2014年	h51.2 w18.8 d16.8	個人蔵
92	Ⅲ-22	神農 巖	堆磁線文壺	平成24年	2012年	h37.0 D27.0	個人蔵
93	Ⅲ-23	神農 巖	堆磁線文壺	平成24年	2012年	h31.0 D37.0	個人蔵
94	Ⅲ-24	神農 巖	堆磁線文鉢	平成24年	2012年	h19.0 D43.0	公益財団法人岡田文化財団 パラミタミュージアム
95	Ⅲ-25	神農 巖	堆磁線文鉢	平成26年	2014年	h14.7 w45.5 d45.7	個人蔵
96	Ⅲ-26	神農 巖	堆磁線文水指	平成26年	2014年	h18.5 D21.0	個人蔵
97	Ⅲ-27	青木清高	碧韻	平成3年	1991年	h22.5 w45.0 d41.5	個人蔵
98	Ⅲ-28	青木清高	心の中の海	平成11年	1999年	h20.2 w47.4 d47.0	個人蔵
99	Ⅲ-29	青木清高	融心	平成18年	2006年	h32.6 w26.2 d26.3	個人蔵
100	Ⅲ-30	青木清高	曙	平成25年	2013年	h21.8 w38.7 d39.0	個人蔵
101	Ⅲ-31	福島善三	中野月白瓷鉢	平成24年	2012年	h16.6 w48.4 d48.2	個人蔵
102	Ⅲ-32	福島善三	中野月白瓷匏文鉢	平成24年	2012年	h13.4 w45.0 d45.2	個人蔵
103	Ⅲ-33	福島善三	中野月白瓷鉢	平成25年	2013年	h16.5 w40.0 d39.5	東京国立近代美術館
104	Ⅲ-34	福島善三	中野月白瓷茶盤	平成26年	2014年	h8.2 D11.5	個人蔵
105	Ⅲ-35	福島善三	中野月白瓷香炉	平成26年	2014年	h12.5 D15.5	個人蔵
106	Ⅲ-36	浦口雅行	青瓷輪刻彫文大皿	平成17年	2005年	h9.3 D58.4	個人蔵
107	Ⅲ-37	浦口雅行	青瓷輪刻彫文鉢	平成25年	2013年	h25.4 D45.6	個人蔵
108	Ⅲ-38	浦口雅行	窯変米瓷茶盤	平成25年	2013年	h8.6 w13.2 d13.3	個人蔵
109	Ⅲ-39	浦口雅行	青瓷水指	平成25年	2013年	h13.4 D15.4	個人蔵
110	Ⅲ-40	浦口雅行	青瓷黒晶鉄流蓋鼎	平成26年	2014年	h35.4 D45.6	個人蔵
111	Ⅲ-41	若尾 経	青瓷俎板皿	平成25年	2013年	h32.0 w92.0 d46.0	個人蔵
112	Ⅲ-42	若尾 経	象牙瓷茶盤	平成26年	2014年	h10.3 D13.2	個人蔵
113	Ⅲ-43	若尾 経	象牙瓷水指	平成26年	2014年	h18.0 w19.0 d18.8	個人蔵
114	Ⅲ-44	若尾 経	青瓷輪花鉢	平成26年	2014年	h18.1 D29.2	個人蔵
115	Ⅲ-45	若尾 経	青瓷花器	平成26年	2014年	h26.2 w40.6 d36.0	個人蔵
116	Ⅲ-46	津金日人夢	青瓷鉢	平成22年	2010年	h21.0 w60.2 d49.0	個人蔵
117	Ⅲ-47	津金日人夢	青瓷聯星文壺	平成25年	2013年	h36.5 D38.5	個人蔵
118	Ⅲ-48	津金日人夢	青瓷組鉢	平成25年	2013年	h8.0 w21.0 d25.5	個人蔵

2-3 錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！

会期：8月23日(日)～9月27日(日)※会期中無休

概要：今から250年前の明和2(1765)年、多色摺の浮世絵版画が誕生した。それは、錦のように美しいことから“錦絵”と呼ばれ、人気を博した。江戸時代に誕生した浮世絵は、はじめ紙や絹に直接彩色する肉筆であったが、次第に多くの人が購入できるよう版画でも売り出されるようになる。本展では、錦絵誕生以前の鳥居派による役者絵など初期浮世絵から、錦絵誕生に大きくかかわった鈴木春信、美人画の鳥居清長、喜多川歌麿や役者絵の東洲斎写楽、そして葛飾北斎、歌川広重の風景画など代表的な浮世絵師の名品に加え、上方浮世絵も紹介し、浮世絵版画の歴史を辿った。明治以降、海外でも愛好されるようになった浮世絵は、世界各地の美術館に所蔵されている。本展は其中でも130年以上の歴史を持つフィラデルフィア美術館(アメリカ・ペンシルヴェニア州)の4,000点に上る浮世絵コレクションから、150点を厳選しその全体像を紹介する、日本で初めての展覧会となった。

巡回先：三井記念美術館、あべのハルカス美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡第一テレビ、読売新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：セキスイハイム東海

協賛：瞬報社写真印刷

協力：日本航空

観覧料：一般 1,100円(900円)
大高生・70才以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金
※障害者手帳をご持参の方および介助に必要な方は無料

観覧者数：16,475人(有料11,744人、無料4,731人、有料率72.8%)

出品点数：151件

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：①b7 トラネクスト 115kg (通常版)
②ユーライト 110kg (片面青磁展告知)
サイズ・加工・数量：
①210×594mm二つ折り(仕上A4) 65,000部
②A4 25,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：ユーライト 135kg
サイズ・数量：
B1 110部(うち40枚はJR带つき)、B2 2,000部
B3 2,685部(うち40枚はJR带つき)



チラシ①表A面



チラシ①表B面

※チラシ②はチラシ①表A面と同一。



チラシ①中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>226×297mm、207頁

巻末：千社札貼込帖[全図](全16頁)



カタログ表紙

カラー図版163点

参考図版(カラー114点、モノクロ7点)

ジョン・イットマン「フィラデルフィア美術館の浮世絵コレクション」

ジュリー・ネルソン・デイヴィス「浮世絵における共同制作の軌跡－フィラデルフィア美術館所蔵浮世絵作品選の紹介をかねて－」

浅野秀剛「正面版筆彩掛物絵について」

北川博子「合羽摺の名品・長秀画八角合羽摺団扇絵について」

「浮世絵版画の様式」／「錦絵「摺り」の工程」／「浮世絵師・浮世絵関連年表」／絵師解説／出品リスト／千社札貼込帖[全図]等

監修：浅野秀剛

写真提供：フィラデルフィア美術館

編集：あべのハルカス美術館、静岡市美術館、三井記念美術館、読売新聞大阪本社

発行：読売新聞大阪本社、あべのハルカス美術館

発行年：2015年

普及ツール：1)音声ガイド

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、特別メニューの提供を行った。

印刷物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



9月18日 入場者1万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！」NHK Eテレ『日曜美術館 アートシーン』、7月12日放送。
- ・「静岡市美術館 錦絵誕生250年 浮世絵名品展」NHK静岡放送局『県内ニュース』、8月24日放送。
- ・「浮世絵展 春信が！写楽が！」静岡第一テレビ『あいチャン!!』、8月25日放送。
- ・「静岡市美術館 浮世絵名品展・鈴木春信」静岡第一テレビ『news every.しずおか』、9月1日放送。
- ・「展覧会紹介」FMしみず『マリンパルほっとライン』、9月3日放送。
- ・「静岡市美術館 浮世絵名品展・東洲斎写楽」静岡第一テレビ『news every.しずおか』、9月3日放送。
- ・「静岡市美術館 浮世絵名品展・北斎」静岡第一テレビ『news every.しずおか』、9月4日放送。
- ・「浮世絵名品展1万人に」静岡第一テレビ『news every.しずおか』、9月18日放送。

2)新聞

- ・吉田恵理「春信一番！写楽二番！①：ダルマ紅一色の美人に鈴木春信「やつし芦葉達磨」中判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月4日。
- ・吉田恵理「春信一番！写楽二番！②：今にも躍動 迫力の構図 東洲斎写楽「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月5日。
- ・大石沙織「春信一番！写楽二番！③：恋する女 鮮やかな表情 初代喜多川歌麿「歌撰恋之部 逢恋」大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月6日。
- ・井上晋治「錦絵誕生250年特別展 江戸の粋 鮮やかな美」『読売新聞』全国版、8月7日。
- ・大石沙織「春信一番！写楽二番！④：赤く染まる富士 刻一刻 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」横大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月7日。
- ・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑤：写実より物珍しい「浮絵」 奥村政信「風雅火鉢無間鐘浮絵根元」横大判墨摺筆彩：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月8日。
- ・「浮世絵 美の歴史 春信、写楽、北斎…150点展示 静岡市美術館」『読売新聞』静岡版、8月24日。
- ・吉田恵理「春信一番！写楽二番！⑥：「線」に表情「赤」効果的に 初代鳥居清信「二代目市川團十郎の鳴神上人と中村竹三郎の雲の絶間姫」大判丹絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月25日。
- ・吉田恵理「春信一番！写楽二番！⑦：「古歌を絵に 翻案の妙」 鈴木春信「風俗四季哥仙 五月雨」中判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月26日。
- ・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑧：「人々が驚く「鶯の目線」 初代歌川広重「名所江戸百景 深川洲崎十万坪」大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月27日。
- ・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑨：「江戸の粋」びっしりと」 千社札貼込帖5帖：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月28日。
- ・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑩：「ありのまま」が上流」 有楽斎長秀「二代目沢村田之助のこし元千鳥」八角団扇判合羽摺：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月29日。

- ・「美博ノート 葛飾北斎「富嶽三十六景色 凱風快晴」 春信一番！写楽二番！」（静岡市美術館）『朝日新聞』東海本社版（夕刊）、9月2日。
- ・垣見窓佳「浮世絵の歴史堪能して 静岡市美術館150点を紹介」『中日新聞』静岡版、9月5日。
- ・「美博ノート 鈴木春信「やつし芦葉達磨」 春信一番！写楽二番！」（静岡市美術館）『朝日新聞』（夕刊）東海本社版、9月9日。
- ・「美博ノート 東洲斎写楽「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」 春信一番！写楽二番！」（静岡市美術館）『朝日新聞』（夕刊）東海本社版、9月16日。
- ・「浮世絵展1万人」『読売新聞』静岡版、9月19日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『新美術新聞』、No.1378。
- ・吉田恵理「Art 植物が登場するアートたち 芦に乗る美人、その実態は……ダルマ！？」『小原流挿花』、7月号。
- ・「美術館案内」『茶道雑誌』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、8月号。
- ・「美術館の注目展2015 Part2 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展」『月刊美術』、8月号。
- ・「チャンスは巡回企画展で！ 膨大な浮世絵コレクションが里帰り」『ノジュール』、8月号。
- ・「もっと身近にイイコト・イイモノ アメリカから里帰り！ 希少な浮世絵コレクションを一挙公開」『nid』、vol.40。
- ・「Culture Clips フィラデルフィアから日本に里帰り 250年経ったいまもアーティスティックな錦絵」『Discover Japan』、9月号。
- ・「美術館情報 フィラデルフィア美術館厳選の150点が一堂に！」『中日ショッパー』静岡版、Vol.2093。
- ・「同」『中日ショッパー』浜松中東遠版、Vol.2121。
- ・「展覧会紹介」『pumpkin』、9月号。
- ・「展覧会紹介」『淡交』、9月号。
- ・「ART CAFÉ 錦絵誕生250年記念でスター絵師の浮世絵大集合」『芸術新潮』、9月号。
- ・「萬美術屋 安村敏信が見て歩く 今月の逸展 No5 錦絵の誕生と、その歩みを辿る」『芸術新潮』、9月号。
- ・「展覧会後記」『浮世絵芸術』、第171号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

- 「Japan Design Net」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「artscape」、「Yahoo路線検索」、「migle」、「ぴあポイント」、「アットエス」、「和楽」

関連事業：

1) 講演会①「フィラデルフィア美術館の浮世絵－春信・写楽・千社札を中心に－」

概要：本展で出品された春信、写楽、千社札を中心に、フィラデルフィア美術館の浮世絵コレクションについて、本展監修者であり浮世絵研究の第一人者である浅野氏を招き、紹介いただいた。浮世絵がなぜ海外に多く所蔵されているのか、そして同コレクションおよび本展の特徴を、浮世絵の通史を辿りながら紹介するなど、初めて浮世絵にふれる人にも、浮世絵とは何かが明快かつ丁寧に解説された。

日時：8月23日(日)14:00－15:30

会場：多目的室 **参加者数：**96人

講師：浅野秀剛氏(あべのハルカス美術館館長／大和文華館館長)



2) 講演会②「春信の浮世絵革命－錦絵の誕生」

概要：錦絵誕生に大きく関わった絵師・鈴木春信について、浮世絵、特に春信研究の第一人者である小林氏を招いてご紹介頂いた。秘蔵のボストン美術館ス波尔ディングコレクションなど、春信画名作選ともいべきスライドとともに、春信作品の魅力を紹介した。「吾妻錦絵」とは何か、大小絵巻、錦絵の仕掛け人と享受者層、錦絵誕生の社会的背景等、浮世絵史の概説的内容もおりませた、充実した内容であった。

日時：9月5日(土)14:00－15:30

会場：多目的室 **参加者数：**110人

講師：小林忠氏(岡田美術館館長)



3) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、担当学芸員によるスライドを用いた展示解説を行った。1回目は展覧会概要や見どころを解説。2回目は「この1点をとことん語る：鈴木春信《やつし芦葉達磨》を視る」と題し、《やつし芦葉達磨》を日本・東洋の達磨図の図像史や、春信以前の浮世絵師による達磨図もふまえて読み解き、春信の魅力や特徴を解説した。

日時：①9月6日 ②9月13日 いずれも(日)14:00－14:30

会場：多目的室 **参加者数：**計78人



スライドトーク①

4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業／静岡・室内楽フェスティバル2015 ミュージアム・コンサート

「後藤幸治&水島結子 琵琶デュオ・コンサート」

※65頁を参照。



スライドトーク②

出品作品リスト

・作品No1-150はフィラデルフィア美術館蔵、特別出品はアダチ伝統木版画技術保存財団の所蔵である。
・会期中必要に応じて頁替えを行った。

第1章 錦絵以前 浮世絵版画の始まり

no.	絵師名	作品名	制作年	判型・技法	寸法 (cm)	版元
1	絵師未詳	朝鮮人曲馬の図 十二	天和3年(1683)	横大判墨摺絵	26.4×38.4	河内屋理兵衛
2	大森善清	『よろひ桜』より「紅葉狩」	元禄15-16年(1702-03)頃	墨摺画帖のうち1図	25.9×35.2	金屋平右衛門
3	初代鳥居清信	二代目市川団十郎の鳴神上人と 中村竹三郎の雲の絶間姫	正徳5年(1715)	大判丹絵	41.3×27.3	
4	二代鳥居清信	二代目市川団十郎の不破の伴左衛門と 初代瀬川菊次郎のぶれいのかく	享保19年(1734)	細判紅絵(漆絵)	32.7×15.1	伊賀屋勘右衛門
5	二代鳥居清信	げんじ五十四まいのうち 第三十九番 タ霧	享保(1716-36)期	横細判漆絵	15.7×33.8	和泉屋権四郎
6	二代鳥居清信	伊勢物語 初段「みちのく」	享保(1716-36)期	横細判漆絵	16.7×32.1	井筒屋忠左衛門
7	二代鳥居清信	今やうやくしゃふう	寛保(1741-44)期	細判紅絵	32.9×14.9	伊勢屋金兵衛
8	二代鳥居清信	はいかい五色ずみ 初代市村亀蔵の 金五郎と初代佐野川市松の小さん	延享4年(1747)	細判紅摺絵	24.4×14.9	
9	奥村政信	風雅火鉢無間鐘浮絵根元	延享(1744-48)期	横大判墨摺筆彩	29.4×43.8	奥村屋源六
10	奥村政信	芝居狂言舞台顔見せ大浮絵	延享2年(1745)	丈長春書全紙判 墨摺筆彩	44.5×66.7	奥村屋源六
11	奥村政信	半装束美人揃 小野の小町	延享・寛延(1744-51)期	細判紅摺絵	31.4×14.3	奥村屋源六(推定)
12	奥村利信	富沢門太郎の茶屋宗兵衛女房おすて	元文2-5年(1737-40)頃	細判漆絵	32.2×15.4	奥村屋源六
13	鳥居清広	雀捕り	宝暦(1751-64)期	大判紅摺絵	43.2×31.1	丸屋小兵衛
14	初代鳥居清満	初代佐野川市松の宗の井	宝暦(1751-64)後期	細判紅摺絵	29.5×14.0	丸屋小兵衛
15	初代鳥居清満	四代目市川団十郎の四郎兵衛忠信	宝暦11年(1761)	細判紅摺絵	31.0×14.0	丸屋甚八

第2章 錦絵の誕生 春信の浮世絵革命

no.	絵師名	作品名	制作年	判型・技法	寸法 (cm)	版元
16	鈴木春信	若侍の身支度	明和2年(1765)	中判錦絵	27.9×21.3	
17	鈴木春信	花魁道中	明和3年(1766)頃	中判錦絵	27.6×21.1	
18	鈴木春信	水売り	明和2年(1765)	中判錦絵	27.3×19.4	
19	鈴木春信	やつし芦葉達磨	明和2-4年(1765-67)頃	中判錦絵	27.6×21.0	
20	鈴木春信	そうめん干し	明和3-5年(1766-68)頃	中判錦絵	27.3×20.6	
21	鈴木春信	五常 智	明和4年(1767)	中判錦絵	27.8×20.8	
22	鈴木春信	三十六歌仙 藤原元真	明和4-5年(1767-68)頃	中判錦絵	27.6×20.6	
23	鈴木春信	三十六歌仙 在原業平朝臣	明和4-5年(1767-68)頃	中判錦絵	28.4×21.1	
24	鈴木春信	やつし那須与一	明和3-5年(1766-68)頃	中判錦絵	27.3×20.6	
25	鈴木春信	笛を吹く若衆	明和4年(1767)頃	中判錦絵	27.3×19.8	
26	鈴木春信	伊勢物語 武蔵野	明和4年(1767)頃	中判錦絵	27.9×22.2	
27	鈴木春信	綿摘み娘と少年	明和4-7年(1767-70)頃	中判錦絵	27.5×20.8	
28	鈴木春信	夜の訪れ	明和4年(1767)頃	中判錦絵	27.6×21.3	
29	鈴木春信	馬上の若衆	明和4-5年(1767-68)頃	中判錦絵	28.6×21.0	
30	鈴木春信	六玉川 井出の玉川	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	27.9×21.0	
31	鈴木春信	六玉川 井出の玉川(後摺)	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	27.1×19.7	
32	鈴木春信	後朝の別れ(見立羽衣)	明和4-6年(1767-69)頃	中判錦絵	28.6×21.0	
33	鈴木春信	遊女と客(林間燵酒焼紅葉)	明和5年(1768)頃	中判錦絵	27.5×20.6	
34	鈴木春信	拳遊び(やつし玉質)	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	27.0×21.3	
35	鈴木春信	松千歳の契り	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	28.4×21.3	
36	鈴木春信	風流五色墨 咫尺	明和5年(1768)頃	中判錦絵	26.7×19.1	
37	鈴木春信	風俗四季哥仙 五月雨	明和5年(1768)頃	中判錦絵	27.6×21.0	
38	鈴木春信	鼓を打つ若衆	明和5年(1768)頃	中判錦絵	27.3×20.6	
39	鈴木春信	蚊帳を吊る母子	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	26.7×19.2	
40	鈴木春信	お波お初	明和6年(1769)	中判錦絵	28.6×21.3	
41	鈴木春信	浮世美人寄花 路考娘 瞿妻	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	28.3×21.0	
42	鈴木春信	浮世美人寄花 南の方 松坂屋内野風 藤	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵	27.9×21.0	
43	鈴木春信	湖水の月(石山寺の紫式部)	明和4-7年(1767-70)頃	細判錦絵	31.8×14.9	
44	鈴木春信	文を受け取る遊女	明和(1764-72)後期	中判錦絵	28.3×20.3	
45	鈴木春信	『絵本春の錦』	明和8年(1771)	半紙本2冊	各21.9×15.6	山崎金兵衛
46	絵師未詳	やつし三酸	明和3年(1766)	中判錦絵	27.9×21.0	
47	絵師未詳	山中、童子に問う女(尋隠者不遇)	明和(1764-72)後期	中判錦絵	26.7×19.7	
48	磯田湖龍斎	風流長哥八景 白たえの暮雪	安永元年(1772)頃	中判錦絵	26.4×19.8	
49	磯田湖龍斎	遠眼鏡を見る男女	安永2年(1773)頃	中判錦絵	26.4×19.8	
50	磯田湖龍斎	雛形若菜の初模様 角玉屋内みやと	安永4-5年(1775-76)頃	大判錦絵	37.1×24.4	西村屋与八
51	絵師未詳	鴨を襲う鷹	安永・天明(1772-89)期	正面版筆彩	87.9×27.3	
52	歌川豊春	浮絵十二段管弦の図	明和4-6年(1767-69)頃	横大判錦絵	26.4×40.5	松村弥兵衛
53	歌川豊春	浮絵深川永代涼之図	安永元年(1772)頃	横大判錦絵	24.8×37.5	西村屋与八

no.	絵師名	作品名	制作年	判型・技法	寸法 (cm)	版元
54	一筆斎文調	遊女花菊	明和(1764-72)末期	細判錦絵	28.9×13.7	
55	一筆斎文調	初代中村野塩の白拍子御前	明和7年(1770)	細判錦絵	32.1×14.3	
56	一筆斎文調	二代目市川八百蔵	明和(1764-72)後期	細判錦絵	31.8×15.2	
57	伝・一筆斎文調	花見の男女	明和6-7年(1769-70)頃	横中判錦絵	20.6×27.0	
58	勝川春章	二代目市川八百蔵の曾我十郎	安永元年(1772)	細判錦絵	32.5×13.7	未詳版元
59	勝川春章	二代目嵐三五郎の工藤祐経	安永6年(1777)	細判錦絵	32.4×15.2	
60	勝川春章	初代中村仲蔵の寺岡平右衛門	安永8年(1779)	細判錦絵	31.8×14.6	
61	勝川春章	忠臣蔵十一枚続 六だんめ	安永(1772-81)後期	中判錦絵	25.7×19.4	
62	勝川春好	二代目市川八百蔵の桜丸	安永5年(1776)	細判錦絵	32.7×14.9	
63	勝川春英	初代浅尾為十郎の寺岡平右衛門、 五代目市川团十郎の大星由良之助	寛政元年(1789)	細判錦絵2枚続	各32.4×14.3	
64	勝川春英	忠臣蔵 九段目	寛政2年(1790)頃	中判錦絵	25.7×19.7	西村屋与八
65	北尾重政	今様踊絵尽 ほうらくのまい	安永(1772-81)期	小判錦絵	21.9×15.6	
66	北尾重政	やつし八景 粟津晴嵐	安永(1772-81)前期	中判錦絵	26.4×19.7	
67	北尾重政	恵比寿と子ども	安永(1772-81)期	大判錦絵	39.1×26.5	村田屋治郎兵衛
68	北尾政演	当世艶風拾形図 遊女・芸者と廻しの女	天明(1781-89)・ 寛政(1789-1801)初期	中判錦絵	25.7×18.4	

第3章 錦絵の展開 清長・歌麿・写楽—みずみずしい美人と個性的な役者たち

no.	絵師名	作品名	制作年	判型・技法	寸法 (cm)	版元
69	鳥居清長	四季八景 菊秋后月	安永(1772-81)後期	中判錦絵	24.9×19.1	西村屋与八
70	鳥居清長	山王御祭礼 平川町 山本町 四季の華まんど	安永9年(1780)	中判錦絵	25.7×18.6	西村屋与八
71	鳥居清長	菖蒲の池	天明(1781-89)中期	大判錦絵2枚続	各36.0×24.4	高津屋伊助
72	鳥居清長	吉原の花見	天明5年(1785)	大判錦絵3枚続	各39.4×25.2	西村屋与八
73	鳥居清長	源成之の席書	天明3年(1783)	大判錦絵	37.1×24.4	西村屋与八
74	鳥居清長	子宝五節遊 重陽	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵	38.4×25.7	萬屋重三郎
75	鳥居清長	三代目沢村宗十郎と送りの女	天明3-4年(1783-84)頃	細判錦絵	32.4×14.9	
76	勝川春潮	秀句合四季之花 水仙	天明(1781-89)・ 寛政(1789-1801)初期	中判錦絵	25.1×19.1	
77	勝川春潮	江都八景 角田川	天明(1781-89)・ 寛政(1789-1801)初期	中判錦絵	26.4×19.7	
78	勝川春潮	五節句 雛祭 丁子屋内巻の戸 このも かのも	寛政3-4年(1791-92)頃	大判錦絵	36.5×25.1	和泉屋市兵衛
79	初代喜多川歌麿	高名美人見立車引	寛政5年(1793)頃	小奉書全紙判錦絵	33.0×42.9	山伝
80	初代喜多川歌麿	歌撰恋之部 稀二逢恋	寛政5-6年(1793-94)頃	大判錦絵	34.9×25.2	萬屋重三郎
81	初代喜多川歌麿	青楼七小町 鶴屋内篠原 しのぶ うたの	寛政6-7年(1794-95)頃	大判錦絵	37.8×24.9	泉佐
82	初代喜多川歌麿	娘日時計 午ノ刻	寛政6-7年(1794-95)頃	大判錦絵	36.2×25.6	村田屋治郎兵衛
83	初代喜多川歌麿	江戸六玉顔 此君業に賢し	享和2年(1802)頃	大判錦絵	36.0×24.3	山口屋忠右衛門・ 忠助
84	初代喜多川歌麿	八百屋お七 小姓吉三郎	享和3年(1803)頃	大判錦絵2枚続	各40.2×26.0	鶴屋喜右衛門
85	鳥文斎栄之	福人宝合 弁財天	寛政6年(1794)頃	大判錦絵	37.3×25.2	西村屋与八
86	鳥文斎栄之	見立山桜 丁子や千山	寛政8年(1796)頃	大判錦絵	38.7×26.4	岩戸屋喜三郎
87	鳥文斎栄之	浄瑠璃十二段草子	寛政9-11(1797-99)頃	大判錦絵5枚続	各37.8×24.1	西村屋与八
88	鳥高斎栄昌	めんないちどり	寛政6-8年(1794-96)頃	大判錦絵3枚続	各39.5×26.0	和泉屋市兵衛
89	礫川亭永理	越前屋内 和国	寛政(1789-1801)後期	大判錦絵	37.9×24.8	丸屋文右衛門
90	栄松斎長喜	忠臣蔵八段目之図 三代目瀬川菊之丞の 戸無瀬と四代目岩井半四郎の小浪	寛政6年(1794)頃	間判錦絵	32.9×23.0	鶴屋喜右衛門
91	東雲	坂東亀次郎のお筆	寛政(1789-1801)末・ 享和(1801-04)期	大判錦絵	39.8×24.4	未詳版元
92	東洲斎写楽	初代大谷徳次の奴袖助	寛政6年(1794)	大判錦絵	37.8×25.1	萬屋重三郎
93	東洲斎写楽	三代目沢村宗十郎の大岸蔵人	寛政6年(1794)	大判錦絵	34.4×23.2	萬屋重三郎
94	東洲斎写楽	三代目瀬川菊之丞の田辺文蔵女房おしづ	寛政6年(1794)	大判錦絵	36.0×24.1	萬屋重三郎
95	東洲斎写楽	谷村虎蔵の鷲塚八平次	寛政6年(1794)	大判錦絵	34.6×23.0	萬屋重三郎
96	東洲斎写楽	三代目大谷鬼次の江戸兵衛	寛政6年(1794)	大判錦絵	36.8×23.0	萬屋重三郎
97	東洲斎写楽	四代目岩井半四郎の重の井	寛政6年(1794)	大判錦絵	38.1×25.6	萬屋重三郎
98	東洲斎写楽	初代尾上松助の松下造酒之進	寛政6年(1794)	大判錦絵	35.9×24.1	萬屋重三郎
99	東洲斎写楽	三代目市川高麗蔵の志賀大七	寛政6年(1794)	大判錦絵	37.8×24.8	萬屋重三郎
100	東洲斎写楽	四代目松本幸四郎の山谷の肴屋五郎兵衛	寛政6年(1794)	大判錦絵	38.1×25.1	萬屋重三郎
101	東洲斎写楽	天王寺屋里虹 (二代目山下金作の大内屋仲居 あび蔵おかね実は貞任女房岩手)	寛政6年(1794)	間判錦絵	31.8×21.6	萬屋重三郎
102	東洲斎写楽	碁盤を持ち上げる大童山	寛政7年(1795)	大判錦絵	39.1×25.2	萬屋重三郎
103	初代歌川豊国	三代目瀬川菊之丞のお染と 松本米三郎の久松	寛政8年(1796)	大判錦絵	39.1×26.0	山伝
104	初代歌川豊国	風流芸者身振姿絵 はまむらや路考	寛政9-10年(1797-98)頃	大判錦絵	37.9×24.8	萬屋重三郎
105	初代歌川豊国	御殿の奥座敷	寛政4-5年(1792-93)頃	大判錦絵3枚続	各38.1×24.9	西村屋与八
106	歌川豊広・ 初代歌川豊国	堀之内妙法寺恵方参之図	寛政12年(1800)頃	大判錦絵5枚続	各36.8×23.8	松安

第4章 錦絵の成熟 北斎・広重―旅への憧れ、花鳥への眼差し

no.	絵師名	作品名	制作年	判型・技法	寸法 (cm)	版元
107	溪斎英泉	江戸音曲歌合 新曲高尾懺悔	文政(1818-30)後期	大判錦絵	37.9×25.6	未詳版元
108	溪斎英泉	娼妓三幅対 玉屋内小式部	文政(1818-30)後期	大判錦絵	38.1×25.7	未詳版元
109	溪斎英泉	今様美人十二景 愛走がよさそう 金龍山浅草寺	文政5-6年(1822-23)頃	大判錦絵	38.1×25.7	和泉屋市兵衛
110	葛飾北斎	東海道五十三次 日本橋	文化4-5年(1807-08)頃	中判錦絵	23.2×17.5	伊勢屋利兵衛
111	葛飾北斎	東海道五十三次 蒲原	文化4-5年(1807-08)頃	中判錦絵	23.2×17.5	伊勢屋利兵衛
112	葛飾北斎	雪中松に鶴	天保4年(1833)頃	長大判錦絵	50.5×23.0	森屋治兵衛
113	葛飾北斎	富嶽三十六景 甲州三島越	天保元-3年(1830-32)頃	横大判錦絵	27.0×38.7	西村屋与八
114	葛飾北斎	富嶽三十六景 凱風快晴	天保元-3年(1830-32)頃	横大判錦絵	26.0×38.4	西村屋与八
115	葛飾北斎	諸国滝廻り 下野黒髪山きりふりの滝	天保3-4年(1832-33)頃	大判錦絵	37.6×25.7	西村屋与八
116	葛飾北斎	諸国名橋奇覧 東海道岡崎矢はぎのはし	天保4-5年(1833-34)頃	横大判錦絵	26.0×38.7	西村屋与八
117	葛飾北斎	雪月花 隅田	天保4-5年(1833-34)頃	横大判錦絵	25.7×38.3	西村屋与八
118	葛飾北斎	雪月花 淀川	天保4-5年(1833-34)頃	横大判錦絵	25.7×38.3	西村屋与八
119	葛飾北斎	雪月花 吉野	天保4-5年(1833-34)頃	横大判錦絵	25.1×37.8	西村屋与八
120	葛飾北斎	詩哥写真鏡 清少納言	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵	49.2×21.7	森屋治兵衛
121	魚屋北溪	諸国名所 伊豆千貴樋	天保5-6年(1834-35)頃	横大短冊判錦絵	17.8×38.7	西村屋与八、 中村屋勝五郎
122	魚屋北溪	諸国名所 武蔵野	天保5-6年(1834-35)頃	横大短冊判錦絵	17.5×38.3	西村屋与八、 中村屋勝五郎
123	窪俊満	とりかへばやものがたり 御丁のかたびら	文化(1804-18)期	色紙判錦絵(摺物)	20.3×17.8	
124	岳亭	大阪天満宮祭礼之図	天保4-5年(1833-34)頃	横大判錦絵	24.4×34.9	
125	岳亭	一陽連江戸名所見立十二支 巳 池の端	文政(1818-30)後期	色紙判錦絵(摺物)	21.0×18.7	
126	岳亭	一陽連江戸名所見立十二支 戌 目黒	文政(1818-30)後期	色紙判錦絵(摺物)	21.0×18.7	
127	初代歌川国貞	大坂道頓堀芝居楽屋ノ図	文政4年(1821)	大判錦絵3枚続	各38.3×76.5	西村屋与八
128	歌川国芳	風俗女水滸伝 百八番之内 林冲	文政(1818-30)末期	色紙判錦絵(摺物)	21.3×18.6	
129	歌川国芳	れっぶでん 加賀千代	天保14-弘化2年 (1843-45)頃	団扇判錦絵	17.5×23.2	伊場屋仙三郎
130	歌川国芳	かごのとりすめいろうどき	弘化2-3年(1845-46)頃	団扇判錦絵	19.1×25.1	伊場屋久兵衛
131	初代歌川広重	東都名所 亀戸天満宮境内雪	天保3-5年(1832-34)頃	横大判錦絵	25.1×37.8	佐野屋喜兵衛
132	初代歌川広重	諸国名所 宇治川はたるがりの図	天保6-7年(1835-36)頃	団扇判錦絵	22.2×29.5	伊場屋仙三郎
133	初代歌川広重	水上の鸛鴦	天保3-6年(1832-35)頃	中短冊判錦絵	37.8×13.0	
134	初代歌川広重	鴨	天保3-6年(1832-35)頃	中短冊判錦絵	37.8×12.5	川口屋正蔵
135	初代歌川広重	忠臣蔵 八段目	天保6-8年(1835-37)頃	横大判錦絵	25.4×37.5	和泉屋市兵衛
136	初代歌川広重	富士川上流の雪景	天保13年(1842)頃	大判縦2枚続	72.4×23.8	佐野屋喜兵衛
137	初代歌川広重	六十余州名所図会 阿波 鳴門の風情	安政2年(1855)	大判錦絵	36.2×24.4	越村屋平助
138	初代歌川広重	名所江戸百景 深川木場	安政3年(1856)	大判錦絵	35.1×23.5	魚屋栄吉
139	初代歌川広重	名所江戸百景 深川洲十万坪	安政4年(1857)	大判錦絵	36.5×24.4	魚屋栄吉
140	(諸家)	千社札貼込帖	天保一慶応(1830-68)期	5帖	(a)29.5×19.4 (b)29.4×19.1 (c)29.7×19.2 (d)29.5×19.4 (e)29.5×19.2	

第5章 上方の錦絵 流光斎・長秀―ありのままに描く

no.	絵師名	作品名	制作年	判型・技法	寸法 (cm)	版元
141	北尾雪坑斎	『彩色画選』	明和4年(1767)	大本3冊	各27.0×17.3	渋川大蔵、 河南四郎衛門、 須原平祐
142	翠釜亭	『翠釜亭戯画譜』	天明2年(1782)	大本1冊	26.2×16.4	
143	流光斎如圭	初代尾上新七の一色結城守	寛政5年(1793)	細判錦絵	32.7×14.3	塩屋長兵衛
144	流光斎如圭	二代目助高屋高助の黒船忠右衛門	文化2年(1805)頃	紙本着色	19.7×13.5	
145	松好斎半兵衛	二代目嵐三五郎のこそべの友春	寛政7年(1795)	細判錦絵	31.9×14.6	塩屋長兵衛
146	松好斎半兵衛	三代目中村歌右衛門の花園みちつね	文化3年(1806)	細判錦絵	30.5×17.5	塩屋長兵衛
147	蘭好斎	七代目片岡仁左衛門のから木政右衛門、 初代嵐猪三郎のいしどめ武助	文化8年(1811)	細判錦絵2枚続	30.3×13.5、29.8×12.7	塩屋長兵衛
148	有楽斎長秀	二代目嵐吉三郎の猿まはし与次郎	寛政10年(1798)	細判合羽摺	34.7×14.9	柏屋宗七
149	有楽斎長秀	二代目沢村田之助のこし元千鳥	文化4年(1807)	八角団扇判合羽摺	26.9×26.4	未詳版元
150	絵師未詳	俳優姿錦絵	天保3-6年(1832-35)頃	大判錦絵	37.5×25.1	浪華書林 地本問屋
特別 出品	アダチ伝統木版画技術保存財団版《富嶽三十六景 凱風快晴》版木(復刻)・摺り順序・彫摺道具一式					アダチ伝統木版画 技術保存財団蔵

2-4 静岡市美術館開館5周年記念
ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展
絵本をひらくと

会期：10月10日(土)～11月23日(月・祝)

概要：絵本美術館の先駆けとして1977年に開館したいわさきちひろ絵本美術館(現ちひろ美術館・東京、その後1997年に安曇野ちひろ美術館が開館)は、子どもたちの表情を鮮やかに描きだしたいわさきちひろ(1918-1974)の作品をはじめ、2万6千点を超える世界各国の絵本画家たちの作品を収集・展示している。本展ではその中から、いわさきちひろ、赤羽末吉、長新太、茂田井武を中心に、荒井良二やスズキコージなど日本人作家16人、海外からはエリック・カールやモーリス・センダック、ブライアン・ワイルドスミス、マーク・シモントなど32人、計48人の絵本画家の作品約200点を紹介した。

絵本をひらくとあらわれる、時代や国境、文化を超えて存在するイメージや、あらゆる感覚にひらかれた絵本をとおして、子どもの頃のみずみずしい記憶を再発見できる構成にした。そして、印刷物としての絵本とはまた違った、原画の持つ魅力を紹介した。

巡回先：なし(自主企画展)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、ちひろ美術館、テレビ静岡、中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、静岡リビング新聞社、K-mix、中日ショッパー

協力：静岡図書館友の会、静岡市立図書館、静岡県立中央図書館

特別協賛：静岡トヨタ

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70歳以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金
※障害者手帳をご持参の方および介助に必要な方は無料

観覧者数：41,836人(有料27,668人、無料14,168人、有料率66.1%)

出品点数：229点(うち資料展示29点)

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4) 70,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：マットコート 135kg (B1)、ミセスBスーパーホワイト 110kg (B2)、マットコート 110kg (B3)
サイズ・数量：B1 110部(うち40枚はJR帯つき)、
B2 2,000部、B3 3,000部(うち400枚はJR帯つき)



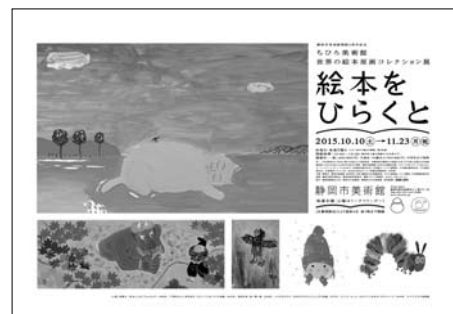
チラシ表面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：
<仕様>222×200mm、191頁



カタログ表紙

カラー図版208点
参考図版(カラー32点、モノクロ121点)

松居 直「絵本がめざめるとき」※再録
上島史子「ちひろ美術館コレクションについて」
土井章史「てなわけで 長 新太の方法」
池谷裕二「絵本の記憶」
安岡真理「絵本をひらくと」

画家略歴・作品リスト・作品解説／主要参考文献 等

編集：静岡市美術館(安岡真理、森谷紗世)
監修・協力：ちひろ美術館
発行：静岡市美術館
発行年：2015年

普及ツール：
1)保護者向け親子ガイド
当館初の試みとして、保護者に向けた親子ガイドを作成。鑑賞の手助けとなるポイントをまとめ、親子で対話をしながら鑑賞できる仕組みとした。

<仕様>紙：上質 90kg
サイズ・加工・数量：210×445.5mm (仕上210×148.5mm)
じゃばら折り10,000部



表



裏

2)本展オリジナルしおりと缶バッジ
ファミリー層向けの事前広報ツールとして、出品作品の『まねっこねこちゃん』を型抜きしたしおりを制作。裏面にはクイズを記載した。市内のこども園・小学校の全園児・児童の他、市内書店等店舗、静岡市および浜松市立の図書館等を中心に配布した。なお、会期中にしおりを持参した裏面クイズの正解者にはオリジナル缶バッジをプレゼントした。

制作物：
◆しおり
<仕様>紙：ライトスタッフGA-FS 135kg
サイズ・加工・数量：150×75mm 型抜き 130,000枚



しおり表



しおり裏

◆缶バッジ
<仕様>φ32mm 全3種 利用者数：3,957人



缶バッジ①



缶バッジ②



缶バッジ③

各種連携：
1)近隣店舗との連携
葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、特別メニューの提供を行った。

印刷物：
◆チラシ
<仕様>紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

2)市内図書館との連携

本展と読書週間(10月27日～11月9日)にあわせ、市内14の図書館で出品作品の絵本コーナーを設置するフェアを、また市立中央図書館及び県立中央図書館では関連展示が開催された。当館でもフェアを告知するチラシを作成し、来場者に告知した。この他、図書館フェスタでの学芸員の出張スライドトークや図書館友の会の広報誌への原稿執筆も行った。出張スライドトークの詳細は、67頁を参照。

印刷物：

◆告知チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 10,000部

※裏面は展覧会関連事業告知を掲載。



チラシ



主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「いわさきちひろ」や「はらぺこあおむし」 世界の絵本原画コレクション展」テレビ静岡『しずおか！てっぺんアワー みんなのニュースしずおか』、10月9日放送。
- ・「静岡 絵本原画の展覧会」NHK静岡放送局『県内ニュース』、10月10日放送。
- ・「ライブペインティング／展覧会紹介」テレビ静岡『てっぺん静岡』、10月12日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-たじみ『pipi っとcafé：お出かけマップ』、10月12日放送。
- ・「いわさきちひろ」や「長新太」 絵本画家の原画展 1万人達成」テレビ静岡『FNNスピーク静岡』、10月16日放送。

2)新聞

- ・「絵本の原画が待ってるよ ちひろ美術館所蔵展 10日開幕 静岡市美術館 学芸員立ち合い展示」『中日新聞』静岡版、10月8日。
- ・安岡真理「思い出す あのこと あす静岡市美術館で開幕 11月23日まで ちひろ美術館世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」『中日新聞』静岡版、10月9日。
- ・荒木正親「幼き日ひらく ちひろ美術館コレクション展きょう開幕 静岡市美術館で内覧会」『中日新聞』静岡版、10月10日。
- ・「葵区 絵本を原画展に合わせ展示」『静岡新聞』、10月17日。
- ・長谷川隆「絵本原画作品展観覧1万人突破 静岡市美術館」『毎日新聞』静岡版、10月17日。
- ・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介①：イメージの源流 探る 赤羽末吉《だいくとおにろく》表紙 1962年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月18日。
- ・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介②：色づかいを楽しんで 長新太《ゴムあたまポンたろう》表紙 1998年 ちひろ美術館蔵」『中日新聞』静岡版、10月19日。
- ・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介③：子どものころの感覚 茂田井武《我ハ野ノ鳥》 1946年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月20日。
- ・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介④：母のまなざし いわさきちひろ《あめのひのおるすばん》より 1968年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月21日。
- ・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介⑤：リズムミカルな色 エリック・カール《はらぺこあおむし》のイメージ 1999年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月22日。
- ・「ゆったり 童心の世界 静岡市美術館 11月23日まで ちひろ美術館世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」『中日新聞』静岡版、10月30日。
- ・「好評 3万人が観覧 静岡市美術館 世界の絵本原画展」『中日新聞』静岡版、11月14日。

3)雑誌他

- ・安岡真理「『絵本をひらくと』展の準備をしながらおもうこと」『静岡図書館友の会 会報』、第14号。
- ・「十月の旅指南：展覧会紹介」『ひととき』、10月号。
- ・「情報ボックス：芸術の秋！親子で絵本の世界を感じよう」『幼稚園』、11月号。
- ・「展覧会紹介」『MOE (モエ)』、11月号。
- ・「子どもの頃のみずみずしい記憶を再発見：ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」『Hot Pepper』静岡・清水版、11月号。
- ・坂本淳子「絵本研究の動向－2015年1～12月の文献目録より：図

録』『絵本BOOKEND』、2016年。

4)ウェブサイト等

媒体名のみ記載

「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「絵本ナビ」、「やまねこ翻訳クラブ」、「Yahoo路線検索」、「artscape」、「Pen Online」、「DAKKO」、「和楽」、「おとなスタイル」、「kodomoe」、「まちぼ」、「アットエス」、「ぴあポイント」



11月13日 3万人達成

関連事業：

1)講演会「絵本の絵の読み方ー世界の絵本画家とちひろの絵」

概要：ちひろ美術館常任顧問で、いわさきちひろの御子息である松本氏を招き、同館のコレクションをはじめ、美術館設立に至るまでの経緯や、国内外の収蔵作家との交流等もお話しいただいた。また母として、画家としてのちひろについても、貴重な写真や作品画像とあわせて紹介された。

日時：10月10日(土)13:00-14:30

会場：多目的室 参加者数：110人

講師：松本猛氏(ちひろ美術館常任顧問、絵本学会会長)

主要広報記録：

◆新聞

・「講演会紹介」『中日新聞』静岡版、10月11日。



2)スズキコージのライブペインティング

概要：本展出品作家で、静岡県出身の絵本画家スズキコージ氏による公開制作。丸2日間、ほとんど休むことなく続けられ、会場である多目的室には多くの観衆が集まった。なお完成した2×3mの作品は会期中館内にて展示し、出品作家の制作風景を間近で見ることのできる、貴重な機会となった。

日時：10月11日(日)・12日(月・祝) いずれも10:30-18:00

※作家休憩時は不在。

会場：多目的室 参加者数：計8,211人

講師：スズキコージ氏(絵本画家)

主要広報記録：

◆新聞

・神谷円香「浜松の絵本画家ライブペイント 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、10月12日。

・「戦争からの解放鮮やかに 静岡市美術館 スズキコージさん作品展示」『静岡新聞』(夕刊)、11月12日。



制作中の様子



完成作

3)絵本を楽しむおはなし会

概要：会期中展示室内にて、静岡図書館友の会による出品作品の絵本の読み語りを行った。小道具を使った演出や、キーボード演奏、抑揚に富んだ朗読など、各回グループごとの特色が表れていた。また、合間には幼児を意識した手遊びも行われた。

日時：10月17日・24日・31日、11月7日・14日・21日

いずれも(土) A.13:30- B.14:30- (各回30分程度)

会場：展示室内「絵本の森」 **参加者数：**計926人

参加料：展覧会観覧料 **朗読協力：**静岡図書館友の会

内容：①『まねっこねこちゃん』 ②『かいじゅうたちのいるところ』 ③『みんなでしようよ』 ④『へそもち』 ⑤『おふろでちゃぶちゃぶ』 ⑥『わたしのワンピース』 ⑦『キャベツくん』 ⑧『こぶじいさま』 ⑨『はなをくんくん』 ⑩『にぎりめしごろごろ』 ⑪『あめのひのおるすばん』 ⑫『ゴムあたまボンたろう』 ⑬『はらぺこあおむし』 ⑭『ひとりでするよ』 ⑮『おんぶおんぶ ねえおんぶ』 ⑯『だいくとおにろく』 ⑰『でんしゃえほん』 ⑱『ふきまんぶく』 ⑲『もじゃもじゃしたもの なーに?』 ⑳『スーホの白い馬』 ㉑『あかちゃんのうた』 ㉒『こんにちは!へんてこライオン』 ㉓『なつのあさ』 ㉔『ももたろう』 ㉕『ゆきのひのたんじょうび』 ㉖『つきよ』 ㉗『てぶくろ』 ㉘『舌ながばあさん』 ㉙『ユックリとジョジョニ』 ㉚『プタとタコのダンス』 ㉛『あまがさ』 ㉜『やまのディスコ』 ㉝『かさじぞう』

10月17日：A.①②③④ B.⑪⑫⑬⑭ 24日：A.⑤⑥⑦⑧ B.⑮⑯

17⑱ 31日：A.①⑨⑩③ B.⑲⑳㉑

11月7日：A.㉒㉓㉔㉕ B.⑲⑳㉑ 14日：A.⑤⑥⑦⑧ B.③④

㉖㉗ 21日：A.⑥⑦⑧ B.㉘㉙㉚

主要広報記録：

◆新聞

・松野穂波「原画展作品の読み聞かせ ちひろと世界の絵本に心優しく 静岡市美術館 児童「主人公になった気分」」『中日新聞』静岡版、10月18日。

印刷物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 10,000部

※片面には市内図書館連携事業案内を記載。



チラシ



4)当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、担当学芸員によるスライドを用いた展示解説を行った。出品作品や作家に関する解説だけでなく、「絵本とは何か」という本展のコンセプトについても深く掘り下げ紹介した。

日時：10月25日、11月15日 いずれも(日)14:00-

会場：多目的室 **参加者数：**計94人



5)テレビ静岡アナウンサーの絵本読み語り会

概要：本展共催のテレビ静岡アナウンサーによる絵本の読み語り会。出品作品の絵本を、アナウンサー2名が交互に朗読した。読み語りの合間には、担当学芸員が作品解説を行い、出品作品への理解を深めた。

日時：10月31日(土)11:00-11:30

会場：展示室内「絵本の森」 **参加者数：**106人

参加料：展覧会観覧料

出演：鈴木敏弘氏、本谷育美氏(いずれも テレビ静岡アナウンサー)



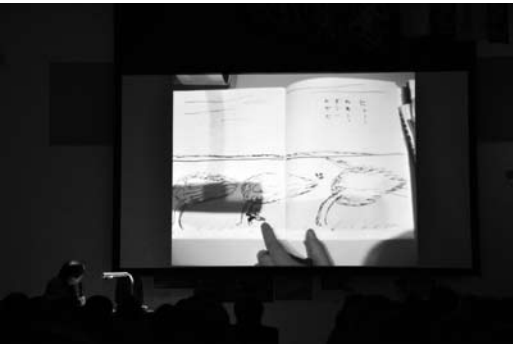
6)講演会「長新太とボク」

概要：これまでに300冊以上の絵本を企画・編集した土井氏が、出品作家・長新太の魅力について語る講演会。本展図録に執筆いただいた論考「てなわけで 長新太の方法」の内容を、さらに掘り下げ展開された。また、編集者としての長氏との交流を支えながら、出品作品の長氏直筆の東見本や、アトリエに飾られていた遺品など貴重な資料も紹介された。

日時：11月22日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：103人

講師：土井章史氏(絵本編集者・トムズボックス代表)



出品作品リスト

- ・作品はすべてちひろ美術館蔵
 - ・作家名については、海外の作家のみ国名も併記した。
 - ・作品タイトルで『 』内にあるものは絵本のタイトルを指す。
 - また海外作品は絵本タイトルの原語もしくは英訳を表記した。
- ・出版年について、海外作品は邦訳版の初版年を優先して記載した。
 - ・制作年が不明な場合は初版年を記載した。
 - ・支持体について、洋紙以外のものは支持体を記載した。
 - ・寸法は縦×横の順で記載した。

1. イメージはどこからくるの？

No.	図録No.	作家名	作品タイトル	作者・訳者名(出版社、初版年)	制作年	支持体(洋紙以外の場合)	寸法(mm)
1	1	赤羽末吉	『かきじぞう』 ([「こどものとも」1961年1月号])	瀬田貞二・再話(福音館書店、1961) ※1966 単行本として刊行	1960	和紙に墨・日本画絵具・コンテ	345×464
2	2	赤羽末吉	『つるによぼう』	矢川澄子・再話(福音館書店、1979)	1979	和紙に日本画絵具・墨	307×533
3	3-1	赤羽末吉	『スーホの白い馬』(改訂版)	大塚勇三・再話(福音館書店、1967)	1967	和紙に日本画絵具	273×690
	3-2					和紙に日本画絵具	272×675
	3-3					和紙に日本画絵具	271×663
	3-4					和紙に日本画絵具	271×678
	3-5					和紙に日本画絵具	270×687
4	4-1	赤羽末吉	『だいぐとおにろく』 ([「こどものとも」1962年6月号])	松居直・再話(福音館書店、1962) ※1967 単行本として刊行	1962	和紙に日本画絵具・墨	238×558
	4-2					和紙に日本画絵具・墨	242×560
	4-3					和紙に日本画絵具・墨	242×560
5	5-1	赤羽末吉	『こぶじいさま』 ([「こどものとも」1964年1月号])	松居直・再話(福音館書店、1964) ※1980 単行本として刊行	1964	和紙に日本画絵具・墨	225×563
	5-2					和紙に日本画絵具・墨	227×562
	5-3					和紙に日本画絵具・墨	225×563
6	6-1	赤羽末吉	『ももたろう』	松居直・再話(福音館書店、1965)	1965	和紙に日本画絵具・墨	263×274
	6-2					和紙に日本画絵具・墨	243×454
	6-3					和紙に日本画絵具・墨	245×455
	6-4					和紙に日本画絵具・墨	255×460
	6-5		『ももたろう』のダミー			鉛筆・水彩	245×205
	6-6~9					鉛筆・水彩	265×205
7	7-1	赤羽末吉	『へそもち』 ([「こどものとも」1966年8月号])	渡辺茂男・文(福音館書店、1966) ※1980 単行本として刊行	1966	和紙に日本画絵具・墨	585×240
	7-2					和紙に日本画絵具・墨	590×240
	7-3					和紙に日本画絵具・墨	575×248
	7-4		『へそもち』のダミー			鉛筆・インク・水彩	200×330
8	8-1	赤羽末吉	『鬼ぞろぞろ』	舟崎克彦・文(偕成社、1978)	1978	和紙に日本画絵具・墨	322×452
	8-2					和紙に日本画絵具・墨	323×450
9	9	赤羽末吉	『ほうまんの池のカッパ』	椋鳩十・文(銀河社、1975)	1975	和紙に日本画絵具	350×485
10	10-1	赤羽末吉	『おへそがえる・ごん①』	赤羽末吉・作(福音館書店、1986)	1986	和紙に墨・日本画絵具	230×510
	10-2		『ばんこつやまのぼんたごんたの巻』			和紙に墨・日本画絵具	228×495
11	11-1	赤羽末吉	『にぎりめしごろごろ』 ([「こどものとも」1984年1月号])	小林輝子・再話(福音館書店、1984) ※1994 単行本として刊行	1984	和紙に日本画絵具・墨	255×580
	11-2					和紙に日本画絵具・墨	255×585
12	12-1	赤羽末吉	『ひかりの素足』	宮沢賢治・文(偕成社、1990)	1990	和紙に日本画絵具・墨	410×485
	12-2					和紙に日本画絵具・金泥	422×530
13	13	モーリス・センダック(アメリカ)	『かいじゅうたちのいるところ』のイメージ	Design for Silk Scarf Representing a Wild Thing	1988	布に水彩・インク	700×760
14	14	ベッカ・ヴォリ(フィンランド)	『巨人のはなし』 Jättiläiset	マルヤ・ハルコネン・再話 坂井玲子・訳 (福武書店、1985)	1981	グワッシュ・油性インク・コラージュ	298×362
15	15	武 建華(中国)	『舌ながばあさん』	千葉幹夫・文(小学館、2001)	2001	砂金宣紙に中国画絵具	323×630
16	16	ジェラルド・マクダーモット(アメリカ)	『太陽へとぶ矢』 Arrow to the sun	ジェラルド・マクダーモット・作 神宮輝夫・訳(ほるぷ出版、1975)	1974	グワッシュ・コラージュ	465×766
17	17	ジャン・ギョクニル(トルコ)	病気の魔除け Hastaliki Muskasi		1997	キャンバスにアクリル	550×1950
18	18	タチヤーナ・マーヴリナ(ロシア)	『ロシアの昔話』より 『イワン王子とはいいろ狼』 Русские Народные Сказки	イリーナ・カルナウーホワ・再話 内田莉莎子・編・訳 (福音館書店、1989)	1950	グワッシュ・クレヨン・コラージュ	484×652
19	19	タチヤーナ・マーヴリナ(ロシア)	ものしりネコ Кот учений		1963	グワッシュ・コラージュ	529×388

No.	図録No.	作家名	作品タイトル	作者・訳者名(出版社、初版年)	制作年	支持体(洋紙以外の場合)	寸法(mm)
20	20-1 20-2	エフゲニー・ラチョフ (ロシア)	『てぶくろ』 <i>Рукавичка</i>	ウクライナ民話 内田莉莎子・訳 (福音館書店、1965)	1950	水彩・クレヨン 水彩・クレヨン	352×243 357×290
21	21	エロール・ル・カイン (イギリス)	『魔術師キャッツ』 <i>Mr. Mistoffelees with Mungojerrie and Rumpelteazer</i>	T・S・エリオット・文 田村隆一・訳 (ほるぶ出版、1991)	1990	水彩・インク	294×414
22	22	ドゥシャン・カーライ (スロヴァキア)	『魔法のなべと魔法のたまご』 <i>Zaubertopf und Zauberkugel</i>	バルバラ・バルトス・ヘップナー・文 遠山明子・訳(ほるぶ出版、1990)	1989	アクリル・グワッシュ・鉛筆	292×677

2. 色をたのしむ

No.	図録No.	作家名	作品タイトル	作者・訳者名(出版社、初版年)	制作年	支持体(洋紙以外の場合)	寸法(mm)
23	23-1 23-2 23-3	長 新太	『ゴムあたまボンたろう』	長 新太・作(童心社、1998)	1998	グワッシュ グワッシュ グワッシュ	453×364 433×563 433×564
24	24-1 24-2 24-3・4	長 新太	『まねっこねこちゃん』	長 新太・作(ベネッセコーポレーション、 1996)※2003 文溪堂より復刊	1996	グワッシュ グワッシュ グワッシュ	468×664 468×393 470×664
25	25-1 25-2	長 新太	『ムニャムニャゆきのバス』	長 新太・作(ほるぶ出版、1991) ※2007 偕成社より復刊	1991	グワッシュ グワッシュ	468×660 467×660
26	26-1 26-2	長 新太	『はるですよ ふくろうおばさん』	長 新太・作(講談社、1977) ※2006 講談社より復刊	1977	グワッシュ・クレヨン グワッシュ・クレヨン	360×371 424×786
27	27-1 ～3	長 新太	『おんぶおんぶねえおんぶ』	長 新太・作(ボプラ社、2005)	2005	グワッシュ	360×546
28	28-1 28-2 28-3	長 新太	『ブタとタコのダンス』 ([「おはなしブーカ」2003年10月号より])	長 新太・作(学習研究社、2003) ※2005 単行本として刊行	2003	グワッシュ グワッシュ グワッシュ	400×366 400×610 400×611
29	29-1・2	長 新太	『しんくんとへんてこライオン』	長 新太・作(小学館、1995)	1995	グワッシュ	452×640
30	30-1 30-2	長 新太	『こんにちばへんてこライオン』	長 新太・作(小学館、2004)	2004	グワッシュ グワッシュ	437×640 452×640
31	31	長 新太	『もじゃもじゃしたものなーに?』	長 新太・作(文研出版、1975 ※1994講談社、改訂版)	1975	グワッシュ	360×513
32	32-1 32-2	長 新太	『キャベツくん』	長 新太・作(文研出版、1980)	1980	グワッシュ・鉛筆 グワッシュ・鉛筆	395×545 393×543
33	33-1 33-2 33-3	長 新太	『ちへいせんのみえるところ』	長 新太・作(エイプリル・ミュージック、 1978)※1998 ビリケン出版より復刊	1978	グワッシュ グワッシュ グワッシュ	413×582 415×543 412×524
34	34-1 ～3	長 新太	『つきよ』	長 新太・作(教育画劇、1986)	1986	グワッシュ	463×660
35	35-1 35-2	長 新太	『くもの日記ちょう』	長 新太・作(ビリケン出版、2000)	2000	グワッシュ グワッシュ	480×390 477×630
36	36-1 36-2 36-3 36-4 36-5	荒井良二	『ユックリとジョジョニ』	荒井良二・作(ほるぶ出版、1991)	1991	アクリル アクリル アクリル アクリル アクリル	440×346 373×325 428×590 426×587 427×590
37	37-1 37-2 37-3 ～5	荒井良二	『モンテロッソのピンクの壁』	江國香織・文(ほるぶ出版、1992)	1992	アクリル アクリル アクリル	436×380 452×380 464×380
38	38	スズキコージ	やまのディスコティック		2013	キャンバスにアクリル	2130×1930
39	39	中谷千代子	『スガさんの やぎ』	ドーデー・原作 岸田衿子・文 (偕成社、1966)	1966	キャンバスボードに 油彩・インク・鉛筆	315×345
40	40	田島征三	『ふきまんぶく』	田島征三・作(偕成社、1973)	1973	泥絵具	361×437
41	41-1 41-2	瀬川康男	『虫のわらべうた』 ([「こどものとも」1986年8月号])	斎藤たま・採録(福音館書店、1986) ※1991 特製版として刊行	1986	和紙に日本画絵具・墨・マーカー 和紙に日本画絵具・墨・マーカー	373×550 378×547
42	42-1 42-2	フセイン・ジャマアーン (スーダン)	『魔法のビーズ』 <i>The Magic Bead</i>		1997	水彩 水彩	270×270 292×289
43	43	セイフ・エディーン・ロウタ (スーダン)	『ゲーム』 <i>Games</i>		1984	水彩・インク・コラージュ	348×412
44	44	ミロスラウ・ツィバル (スロヴァキア)	『ふしぎな白樺の木』 <i>Zázračná Breza</i>	Ďuričková Mária・文(Pravda、1981)	1980	水彩・鉛筆	323×255
45	45	イレネ・サヴィーノ (ヴェネズエラ)	『ひかりがうまれたとき』 <i>El Dueño de la Luz</i>	イヴォネ・リバス・文 みやかわけんじ・訳 (新世研、2000)	1994	水彩・ガッシュ	332×656
46	46	ウェン・シュウ(コスタリカ)	『ナディとシャオラン』 <i>Nadi & Xiao Lan</i>		2008	水彩・切り絵・コラージュ	558×770
47	47-1 47-2 47-3	クヴィエタ・パツオウスカー (チェコ)	『すずの兵隊』 <i>S tatečný cínový vojaček</i>		1985 1985 1985	リトグラフによる限定版絵本 リトグラフ リトグラフ	300×213×26 292×402 293×410
48	48	クヴィエタ・パツオウスカー (チェコ)	レイヤーズ <i>Layers</i>		1989	リトグラフ	700×792

No.	図録No.	作家名	作品タイトル	作者・訳者名(出版社、初版年)	制作年	支持体(洋紙以外の場合)	寸法(mm)
49	49-1	エリック・バトゥー (フランス)	『もしもゆきがあかだったら』 <i>Si la neige était rouge</i>	エリック・バトゥー・作 本城和子・訳 (フレーベル館、2003)	2002	アクリル	413×510
	49-2				2002	アクリル	417×540
50	50-1	マイ・ミトゥーリッチ(ロシア)	『おしゃべりはえの子ぶんぶんこちゃん』 <i>Myxa-Цокотуха</i>	コルネイ・チュコフスキー・文 佐伯靖子・訳(読売書社、1992)	1985	リトグラフ・水彩	383×563
	50-2				1985	リトグラフ・水彩	388×563
51	51	エリック・カール(アメリカ)	『はらぺこあおむし』のイメージ Image from <i>The Very Hungry Caterpillar</i>		1999	アクリル・コラージュ・クレヨン	1015×812
52	52	エリック・カール(アメリカ)	ピンクの象 Pink Elephant		1972	アクリル・コラージュ・クレヨン	280×255
53	53	エリック・カール(アメリカ)	画材としての薄紙			薄紙にアクリル	
54	54	デビッド・マッキー (イギリス)	『エルマーとカンガルー』 <i>Elmer and the Stranger</i>	デビッド・マッキー・作 きたむらさとし・訳 (BL出版、2002)	2000	グワッシュ・色鉛筆・鉛筆	380×575
55	55	ブライアン・ワイルドスミス (イギリス)	『さかな』 <i>Fishes</i>	ブライアン・ワイルドスミス・作 渡辺茂男・訳(らくだ出版、1969)	1967	アクリル・グワッシュ・鉛筆	250×596
56	56-1	ヴラスター・バラーンコヴァー (チェコ)	『コンスタンチン』 <i>Konstantin</i>	Gerda Wagener・文 (bohem press、1989)	1989	色紙にパステル・グワッシュ	306×412
	56-2				1989	色紙にパステル・グワッシュ	306×415
57	57	マーク・シモント(アメリカ)	『はなをくんくん』 <i>The Happy Day</i>	ルース・クラウス・文 木島始・訳 (福音館書店、1967)	1949	コンテ・グワッシュ	504×760

3. 息づく子どもの頃の感覚

No.	図録No.	作家名	作品タイトル	作者・訳者名(出版社、初版年)	制作年	支持体(洋紙以外の場合)	寸法(mm)
58	58	茂田井武	『我ハ野ノ鳥』		1946	水彩	382×272
59	59-1・2	茂田井武	絵物語『宝船』		1939	水彩	242×186
60	60	茂田井武	画帳『シネマトグラフの影響』		1946-1947	折本に水彩	各見開き185×160
61	61-1・2	茂田井武	画帳『幼年画集』I・II		1946-1947	折本に水彩	各見開き120×175
	61-3	茂田井武	画帳『幼年画集』III		1946-1947	折本に水彩	見開き155×175
62	62	茂田井武	手製絵本『巴里の子供』		1946	水彩	(表紙)270×195 各見開き270×390
63	63	茂田井武	駄菓子屋		1947	水彩	260×365
64	64	茂田井武	ピアノ、ラッパ、ゲックゲックウレシクテタマラナイ(『あひるのぼうや』のイメージ)		1947	水彩	270×240
65	65	茂田井武	クマ、ジープ、デンジャ、ハネ		1949	水彩	380×280
66	66	茂田井武	かそぎょうれつ(『キンダーブック』1956年2月号より)(フレーベル館、1956)		1955	キャンバスに油彩	320×685
67	67	茂田井武	とりよせのおじさん(『キンダーブック』1956年5月号より)(フレーベル館、1956)		1956	キャンバスに油彩	380×455
68	68	茂田井武	すてんどぐらす(『キンダーブック』1954年11月号より)(フレーベル館、1954)		1954	水彩・クレヨン	333×465
69	69	茂田井武	こんやはよみや(『キンダーブック』1956年9月号より)(フレーベル館、1956)		1956	水彩	305×420
70	70-1	谷内こうた	『なつのあさ』	谷内こうた・作(至光社、1970)	1970	グワッシュ	250×250
	70-2		(『こどものせかい』1970年8月号より)	※1970単行本として刊行		グワッシュ	192×192
71	71-1	井上洋介	『でんしゃえほん』	井上洋介・作(ピリケン出版、2000)	2000	グワッシュ	298×427
	71-2					グワッシュ	360×490
72	72-1~3	西巻茅子	『わたしのワンピース』 ※1969年出版時のオリジナルリトグラフにもとづいて、2002年画家自身の手で制作し直された。	西巻茅子・作(こぐま社、1969)	2002	リトグラフ	380×567
73	73	ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド)	『森のコンサート』 <i>Waldkonzert</i>	Kurt Baumann・文 (bohem press、1979)	1979	色紙にアクリル・インク・パステル	240×492
74	74-1	ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド)	『すきすきだいすき』 <i>Leopanter</i>	ビョートル・ヴィルコン・文 泉千穂子・訳 (セーラー出版、1992)	1991	色紙にパステル	331×476
	74-2					色紙にパステル	317×456
75	75	ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド)	『魔法の森』 <i>W zaklętym borze</i>	Danuta Wawitow i Oleg Usenko・文 (Nasza Księgarnia、1985)	1985	色紙にグワッシュ、パステル	471×242
76	76-1~3	ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド)	ふぐ Globe Fish / えい Ray / 深海魚 Strange Deep-sea Fish	1993 / 1994 / 1994		メタル・アクリル	全長145 / 420 / 255
77	77	ユゼフ・ヴィルコン (ポーランド)	ドアの前の犬 The Dog in front of the Door		1995	木に着彩	犬 高さ490×幅230×奥行550 / ドア 高さ1950×幅850
78	78-1	ユーリー・ノルシュテイン& フランチェスカ・ヤールブソフ (ロシア)	『きりのなかのはりねずみ』 <i>Ежик в Тумане</i>	ユーリー・ノルシュテイン、セルゲイ・コスロフ・作 フランチェスカ・ヤールブソフ・絵 児島宏子・訳(福音館書店、2000)	2000	水彩・混合技法	308×430
	78-2					水彩・混合技法	307×430
	78-3					水彩・混合技法	308×426
79	79	ユリー・シュルヴィッツ (アメリカ)	『あめのひ』 <i>Rain Rain Rivers</i>	ユリー・シュルヴィッツ・作 矢川澄子・訳 (福音館書店、1972)	1969頃	インク・水彩	253×561
80	80	八島太郎(アメリカ)	『あまがさ』のイメージ	Image from <i>Umbrella</i>	1965	パステル・コンテ・グワッシュ	660×485
81	81	ジョン・バーニンガム (イギリス)	『おじいちゃん』 <i>Granpa</i>	ジョン・バーニンガム・作 谷川俊太郎・訳 (ほるぶ出版、1985)	1984	色鉛筆・水彩・インク・鉛筆	313×642
82	82	アーノルド・ローベール (アメリカ)	『ふたりはいっしょ』のイメージ	Image from <i>Frog and Toad Together</i>	1980	水彩・インク・鉛筆	400×293
83	83	マーロン・ケリナド (バプアニューギニア)	『原生林で育って』 <i>Growing up in a Virgin Forest</i>		1999	墨	302×430
84	84	ハンヌ・タイナ(フィンランド)	『女の子と木と鏡』 <i>Tyttö Puu ja Peili</i>	Raija Siekkinen・文(Otava、1987)	1987	水彩・グワッシュ	353×445
85	85	岡本帰一	学校ごっこ(『こどもノクニ』1926年3月号より)(東京社、1926)		1925	水彩・鉛筆	270×394
86	86	初山滋	「とりのふきよせ」(『こどものせかい』1962年4月号より)(至光社、1962)		1962	水彩	384×548
87	87	武井武雄	人形の夢		1930代半ば	水彩・インク	200×295
88	88	ケイト・グリーンナウェイ (イギリス)	花束を運ぶ子どもたち Children Carrying Flowers down a Village Street		1876頃	水彩	170×400
89	89	ランドルフ・コールデコット (イギリス)	『ジョン・ギルピンのゆかいなお話』 <i>The Diverting History of John Gilpin</i>	ウィリアム・クーパー・文 吉田新一・訳 (ほるぶ出版、1985)	1878	多色刷木版	226×394
90	90	ウォルター・クレーン(イギリス)	『牧神パンの笛の調べ：古謡集』 <i>Pan Pipes: A Book of old Songs</i>		1883	多色刷石版	220×308

4. 母のまなざしーいわさきちひろ

*…ビエゾグラフィ作品

No	図録No	作家名	作品タイトル	作者・訳者名(出版社、初版年)	制作年	支持体(洋紙以外の場合)	寸法(mm)
91	91	いわさきちひろ	伊勢丹ポスター		1950代前半	印刷物	
92	92	いわさきちひろ	ヒゲタ醤油ポスター		1960代半ば	印刷物	
93	93	いわさきちひろ	『ひとりのできるよ』(「こどものとも」1957年3月号)	小林純一・文(福音館書店、1957)	1956	水彩・鉛筆	355×480
94	94	いわさきちひろ	『みんなでしようよ』(「こどものとも」1957年7月号)	小林純一・文(福音館書店、1957)	1957	水彩	357×486
95	95	いわさきちひろ	入園式(「キンダーブック」1958年4月号より)(フレーベル館、1958)		1957	水彩	318×437
96	96	いわさきちひろ	チューリップのなかの男の子(「こどものせかい」1966年4月号より)(至光社、1966)		1965	水彩・鉛筆	318×318
97	97	いわさきちひろ	「かわいいかくれんぼ」(「こどものうたうた」より)(実業之日本社、1965)		1965	水彩・鉛筆	329×278
98	98*	いわさきちひろ	十五夜の月(「あいうえおブック6」より)(世界文化社、1965)		1965	水彩・鉛筆	357×483
99	99	いわさきちひろ	貝がらと赤い帽子の少女(カレンダー1968年版7・8月)		1967	水彩	726×346
100	100*	いわさきちひろ	ききょうと子どもたち(「こどものせかい」1967年9月号より)(至光社、1967)		1967	水彩・鉛筆	336×595
101	101	いわさきちひろ	小犬と雨の日の子どもたち(「こどものせかい」1967年7月号より)(至光社、1967)		1967	水彩・鉛筆・クレヨン	343×357
102	102-1	いわさきちひろ	『あかいくつ』	アンデルセン・原作 神沢利子・文 (偕成社、1968)	1968	水彩・鉛筆	367×483
	102-2					水彩・鉛筆	358×484
	102-3					水彩・鉛筆	347×483
	102-4~6					水彩・鉛筆	359×483
103	103-1	いわさきちひろ	『あめのひのおるすばん』 (「こどものせかい」1968年6月号より)	いわさきちひろ・作 武市八十雄・案 (至光社、1968)※1968単行本として刊行	1968	水彩・鉛筆	300×600
	103-2					水彩・鉛筆	316×229
	103-3					水彩	301×598
	103-4*					水彩・鉛筆	298×256
	103-5					水彩・鉛筆	297×308
104	104	いわさきちひろ	傘と子どもたち(カレンダー1970年版6月)		1969	水彩・鉛筆	483×357
105	105	いわさきちひろ	夏の宵の白い花と子ども(「子どものしあわせ」1969年7月号より)(草土文化、1969)		1969	水彩・鉛筆	240×180
106	106	いわさきちひろ	雪のなかを走る子ども(「子どものしあわせ」1971年1月号より)(草土文化、1971)		1970	水彩・鉛筆	241×201
107	107*	いわさきちひろ	帽子の少女(「子どものしあわせ」1970年8月号より)(草土文化、1970)		1970	パステル・水彩	335×241
108	108		立てひざの少年(「子どものしあわせ」1974年6月号より)(草土文化、1974)		1970	パステル・水彩	483×357
109	109-1		『おふろでちゃぶちやぶ』	松谷みよ子・文(童心社、1970)	1970	水彩・鉛筆	278×483
	109-2*					水彩	269×484
110	110*	いわさきちひろ	チューリップとあかちゃん(広告)		1971	水彩・鉛筆	331×231
111	111	いわさきちひろ	ビーズの指輪をしたあかちゃん		1971頃	水彩・鉛筆	241×179
112	112*	いわさきちひろ	おつむてんてん		1971	水彩・鉛筆	241×358
113	113	いわさきちひろ	枯葉と赤い服の少女(カレンダー1972年版10-12月)		1971	水彩・鉛筆	272×199
114	114	いわさきちひろ	わらびを持つ少女(『あかまんとうげ』)	岩崎京子・文(童心社、1972)	1972	水彩・鉛筆	360×240
115	115-1	いわさきちひろ	『ゆきのひのたんじょうび』 (「こどものせかい」1973年1月号より)	いわさきちひろ・作 武市八十雄・案 (至光社、1973)※1973単行本として刊行	1972	水彩・鉛筆	386×545
	115-2					水彩・鉛筆	385×648
	115-3					水彩・鉛筆	362×544
	115-4					水彩	327×361

資料展示

●3章 茂田井武

茂田井武	「こども雑誌」第7号表紙	1947.5月号	白鳥書院
茂田井武	『あひるのぼうや』関 英雄・文	1948	二葉書房
茂田井武	「キンダーブック」11集12編	1957.3月号	フレーベル館

●3章 イギリスの絵本の歴史

ケイト・グリーンウェイ(イギリス)	『マリーゴールド・ガーデン』 <i>Marigold Garden</i>	1885
ランドルフ・コールデコット (イギリス)	『ジョン・ギルピンの愉快なお話』 <i>The Diverting History of John Gilpin</i>	1878
ウォルター・クレーン(イギリス)	『フローラの宴会』 <i>FLORA'S FEAST</i>	1890

●3章 日本の絵本の草創期

村山知義	「子供之友」11巻3号	1924.3月号	婦人之友社
清水良雄	「赤い鳥」5巻5号	1933.5月号	赤い鳥社
武井武雄	「コードモクニ」6巻6号	1927.6月号	東京社
岡本帰一	「コードモクニ」7巻4号	1928.4月号	東京社
初山滋	「コードモクニ」12巻13号	1933.11月号	東京社

●3章 世界の絵本

ヴィルヘルム・ブッシュ(ドイツ)	『マックスとモーリッツ』 <i>Mat und Moritz Streichen</i>	1865
ブーテ・ド・モンヴェル(フランス)	『ジャンヌ・ダルク』 <i>Jeanne d'arc</i>	1896
イワン・ビリーピン(ロシア)	『うるわしのワシリーサ ロシア昔話から』 <i>Washirisa izKrasiva</i>	1901
ビアトリクス・ボター (イギリス)	『ベンジャミンバニーのおはなし』 <i>The Tale of Benjamin Bunny</i>	1904
アーサー・ラッカム(イギリス)	『ケンジントン公園のピーターパン』 <i>Peter Pan in Kensington Garden</i>	1906
エルンスト・クライドルフ(スイス)	『花を棲みかに』 <i>Lenzgesind</i>	1926
ウラジミール・レーベデフ(ロシア)	『昨日と今日』 <i>Вчераи сегодня</i>	1927
ワンダ・ガアグ(アメリカ)	『100まんびきのねこ』 <i>Millions of Cats</i>	1928
ジャン・ド・ブリュノフ(フランス)	『ババールとサンタ』 <i>Babar et le Noel</i>	1941
ブルーノ・ムナーリ(イタリア)	『どうぶつはいかか?』 <i>Animals for Sale</i>	1957

●4章 いわさきちひろ

いわさきちひろ	『ひとりのできるよ』「こどものとも」	1957.3月号 福音館書店 小林純一・文
いわさきちひろ	『よいこのくに』第6巻第4号	1957.7月号 チャイルド社
いわさきちひろ	「キンダーブック」13集1編	1958.4月号 フレーベル館
いわさきちひろ	「こどものせかい」18巻11号	1966.4月号 至光社
いわさきちひろ	「キンダーブック」24集1編	1969.4月号 フレーベル館
いわさきちひろ	『にんぎょひめ』	1967 偕成社 アンデルセン・原作 そのあやこ・訳
いわさきちひろ	『ことりのくるひ』	1971 至光社 いわさきちひろ・絵と文 武市八十雄・案
いわさきちひろ	『戦火のなかの子どもたち』	1973 岩崎書店 いわさきちひろ・作

2-5 静岡市美術館開館5周年記念
静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画
芹沢銈介生誕120年記念展
しあわせの色 たのしい模様

会期：12月5日(土)～1月11日(月・祝)

概要：人の心を楽しませ、幸せにする、膨大な量の作品を残した芹沢銈介。その生誕120年に当たる2015年、当館および静岡市立芹沢銈介美術館は、異なる切り口から芹沢銈介の展覧会を行った。芹沢銈介美術館では、芹沢銈介の着物、屏風、のれん、帯地、間仕切といった染色作品の代表作約100点を、ゆったりとした配列の中で展示した。当館では、のれんやふきん、装幀本、カレンダー、うちわ、書票・燐票(マッチのラベル)など、生活にかかわる芹沢銈介のデザイン約500点を展示し、偉大なデザイナーとしての側面を紹介した。両館を観覧することで、芹沢銈介の壮大な創作世界を来場者に体感してもらい、今も人の心を楽しませ続ける、芹沢作品の魅力を伝えることを目指した。

共同企画：静岡市立芹沢銈介美術館
会期：12月5日(土)～3月13日(日)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：清水銀行

観覧料：一般 700円(500円)
大高生・70歳以上 500円(400円)
中学生以下無料
※()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金
※障害者手帳をご持参の方および介助に必要な方は無料

観覧者数：7,502人(有料4,936人、無料2,566人、有料率65.8%)

出品点数：278件(当館展示分のみ)

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 115kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4)55,000部

2)ポスター

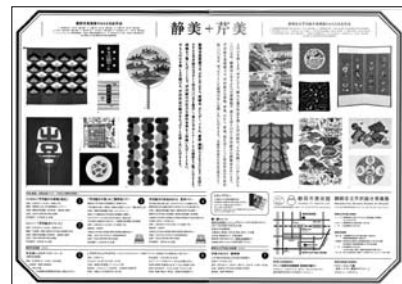
＜仕様＞紙：MT^{A+}-FS 135kg (各サイズ共)

サイズ・数量：B1 110部(うち40枚はJR帯つき)、

B2 2,000部、B3 2,735部(うち400枚はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞210×297mm、161頁



カタログ表紙

カラー図版364点

参考図版(カラー9点、モノクロ18点)

白鳥誠一郎「芹沢銈介について」

年譜／芹沢銈介の型染／主要文献目録(2005年以降)／出品リスト

編集・発行：静岡市美術館、静岡市立芹沢銈介美術館

発行年：2015年

普及ツール：

1)DM兼スタンプシートの配布、スタンプラリーの実施

展覧会の周知と、静岡市立芹沢銈介美術館との回遊性を図るべく、DMを兼ねたスタンプシートを作成。静岡市内の小学5・6年生および市内店舗等に配布した。展覧会観覧の持参者には、裏面に各館でスタンプを押印、2館とも鑑賞された方には、オリジナルグッズセット2種のうち、いずれか一方をプレゼントした。

印刷物：

◆DM兼スタンプシート

＜仕様＞紙：MT^{A+}-FS 200kg

サイズ・加工・数量：150×100mm 型抜き加工

40,000枚



表



裏

◆スタンプラリープレゼント

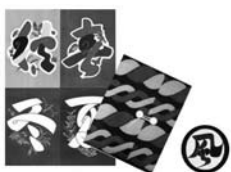
＜内容＞

①「風」セット

紙バッグ(A4サイズ)、ポスター (B2サイズ)、缶バッジ(φ25mm)

②「壺」セット

紙ファイル(A4サイズ)2種、缶バッジ(φ25mm)



「風」セット



「壺」セット

引換数：計817個

2)片道バス無料券プレゼント

静岡市美術館で本展をご観覧いただいた方に、会期中使用可能なJR静岡駅から静岡市立芹沢銈介美術館までのバス片道乗車券をプレゼントした。

対象区間：静岡駅南口(22番線)石田街道線 静岡駅南口→下車：登呂遺跡または登呂遺跡入口

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、特別メニューの提供を行った。

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」静岡放送『sole いいね!』、12月2日放送。
- ・「2つの美術館で同時開催 「しあわせの色 たのしい模様」展」静岡放送『SBS News』、12月11日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『TCNワイド』、12月11日放送。
- ・「展覧会紹介」FMしみず『マリンパル ほっとライン』、12月24日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡放送『sole いいね』、1月9日放送。

2)新聞

- ・白鳥誠一郎「魔法の手、多面的な業績 芹沢銈介生誕120年記念展 「しあわせの色 たのしい模様」 5日から2館共同開催」『静岡新聞』、12月1日。
- ・「鮮やかな芹沢芸術 静岡市内2美術館、5日開幕」『静岡新聞』、12月3日。
- ・「染色の美 壮さ紹介 芹沢銈介展きょう開幕 静岡の2美術館」『静岡新聞』、12月5日。
- ・「芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色たのしい模様 静岡市美術館」『富士ニュース』20858号、12月9日。

関連事業：

1)記念講演会「芹沢銈介の表現と視点」

概要：日本民藝館館長でプロダクトデザイナーの深澤氏に、芹沢銈介の仕事デザイナーとしての視点から解釈したお話をいただいた。優れたデザイナーは、世の中の大多数の考えていることを察知し、それらに欠けている部分を補うように発想するということが芹沢の作品を例にして説かれた。また、芹沢銈介が型染めという制限のある表現を選んだのは自我から遠ざかろうとするためだったのではないかといったことが、自らデザイナーとして活動してきた講師の経験を交えて語られた。後半は質疑応答にあてられ、芹沢の作品の色彩について、デザインが社会に対して果たす役割についてなど幅広い話題が挙がった。

日時：12月5日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**128人

講師：深澤直人氏(日本民藝館館長、デザイナー)

主要広報記録：

◆新聞

- ・「芹沢銈介魅力語る 静岡市美術館 デザイナー深澤氏講演」『静岡新聞』、12月6日。

2)キニナルスキニナルプロジェクト

「芹沢銈介の家」お二階拝見ツアー

概要：「しあわせの色 たのしい模様」展に合わせて実施。当館を起点とし、芹沢銈介美術館へバスで移動。5人ずつのグループにわかれ、日頃は公開していない「芹沢銈介の家」の2階を芹沢銈介美術館の学芸員の解説つきで見学した。その後当館へ戻り、展覧会を見学してもらった。

日時：12月12日(土)13:00-17:00

場所：静岡市立芹沢銈介美術館および当館展示室

参加者数：20人 **講師：**白鳥誠一郎氏(静岡市芹沢銈介美術館学芸員)

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『サライ』、12月号。
- ・「静岡の2館が開催する芹沢銈介展」『美しいキモノ』、冬号。
- ・「展覧会情報 暮らしに美を求めて」『いけ花龍生』、12月号。
- ・「Exhibition Spot 今月の展覧会50+ 代表的な仕事と活動の側面を同時に」『ギャラリー』、12月号。
- ・「展覧会紹介」『ゆうゆう』、1月号。
- ・「今月の展覧会」『MOE』、1月号。
- ・「着物や屏風だけじゃない。デザイナー、芹沢銈介のモダンな作品にうなる」『Precious』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『手づくり手帖』、vol.7 初冬号。
- ・「展覧会紹介」『レタスクラブ』、vol.835。
- ・「展覧会紹介」『月刊ブレン』、1月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「静岡市ホームページ」、「まちぼ」、「静岡観光コンベンション協会ホームページ」、「Japan Design Net」、「ぴあポイント」、「Yahoo路線検索 サイドバナー広告」、「artscape サイドバナー広告」、「静岡市facebook」、「LIVERARY」、「和楽」、「Pen Online」



主要広報記録：

◆新聞

・「芹沢銈介の魅力 調度品にも 駿河区 「家」2階見学ツアー」
『静岡新聞』、12月13日。

3) 記念セミナー「芹沢銈介について」

概要：静岡市立芹沢銈介美術館の学芸員である白鳥氏に、芹沢銈介や、芹沢作品の魅力についてお話しいただいた。芹沢の仕事を「画家」「デザイナー」等4つに分け、それぞれの代表的な作品を例として、その素晴らしさが語られた。遺族や弟子等作家に近い人々とも接してきた専門館の学芸員ならではの体験談も交えられ、展覧会および芹沢についての理解の助けとなった。

日時：12月19日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：58人

講師：白鳥誠一郎氏(静岡市立芹沢銈介美術館学芸員)

主要広報記録：

◆新聞

・「多才 芹沢銈介の魅力紹介 葵区 特別展にちなみ学芸員講演」
『静岡新聞』、12月20日。



4) 学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを実施した。芹沢銈介の模様の特徴や、型染および染紙の技法について、展示作品を例に解説した。

日時：12月20日(日)14:00-

会場：展示室 参加者数：24人

参加料：展覧会観覧料



5) キニナルスキニナルプロジェクト

芹沢銈介の作品をめぐる 見学ツアー

概要：「しあわせの色 たのしい模様」展に合わせて実施。当館集合後、静岡市民文化会館へ移動し、芹沢銈介美術館の学芸員の解説つきで中ホールの緞帳を見学した。緞帳のデザインのモチーフとなった、旧「静岡市歌」を聴きながら鑑賞したり、舞台上上がり、緞帳の裏面を観察するなどした。その後当館で開催中の展覧会の見学も行った。

日時：12月23日(水・祝)13:00-17:00

場所：静岡市民文化会館中ホールおよび当館展示室

参加者数：21人

講師：白鳥誠一郎氏(静岡市立芹沢銈介美術館学芸員)

主要広報記録：

◆新聞

・「芹沢銈介作品 間近に 静岡で見学ツアー 最大級の緞帳鑑賞」
『静岡新聞』、12月24日。



出品作品リスト

- ・寸法は原則として縦×横(着物の場合は丈×裾)
- ・所蔵先の表記のないものはすべて静岡市立芹沢鈺介美術館蔵。
- ・染色法の不明なものは材質のみを記した。

第一章 模様の世界

吉祥の色とかたち

No	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵先
1	雪持笹に松梅文着物	1966	絹(縮緬)に型染	168×66	
2	富士の日の出文のれん	1950	木綿に型染	92×84	株式会社すずや
3-1	丸文鶴亀のれん	1950頃	木綿に型染	127×87	
3-2	卓布 大「鶴亀文」	不詳	木綿に型染	38.5×93.5	
4	鶴亀松竹梅文のれん	1955頃	木綿に型染	89×100	株式会社すずや
5	鶴松竹梅文のれん	1956	木綿に型染	100×80	株式会社すずや
6	宝尽し文のれん	1960頃	木綿に型染	102.5×88	株式会社すずや
7	「すゞや・寿」の字のれん	1960	木綿に型染	109×93	株式会社すずや
8	「すゞや・松竹梅」文のれん	1960頃	木綿に簡描	108×89	株式会社すずや
9	喜の字のれん	1965頃	木綿に型染	101×85	株式会社すずや
10	喜の字のれん	1970頃	木綿に型染	126×76	
11	松竹梅文のれん	1970頃	木綿に型染	124×86	
12	福の字のれん	不詳	木綿に型染	85.5×91	株式会社すずや
13	寿の字風呂敷	不詳	木綿に型染	69×68.5	

あらゆるものを模様

No	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵先
14	柳文のれん	1935	マダ布に型染	100×73	株式会社すずや
15	筍文のれん	1955頃	麻に型染	91×98	株式会社すずや
16	牡丹文のれん	1960	麻に型染	109×72	株式会社すずや
17	落葉文のれん	1963頃	絹(紬)に型染	104.5×70	株式会社すずや
18	梅にうぐいす文のれん	1960頃	絹(紬)に型染	107×71	株式会社すずや
19	縄のれん文のれん	1955	木綿に型染	124×88	株式会社すずや
20	手箒文帯地	1958	絹(縮緬)に型染	幅36.8	柏市
21	棚の上の壺文のれん	1970	木綿に型染	105×80	株式会社すずや
22	駒文のれん	1966	木綿に型染	101×90	株式会社すずや
23	登り窯文のれん	1953頃	山藁に型染	98×78	株式会社すずや
24	窯出し文のれん	1957	マダ布に型染	109×71	株式会社すずや
25	機文のれん	1955	木綿に型染	110×98	株式会社すずや
26	染屋文のれん	1960	木綿に型染	84×70	株式会社すずや

文字をデザインする

No	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵先
27	和の字のれん	1955頃	木綿に型染	84×92	株式会社すずや
28	春の字のれん	1954頃	木綿に型染	90×84	株式会社すずや
29	水に鯉文のれん	1955	麻に型染	103×82	株式会社すずや
30	水の字のれん	1955頃	木綿に型染	79×90	株式会社すずや
31	山の字のれん	1955頃	木綿に型染	90×92	株式会社すずや
32	風の字	1957	木綿に型染	101.5×74.5	柏市
33	いろは文四曲屏風	1958	麻に型染	100×172.6	柏市
34	華の字	1960	木綿に型染	121.5×73.5	柏市
35	しおみちて文のれん	1965頃	木綿に型染	94.5×69	株式会社すずや

単純化・反復

No	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵先
36	ひょうたん文のれん	1963頃	木綿に型染	100×90	株式会社すずや
37	ぼんどり図のれん	1965頃	木綿に型染	101.5×68	株式会社すずや
38	扇面文のれん	1965頃	麻に型染	101×91	株式会社すずや
39	耳付き壺文のれん	1970	木綿に型染	106×89.2	
40	立涌幾何文壁掛	1956	木綿に型染	156.5×133	
41	筍文帯地	1958	絹(紬)に型染	幅36	柏市
42	柳文間仕切	1960	麻に型染	198×155	
43	松文間仕切	1960	木綿に型染	179×170.5	
44	波文部屋着	1976	麻に型染	119×68.6	柏市

第二章 書物の装い

No	題名	発行年	サイズ (cm)	発行、その他補足
45-1	『工藝』創刊号	1931	菊判	聚楽社
45-2	『工藝』第5号	1931	菊判	聚楽社
45-3	『工藝』第7号	1931	菊判	聚楽社
45-4	『工藝』第10号	1931	菊判	聚楽社
45-5	『工藝』第12号	1931	菊判	聚楽社
45-6	『工藝』帙1(創刊号～第12号)	1932	24×17×12	
45-7	『工藝』第61号	1936	菊判	日本民藝協会
45-8	『工藝』第62号	1936	菊判	日本民藝協会
45-9	『工藝』第63号	1936	菊判	日本民藝協会
45-10	『工藝』第64号	1936	菊判	日本民藝協会
45-11	『工藝』第65号	1936	菊判	日本民藝協会
45-12	『工藝』第66号	1936	菊判	日本民藝協会
45-13	『工藝』第67号	1936	菊判	日本民藝協会
45-14	『工藝』第68号	1936	菊判	日本民藝協会
45-15	『工藝』第69号	1936	菊判	日本民藝協会
45-16	『工藝』第70号	1936	菊判	日本民藝協会
45-17	『工藝』第71号	1936	菊判	日本民藝協会
45-18	『工藝』第72号	1937	菊判	日本民藝協会
45-19	『工藝』第105号	1942	菊判	日本民藝協会
45-20	『工藝』第109号	1942	菊判	日本民藝協会
45-21	『工藝』第111号	1942	菊判	日本民藝協会
45-22	『工藝』第117号	1947	菊判	靖文社
46	式場隆三郎著『ファン・ホッホの生涯と精神病(上・下)』(特製)	1932	四六倍判	聚楽社(特製100部)
47	中村芦郎著『歌集 日本平』	1932	四六判	谷島屋書店静岡支店
48	内田百閒著『百鬼園隨筆』(特製)	1933	B6判	三笠書房(特製1000部)
49	式場隆三郎著『バーナード・リーチ』	1934	B5判	建設社
50	柳宗悦著『美と工藝』	1934	A5判	建設社
51	P.ガッシュ編、式場隆三郎訳『印象派画家の手紙』	1935	菊判	耕進社
52	川端康成著『雪国』	1937	四六判	創元社
53	川端康成『川端康成選集』第1巻(特製)	1938	四六判	改造社(特製160部)
54	式場隆三郎著『二笑亭綺譚』(特製)	1939	菊判	昭森社(特製50部、ほか並製)
55	金田一京助、杉山寿栄男編『アイヌ藝術』第1巻、第3巻	1941、43	A4判	第一青年社
56-1	式場隆三郎著『ロートレック 生涯と藝術』(特製)	1942	菊判	二見書房(特製180部)
56-2	式場隆三郎著『ロートレック 生涯と藝術』(並製)	1942	菊判	二見書房
57	H.バイコフ著 香川重信訳『我等の友達』	1943	B6判	文藝春秋社
58-1	式場隆三郎著『民藝と生活』(私家版・和紙本)	1944	四六倍判	北光書房(私家版100部)
58-2	式場隆三郎著『民藝と生活』(普及版)	1943	A5判	北光書房
59	白洲正子著『お能』	1943	A5判	昭和刊行会
60	上村六郎著『戦時の本染』	1944	四六判	靖文社
61	式場隆三郎著『文学的診療簿』	1947	A5判	かに書房
62	演田徳太郎著『和紙つれづれ』	1948	A5判	靖文社
63	駒井清次郎著『日本の限定本』	1952	B5判	書物展望社
64	柳宗悦著『蒐集物語』	1956	菊判	中央公論社
65	佐藤春夫著『自選 佐藤春夫全集』第1巻	1956	菊判	河出書房
66-1	窪田空穂著『万葉秀歌(上)』(日本秀歌第1巻)	1956	四六判	春秋社
66-2	窪田空穂著『平安秀歌 前期』(日本秀歌第3巻)	1957	四六判	春秋社
66-3	土岐善麿著『鎌倉室町秀歌』(日本秀歌第5巻)	1957	四六判	春秋社
66-4	植松壽樹著『江戸秀歌』(日本秀歌第6巻)	1959	四六判	春秋社
66-5	松村英一著『大正秀歌』(日本秀歌第8巻)	1957	四六判	春秋社
66-6	橋本徳壽著『現代秀歌 戦前』(戦前日本秀歌第9巻)	1956	四六判	春秋社
66-7	川田順著『戦国武将歌』(日本秀歌第12巻)	1957	四六判	春秋社
67	野尻抱影著『星の方言集 日本の星』	1957	四六判	中央公論社
68-1	愛書家サロン同人編『限定本図録』(超特製)	1959	四六倍判	愛書家サロン(超特製8部)
68-2	愛書家サロン同人編『限定本図録』(特製)	1959	四六倍判	愛書家サロン(特製100部、ほか並製1000部)
69	山崎豊子著『ぼんち』	1960	菊判	新潮社
70	今東光著『はぜくら』	1961	四六判	中央公論社
71	佐藤春夫著『極楽から来た』	1961	講談社	菊判
72	海音寺潮五郎著『人斬り彦斎』	1961	四六判	新潮社
73	獅子文六著『楢根山』	1962	四六判	新潮社
74	外村吉之介著『沖縄の民芸』	1962	菊判	倉敷民藝館
75	海音寺潮五郎著『実説武俠伝』	1962	四六判	新潮社

No	題名	発行年	サイズ(cm)	発行、その他補足
76	獅子文六著「可否道」	1963	四六判	新潮社
77	庄司浅水著「わが愛書の記」	1963	A5判	帖面社
78	安部栄四郎著「紙すき五十年」(特製)	1964	菊判	東峰出版(特製150部)
79	石坂洋次郎著「金の糸・銀の糸」	1964	四六判	集英社
80	獅子文六著「南の男」	1964	四六判	新潮社
81	『染もの全書』	1965(1957初版)	B5判	婦人画報社
82	水上勉著「京の川」	1965	四六判	新潮社
83	ヘルマン・ホイヴェルス著「細川ガラシア夫人」	1966	B6判	春秋社
84	武田泰淳著「十三妹」	1966	四六判	朝日新聞社
85	川口松太郎著「悪源太郎」	1967	B6判	新潮社
86	獅子文六著「獅子文六全集」第2巻	1969	四六判	朝日新聞社
87	海音寺潮五郎著「海音寺潮五郎全集」第21巻	1971	四六判	朝日新聞社
88	芹沢銈介監修・柚木沙弥郎他編「形染集」	1969	B4判	三一書房
89	寿岳文章・しづ著「寿岳文章・しづ著作集」1～4、6	1970	四六判	春秋社
90	俵有作著「日本の風」(特製)	1970	B4判変型	菊華社(特製50部)
91	丹羽文雄著「顔」	1970	四六判	毎日新聞社
92	丹羽文雄著「古里の寺」	1971	四六判	講談社
93	鹿間時夫・中屋惣舜編「こけし辞典」	1971	四六判	東京堂出版
94-1	安部栄四郎著「和紙三昧」(特製)	1972	菊判	木耳社(特製200部)
94-2	安部栄四郎著「和紙三昧」(並製)	1972	菊判	木耳社
95	柳宗悦著「新装 柳宗悦選集」第3巻～第10巻	1972	四六判	春秋社
96	柳宗悦著「私版本柳宗悦集」第3巻～第5巻	1974	菊判	春秋社
97	武田泰淳著「中国小説集」第1巻～第5巻	1974	四六判	新潮社
98	外村吉之介著「續民芸遍歴」	1974	四六判	朝日新聞社
99	海音寺潮五郎著「平将門」一	1975	B6判	朝日新聞社
100	八木佐吉著「書物往来」(並製)	1975	菊判	東峰書房
101	『芹沢銈介装幀集』第6集	1970	48×39.5	吾八(木綿、和紙に型染)

第三章 身近ないろどり、染紙

No	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	発行、その他補足	所蔵先
102	昭和26(1951)年カレンダー	1950	和紙に型染	38×29		
103	昭和27(1952)年カレンダー	1951	和紙に型染	29×38		
104	昭和28(1953)年カレンダー	1952	和紙に型染	38×29		
105	昭和31(1956)年カレンダー	1955	和紙に型染	38×29	9月、12月は1995年復刻	
106	昭和32(1957)年カレンダー	1956	和紙に型染	38×29		
107	昭和33(1958)年カレンダー	1957	和紙に型染	38×29		
108	昭和34(1959)年カレンダー	1958	和紙に型染	38×29	9月、10月は1998年復刻	
109	昭和35(1960)年カレンダー	1959	和紙に型染	38×29		
110	月曆回顧二曲屏風	1954	葛布に型染、 二曲一隻屏風に貼交	181.5×176		東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館
111	昭和37(1962)年カレンダー (4月～6月)	1961	和紙に型染	52×35.5		
112	昭和37(1962)年カレンダー (7月～9月)	1961	和紙に型染	52.5×35.7		
113	昭和37(1962)年カレンダー (7月～9月 布染)	1961	和紙に型染	48×35		
114	昭和43(1968)年カレンダー (1月～2月)	1967	和紙に型染	53×46.7		
115	昭和39(1964)年卓上カレンダー	1963	和紙に印刷	15.5×9		
116	昭和40(1965)年卓上カレンダー	1964	和紙に印刷	14×9		
117	うちわ	不詳	和紙に型染	各41.3×29.2		個人蔵
118	うちわ	不詳	和紙に型染	各41.3×29.2		
119-1	飾り扇子「寿」	不詳	和紙に型染	38.3×56		
11-2	飾り扇子「波文」	不詳	和紙に型染	38.5×56		
119-3	飾り扇子「丸文」	不詳	和紙に型染	38.3×56		
120	カルトン「山水文」	1931頃	絹に型染	31.7×25		
121	カルトン「幾何文」	1950年代	和紙に型染	52.8×40.5		
122	カルトン「伊作紙漉村文」	1950年代	和紙に型染	51.2×40		
123	カルトン「山水の字」	不詳	和紙に型染	51.2×40		
124	アルバム「松竹梅文」	不詳	和紙に型染	18.8×25.5		
125	アルバム「幾何文」	不詳	和紙に型染	30.2×25.5		
126	アルバム「丸文松梅文」(藍)	不詳	和紙に型染	30.3×25.5		
127	アルバム「丸文松梅文」(赤)	不詳	和紙に型染	30.2×25		
128	スターレーンのスコア・ファイル	不詳	和紙に型染	35×29.5		
129	スターレーンのアルバム	不詳	和紙に型染	34.5×29.5		
130-1	品書 八雲	不詳	和紙に木版	18.2×41.9		

No.	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	発行、その他補足	所蔵先
130-2	品書 八雲	不詳	和紙に木版	18.1×41.8		
130-3	品書 八雲	不詳	紙に印刷	11.2×11.5		
131-1	品書 ざくろ	不詳	和紙に型染	21.5×29.7		
131-2	メニュー ざくろ	不詳	和紙に型染	17.9×28.2		
132	メニュー	不詳	和紙に型染	32×42		
133	メニュー (市松模様)	不詳	和紙に型染	33.7×43.5		
134-1	染紙「松竹梅文」	不詳	和紙に型染	33.3×42.1		
134-2	染紙「松竹梅文」	不詳	和紙に型染	36.3×42.5		
134-3	染紙「松竹梅文」	不詳	和紙に型染	36.7×42.6		
135-1	メニュー 「蕨垂文」	不詳	和紙に型染	39.4×53.6		
135-2	メニュー 「蕨垂文」	不詳	和紙に型染	39.4×53.5		
136-1	掛紙 寿司福	不詳	和紙に型染	26×38.5		
136-2	ランチョンマット「菊・紅葉文」	不詳	和紙に型染	33×44		
136-3	ランチョンマット「山水の字」	不詳	和紙に型染	32.5×44		
136-4	ランチョンマット「松竹梅文」	不詳	和紙に型染	33.5×44		
137	型染包装紙	不詳	和紙に型染	各50.5×65		
138-1	シルクスクリーン「竹波文」(白地に赤模様)	不詳	和紙にシルクスクリーン	64×95		
138-2	シルクスクリーン「竹波文」(白地に黒模様)	不詳	和紙にシルクスクリーン	64.5×95		
138-3	シルクスクリーン「幾何文・矢」(黄地に黒模様)	不詳	和紙にシルクスクリーン	64×94		
138-4	シルクスクリーン「幾何文」(白地に青模様)	不詳	和紙にシルクスクリーン	64×95		
138-5	シルクスクリーン「丸文小紋」(緑地に黒模様)	不詳	和紙にシルクスクリーン	64×94.5		
138-6	シルクスクリーン「草花文」(グレー地に赤模様)	不詳	和紙にシルクスクリーン	64.5×95		
139	マッチ箱各種	1955頃	紙に印刷	各5.6×4.8		東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館
140-1	『小型絵一』	1978	和紙に型染	19.5×15	吾八、限定200部	
140-2	『小型絵二』	1978	和紙に型染	19.5×15	吾八、限定200部	
140-3	『小型絵三』	1979	和紙に型染	19.5×15	吾八、限定200部	
140-4	『小型絵四』	1979	和紙に型染	19.5×15	吾八、限定200部	
140-5	『小型絵五』	1979	和紙に型染	19.5×15	吾八、限定200部	

第四章 美のある暮らし

No.	題名	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵先
141	摺りぼかしカーテン地	1962	木綿に摺りぼかし	610.5×129.5	
142	摺りぼかしカーテン地	1962	木綿に摺りぼかし	485.1×86.7	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
143	摺りぼかしカーテン地	1962	木綿に摺りぼかし	575.1×87.3	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
144	幾何文カーテン地	1963	木綿に型染	579×90.5	
145	幾何文カーテン地	1963	木綿に型染	580.5×93	
146	蕨垂文カーテン地	1963頃	木綿に型染	577.6×91.7	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
147	幾何文カーテン地	1963頃	木綿に型染	586×88.5	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
148	うろこ文カーテン地	1963頃	木綿に型染	604.8×91	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
149	破れ格子文カーテン地	1963頃	木綿に型染	532.2×88.5	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
150	木の字	1971	麻に型染	55×45	
151	卓布 大「葉文」	不詳	木綿に型染	38.5×93.5	
152-1	卓布 小「達磨と鯛」	不詳	木綿に型染	23.5×41.5	
152-2	卓布 小「春夏秋冬」	不詳	木綿に型染	23.5×46.5	
152-3	卓布 小「柳文」	不詳	木綿に型染	23.5×46.5	
152-4	卓布 小「菊文」	不詳	木綿に型染	23.5×40.5	
153-1	ふきん「ふきん」(渡辺日進堂製)	不詳	木綿	34.2×43.2	
153-2	ふきん「丸文」(渡辺日進堂製)	不詳	木綿	35×43.5	
153-3	ふきん「富貴運」(渡辺日進堂製)	不詳	木綿	35.2×41.5	
153-4	ふきん「魚文」(渡辺日進堂製)	不詳	木綿	35.8×39	
154-1	ふきん「寿の字」	不詳	木綿	34×44.5	
154-2	ふきん「魚文」	不詳	木綿	33.3×44	
154-3	ふきん「幾何文(長方形 茶)」	不詳	木綿	33.5×45	
154-4	ふきん「幾何文(縞 茶・青)」	不詳	木綿	33.8×46	
154-5	ふきん「幾何文(四角 青・黄)」	不詳	木綿	33.5×45	
154-6	ふきん「幾何文(縞 青・鼠)」	不詳	木綿	33.5×45.5	
154-7	ふきん「幾何文(長方形 茶・黄)」	不詳	木綿	33×40.8	
155	大丸・日本民藝館展ポスター	1955	和紙に型染	76.5×49	
156	大丸・日本民藝館展ポスター	1960	紙に印刷	73.2×52	
157	観光の静岡県ポスター	1961	和紙に型染	58×43	
158	JALパンフレット	1957頃	紙に印刷	各23.3×10	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

No	題名	制作年	技法	サイズ (cm)	所蔵先
159	JALカレンダー表紙	1958	紙に印刷	27.7×41.5	
160-1	東京タカシマヤ友の会誌「ローズサークル」昭和43年1月号	1968	紙に印刷	22.5×11	
160-2	東京タカシマヤ友の会誌「ローズサークル」昭和43年2月号	1968	紙に印刷	22.5×11	
160-3	東京タカシマヤ友の会誌「ローズサークル」昭和43年5月号	1968	紙に印刷	22.5×11	
160-4	東京タカシマヤ友の会誌「ローズサークル」昭和43年7月号	1968	紙に印刷	22.5×11	
160-5	東京タカシマヤ友の会誌「ローズサークル」昭和43年11月号	1968	紙に印刷	22.5×11	
160-6	東京タカシマヤ友の会誌「ローズサークル」昭和43年12月号	1968	紙に印刷	22.5×11	
161-1	増田園 ラベル「御銘茶」(大・白地に赤)	不詳	紙に印刷	11.4×32.5	
161-2	増田園 ラベル「御銘茶」(大・赤地に黒)	不詳	紙に印刷	11.4×32.5	
161-3	増田園 ラベル「手焼のり」(黄)	不詳	紙に印刷	14×25.7	
161-4	増田園 ラベル「薄紅葉」(青)	不詳	紙に印刷	14×25.7	
161-5	増田園 ラベル「薄紅葉」(赤)	不詳	紙に印刷	9.7×22.4	
161-6	増田園 ラベル「水仙」(緑)	不詳	紙に印刷	9.7×22.4	
161-7	増田園 ラベル「残月」(黄)	不詳	紙に印刷	9.7×22.4	
161-8	増田園 ラベル「焼のり」(大・緑とピンクの波)	不詳	紙に印刷	11.4×32.5	
161-9	増田園 ラベル「焼のり」(大・えんじと水色の波)	不詳	紙に印刷	11.4×32.5	
161-10	増田園 アルミ茶袋「香味増田園の茶」(大)	不詳	アルミ袋に印刷	23.7×11.9	
161-11	増田園 アルミ茶袋「香味増田園の茶」(小)	不詳	アルミ袋に印刷	20.8×10.4	
161-12	増田園 贈物用紙箱「御銘茶」(こげ茶1)	不詳	紙に印刷	25.7×14.3×4.5	
161-13	増田園 贈物用紙箱「御銘茶」(こげ茶2)	不詳	紙に印刷	25.7×14.3×4.5	
161-14	増田園 贈物用紙箱「御銘茶」(グレー)	不詳	紙に印刷	25.7×14.3×4.5	
161-15	増田園 茶缶各種	不詳	紙に印刷	各14.7×8×8	
161-16	増田園 茶筒用カートン「増田園の新茶」	不詳	紙に印刷	24×8.3×8.3	
161-17	増田園 贈物用紙箱(茶筒3缶用)	不詳	紙に印刷	26×16.8×8.4	
161-18	増田園 のり袋「寿しのり」(大)	不詳	プラスチック袋に印刷	26.7×21.8	
161-19	増田園 のり袋「寿しのり」(小)	不詳	プラスチック袋に印刷	15.3×13.8	
161-20	増田園 贈物用ブリキ缶「寿しのり」	不詳	ブリキに印刷	21.8×22.8×8	
161-21	増田園 贈物用ブリキ缶「焼のり」	不詳	ブリキに印刷	31.4×15.8×8.3	
161-22	増田園 水引(大・祝儀用)	不詳	紙に印刷	21.7×42	
161-23	増田園 水引(大・不祝儀用)	不詳	紙に印刷	21.7×42	
161-24	増田園 手揚げ袋	不詳	紙に印刷	31.8×41.5	
161-25	増田園「お茶のしをり」	不詳	紙に印刷	12×29.5	
161-26	増田園 包装紙	不詳	紙に印刷	〔茶文字散らし〕54.5×39 〔丸文つなぎ3種〕各53×39 〔唐草〕60×45	
162-1	包装紙 新月堂	不詳	紙に印刷	各39.5×54.5	
162-2	包装紙 新月堂登呂最中	不詳	紙に印刷	〔大〕46.7×67 〔小〕33.3×46.5	
162-3	水引・掛紙 新月堂	不詳	紙に印刷	〔水引〕21.3×37.2 〔掛紙・風景〕31.7×45 〔掛紙・かすていら〕27×40	
163	包装紙 渡辺日進堂	不詳	紙に印刷	〔唐草2種〕各54.5×78.5 〔黄〕62.5×78〔青〕44×78 〔小紋散らし〕53.5×79	
164-1	包装紙 酒悦	不詳	紙に印刷	各59.3×90	
164-2	包装紙 酒悦(小)	不詳	和紙に印刷	29.7×44.5	
165	包装紙 中央公論社	不詳	紙に印刷	55.3×39	
166	包装紙 ざくろ	不詳	紙に印刷	53.7×79	
167	包装紙 つかもと	不詳	紙に印刷	29.3×45	
168	包装紙 たくみ	不詳	紙に印刷	39.6×54.5	
169	包装紙 備後屋民芸店	不詳	和紙に印刷	56.5×76.7	
170-1	酒瓶ラベル・パッケージ「吟醸純米 英君」 (紙箱入1.8L)	不詳	紙に印刷	〔箱ラベル〕24.4×6.9 〔瓶ラベル〕15.2×12.3	
170-2	酒瓶ラベル・パッケージ「英君 大吟醸いろは」 (紙箱入1.8L)	不詳	紙に印刷	〔箱ラベル〕15.2×9.5 〔瓶ラベル〕15.2×9.5	
170-3	酒瓶ラベル・パッケージ「英君 大吟醸いろは」 (紙箱入720mL)	不詳	紙に印刷	〔箱ラベル〕10×5 〔瓶ラベル〕8.8×5.5	
171-1	酒瓶ラベル・パッケージ「六調子」(特吟)	不詳	紙に印刷	9.7×11.5	
171-2	酒瓶ラベル・パッケージ「ろくちょうし」(香吟)	不詳	紙に印刷	6×6	
171-3	酒瓶ラベル・パッケージ「ろくちょうし」	不詳	紙に印刷	11.4×10	
171-4	包装紙 六調子	不詳	紙に印刷	各53.2×90	
172	酒瓶ラベル「SUNTORY OLD WHISKY」 (かいじ国体開催記念)	1986	紙に印刷	8×9	
173	升(静岡市立芹沢銈介美術館開館記念)	1981	木製升到墨書、墨画淡彩	5×8	
174	ニュートーキョー、ビール祭の記念絵皿	1966	陶器に型染原画を印刷	各17×17×2	
175	ニュートーキョー、ビール祭の記念絵皿	1974	陶器に肉筆原画を印刷	各17.5×17.5×3	
176	「Serizawa」展(国立グラン・パレ)展示計画用模型	1976頃	紙に彩色		

2-6 スター・ウォーズ展

未来へつづく、創造のビジョン。

会期：1月23日(土)～3月27日(日)

概要：1977年5月(日本公開は1978年)、映画史に名を刻む作品「スター・ウォーズ」が公開され、その熱狂は社会現象として世界中を駆け巡った。しかしそれは一過性の現象ではなく、その後に続く壮大な物語の一部でしかなかった。ジョージ・ルーカス氏は脈々と語り継がれる神話から着想を得て、銀河宇宙(スター・ウォーズ・ギャラクシー)を舞台にした叙情詩(スター・ウォーズ・サーガ)を創作したのである。時代を越えた普遍的な物語性とたゆまぬ技術革新による世界観の創造によって、今やスター・ウォーズは映画作品という枠に収まらず、ジャンルを越えて幅広い世代のクリエイターを刺激し続けている。本展覧会では、ジョージ・ルーカス氏が世界中から選りすぐったアーティストに依頼した絵画作品や、実際に映画制作で使用された、ルーカス・ミュージアム・オブ・ナラティヴ・アート所蔵のコンセプトアート、コスチュームや小道具、そして映像を交えて、スター・ウォーズの魅力やビジョンというテーマで紹介した。スター・ウォーズはいかにして構想されたか？また、サーガを語る上で欠かせない魅力的な登場人物たちや、フォースを巡るジェダイとシスの戦い、銀河宇宙の派遣を巡る共和国と帝国の壮絶な戦い、そして広大な銀河宇宙に点在する様々な環境の惑星とそのユニークな生態系など、スター・ウォーズを構成する重要なビジョンの数々を、様々なジャンルの作品で紹介した。

巡回先：札幌芸術の森美術館、愛媛県美術館、そごう美術館、富山県立近代美術館、あべのハルカス美術館、宇都宮美術館、岡山シティミュージアム

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協力：ウォルト・ディズニー・ジャパン

協力：全日本空輸、日本貨物航空

制作協力：NHKプロモーション、NHKプラネット中部

静岡展特別協賛：セキスイハイム東海

観覧料：一般 1,300円(1,100円)

大高生・70歳以上 900円(700円)

中学生以下無料

※()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金

※障害者手帳をご持参の方および介助に必要な方は無料

※一般前売ペアチケット(2枚1組2,000円)も販売した。

観覧者数：43,953人(有料29,060人、無料14,893人、有料率66.1%)

出品件数：267件

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：テイクGA-FS 110kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4)100,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：ユーライト 135kg (各サイズ共)

サイズ・数量：B1 140部(うち40部はJR帯つき)、

B2 2,000部、B3 3,050部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞210×75mm、93頁



カタログ表紙

カラー図版147点

参考図版(カラー120点、モノクロ1点)

監修：ルーカスフィルム、ウォルト・ディズニー・ジャパン

制作・発行：NHKプロモーション

発行年：2015年

普及ツール：

1)グッズセット券の販売

主にファン層向けに、当会場オリジナル柄の手ぬぐいを限定1,000枚作成。一般券とセットにし2,500円で販売した。

制作物：

◆静岡会場オリジナル柄手ぬぐい

＜仕様＞

サイズ：340×900mm

枚数：1,000枚



静岡会場
オリジナル柄手ぬぐい

2)しおり型DMの配布

展覧会を広く周知するため、しおり型のDMを制作、書店等を中心に、市内各店舗に配布した。

制作物：

◆しおり型DM

＜仕様＞

紙：MT^{A+}-FS 200kg

サイズ：50×125mm

枚数：70,000枚



表



裏

3)館内フォトロケーションの設置

SNS等での展覧会情報拡散を期待し、巡回備品を使用したフォトロケーションをエントランスホール内に設置した。



各種連携：

1)近隣店舗との連携

本展と同時期に映画『スター・ウォーズ：エピソード7』が上映されていたことから、映画館のある近隣商業施設「新静岡セノバ」内で巡回備品を使用したフォトロケーションや、特大バナーの掲出を行った。



新静岡セノバ内
フォトロケーション



特大バナー



3月12日 来場者3万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「あすからスター・ウォーズ展」静岡朝日テレビ『朝日テレビニュース』、1月22日放送。
- ・「中継：静岡市美術館 スター・ウォーズ展」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、1月26日放送。
- ・「展覧会紹介」FMしみず『マリンパル ほっとライン』、2月25日放送。
- ・「静岡市美術館 スター・ウォーズ展来場者3万人に」静岡朝日テレビ『ANNニュース』、3月12日放送。

2)新聞

- ・「23日目覚めへ準備 静岡市美術館 スター・ウォーズ展」『中日新聞』静岡版、1月20日。
- ・小川かい「あの銀河へ 小道具や絵画、映像がいざなう スター・ウォーズの世界を堪能 1月23日(土)～3月27日(日)静岡市美術館 スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。」『中日新聞』静岡版、1月22日。
- ・「広がるスター・ウォーズの世界 きょう静岡市美術館で開幕」『中日新聞』静岡版、1月23日。
- ・「未来へつづく扉開く スター・ウォーズ展 初日にぎわう 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、1月24日。
- ・「スター・ウォーズ 魅力満喫 静岡市美術館 衣装や小道具150点」『読売新聞』静岡版、1月24日。
- ・「フォース感じた？ ベイダーと撮影 葵区に特設コーナー」『中日新聞』静岡版、1月30日。
- ・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。①：スター・ウォーズの原点 脚本を忠実に視覚化」『中日新聞』静岡版、2月3日。
- ・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。②：ダース・ベイダーとC-3PO 魅力あふれる登場者」『中日新聞』静岡版、2月4日。
- ・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。③：フォースの光と闇 善と悪の壮絶な戦い」『中日新聞』静岡版、2月5日。
- ・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。④：戦いと兵器 数々の名シーンが登場」『中日新聞』静岡版、2月6日。
- ・「ファン来場1万人突破 静岡市美術館 スター・ウォーズ展」『中日新聞』静岡版、2月6日。
- ・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。⑤：銀河と生態系／アートに広がるギャラクシー 現代アートに広がり」『中日新聞』静岡版、2月7日。
- ・「ART INFORMAION 美術散歩：スター・ウォーズ展 静岡市美術館」『富士ニュース』、第20909号。
- ・松野穂波「映画から出てきた?! スター・ウォーズ展 コスプレファン来場」『中日新聞』静岡版、2月14日。
- ・荒木正親「スター・ウォーズ 3万人突破 幸運の小学生「武器を見たい」」『中日新聞』静岡版、3月13日。
- ・三品敦「世談(よだん) スター・ウォーズ」『中日新聞』静岡版、3月13日。

3)雑誌他

- ・「作品の魅力をより深くひも解く スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。」『ぴあ×starcats』、12月号。
- ・「展覧会紹介」『Hanamaru』、vol.169。
- ・「貴重な展示の数々にファン垂涎。アート好きも必見!」『じゃらん』、2月号。

らん』、2月号。

- ・「DICAS CULTURAIS: Exposição Especial: Star Wars Visions」『Calendário de Nagoya Edicao em Portugues』、2016年1月号。
- ・「January Highlights:Shizuoka City Museum of Art: Star Wars Visions」『Nagoya Calendar ENGLISH EDITION』、2016年1月号。
- ・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛』、2016年冬号。
- ・「待望のスター・ウォーズ最新作とともに!」『BARATEE』vol.4。
- ・「展覧会紹介」『ゆうゆう』、3月号。
- ・「展覧会紹介」『CAR and DRIVER カー・アンド・ドライバー』、3月号。
- ・「what's up in Japan」『Seoul Art Guide 서울아트가이드』、2016年3月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「ウィーラ」、「ぴあポイント」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「Dokkaおでかけ探検隊東海」、「CINRA」、「アットエス」、「クリエイターズステーション」、「まなびや」



関連事業：

1)HOTひといきコンサート『映画音楽特集』

概要：静岡市庁舎を中心に市内で毎月開かれる、気軽に音楽を楽しむイベント「HOTひといきコンサート」。12月は本展開催を記念し「映画音楽特集」と題し、「スター・ウォーズ」の音楽を中心に、往年の映画音楽の名曲の数々がエレクトーンによって演奏された。

日時：12月16日(水)12:00-12:50

会場：静岡市役所静岡庁舎 新館1階ラウンジ

参加者数：357人

出演：有徳みか氏(エレクトーン)



2)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
“この1曲”をとことん語る

J.ウィリアムズ：映画『スター・ウォーズ』の音楽

概要：静岡音楽館AOIの学芸員を講師に、「ジョーズ」「E.T.」等の映画音楽で有名なJ.ウィリアムズが作曲した「スター・ウォーズ」の音楽の魅力を検証。「シンフォニックスコアの復活」「ライトモティーフの使用」という2点を挙げ、過去の映画音楽作品との比較や、ワーグナーにおけるライトモティーフの使用の例を提示しながら、『スター・ウォーズ』の音楽の特徴を述べるとともに、映画音楽史における位置づけも検討した。

日時：2月13日(土)18:00-19:30

会場：多目的室 **参加者数：**100人

講師：小林旬(静岡音楽館AOI学芸員)



出品作品リスト

※作品は下記を除きすべてルーカス・ミュージアム・オブ・ナラティヴ・アート蔵。
 ※No.63はルーカス・フィルム蔵。No.64～68、87～97、124～157、182～198、262～264は個人蔵。No.222～261はディズニー社蔵。

通し番号	作家名	タイトル	作品ジャンル
1	マニエル・サンジュリアン	ジョージ・ルーカス スケッチ	絵画
2	ジーン・コラン	スター・ウォーズ・モンタージュ	絵画
3	マニエル・サンジュリアン	ジョージ・ルーカスの世界	絵画
4	ラルフ・マクオーリー	デス・スター・トレンチのXウィングとタイ・ファイター	コンセプト・アート
5	ラルフ・マクオーリー	トートーンに乗るルーク	コンセプト・アート
6	ラルフ・マクオーリー	モス・アイズリー・カンティーナでの決闘	コンセプト・アート
7	ラルフ・マクオーリー	リアクター・シャフト上のベーンに登ったルーク	コンセプト・アート
8	ラルフ・マクオーリー	スキップ上での戦い	コンセプト・アート
9	ラルフ・マクオーリー	反乱軍スノースピーダーが帝国軍ウォーカーを攻撃	コンセプト・アート
10	ラルフ・マクオーリー	ホスでのルーク	コンセプト・アート
11・12		『千の顔を持つ英雄』＜上・下＞(書籍)	書籍
13～16		フラッシュ・ゴードン コミックス①～④	書籍
17		『隠し砦の三悪人』パンフレット	映画パンフレット
18・19		スター・ウォーズ コミック ①・②	書籍
20	ネル・ソン・ボレン	一匹狼の賞金稼ぎ	絵画
21		ダース・ベイダー マスク(頭)	小道具
22		ダース・ベイダー マスク(顔)	小道具
23		ダース・ベイダー マスク(首)	小道具
24		ダース・ベイダー コスチューム	衣裳
25	天野喜孝	ベイダー	絵画
26	スティヴン・小レヴィン	ダース・ベイダーの肖像	絵画
27	メイシー	後悔	絵画
28		ジェダイ トレーニング用リモート	小道具
29		ホス マクロバイノキュラー	小道具
30		反乱軍 センサー・バック	小道具
31	ノア・ブキャナン	きみの父親のライトセーバーだ	絵画
32	ニコラス・コールマン	ジェダイになること	絵画
33	ジェローム・ラガリーグ	無題(コックピット内のルーク・スカイウォーカー)	絵画
34	ジェイコブ・A・ファイファー	ルークの教訓	絵画
35		ポッドレーサー・パイロットのアナキン少年 コスチューム	衣裳
36	トム・オルテンバーグ	フォースを使え	絵画
37	ホアン・カルロス・フェリグノ	ポッドレーサー	絵画
38	ビル・バターソン	ランナウェイ・スレーブ	絵画
39	ハーレー・ブラウン	ヨーダ	絵画
40	グレン・ハリントン	ルークとヨーダの死	絵画
41		オビ=ワン・ケノービ コスチューム	衣裳
42	クラウド・ディオ・エーボイ	オビ=ワン	絵画
43	ドナート・ギアンコラ	オビ=ワン・ケノービ	絵画
44		ボバ・フェット プラスター	小道具
45	アン・ハンソン	狩り	絵画

通し番号	作家名	タイトル	作品ジャンル
46	ドリアン・クリーヴエンジャー	バドメ	絵画
47	ダグラス・フライヤー	バドメ・アマダラ	絵画
48	サージ・マイケルズ&マイケル・マルム	バドメの夢/深い眠り	絵画
49	カール・サムソン	ナブー・曼荼羅ときらめくバドメ	絵画
50	アラン・R・バンクス	自由の日、ナブーの若者の祝典	絵画
51	デヴィッド・タトワイラー	バドメとアナキンの漂流	絵画
52	ラネイ・タトワイラー	闇の外、光の中へ	絵画
53	ラネイ・タトワイラー	ナブーにあるヨーダのアーチ	絵画
54	アンソニー・小ライダー	ピア(侍女の肖像)	絵画
55		レイア プラスター	小道具
56	ドナート・ギアンコラ	元老院議員レイア・オーガナ	絵画
57	ダニエル・E・グリーン	プリンセス・レイア	絵画
58	デヴィッド・バルンボ	脱出	絵画
59		ハンソロ プラスター	小道具
60		ハンソロ コスチューム	衣裳
61	クリスティー・メレーヌ	毛玉	絵画
62	レイモンド・スワンランド	タトゥーインの影	絵画
63		アマダラ コスチューム	レプリカ衣裳
64		ボバ・フェット	レプリカ衣裳
65		レイア・オーガナ コスチューム	レプリカ衣裳
66		ルーク・スカイウォーカー コスチューム	レプリカ衣裳
67		ヨーダ	人形
68		ハン・ソロ(カーボナイト)	人形
69	スコット・ワデル	ザ・ジェダイ	絵画
70	アラン・ツァス・マルティネス	ランコア	絵画
71		メイス・ウィンドウ ライトセーバー	小道具
72	オビ=ワン	ライトセーバー	小道具
73		ヨーダ 胸像(ジェダイ公文書館)	小道具
74	ロバート・ベイリー	今は私の敵だ	絵画
75	エンキ・ピラル	出来映え	絵画
76	マイケル・ヘインズ	エンディミオンの小競り合い	絵画
77	スコット・ワデル	ジェダイのジェイセン	絵画
78	アイヴァン・ベリーマン	ジェダイ聖堂再建築	絵画
79		ダース・ベイダー ライトセーバー	小道具
80		ダース・モール ライトセーバー	小道具
81		ドゥークー ライトセーバー	小道具
82		パルパティーン ライトセーバー	小道具
83	アーマンド・バルタザー	シスの魔女たちのいけにえの池に入るダース・ベイダー	絵画
84	ドリアン・クリーヴエンジャー	ダース・シーミー	絵画
85	フィリップ・ドゥルイエ	ジョージ・ルーカス、また、スター・ウォーズに奉げる	絵画

通し番号	作家名	タイトル	作品ジャンル
86	ウィル・ウィルソン	モールの誕生	絵画
87		ドゥークー	人形
88		ヨーダ	人形
89		メイス・ウィンドゥ	人形
90		ルーク・スカイウォーカー	人形
91		オビ=ワン・ケノービ	人形
92		ダース・モール	人形
93		パルパティーン	人形
94		ダース・ベイダー	人形
95		ヨーダ ライトセーバー	小道具
96		ルーク・スカイウォーカー ライトセーバー	小道具
97		ダース・モール	人形
98		ストームトルーパー コスチューム	衣裳
99	マイク・カングル	防御と保護	絵画
100	マイク・カングル	帝国第一	絵画
101	マイク・カングル	勝利は間近だ	絵画
102	ジェイソン・アスキュー	ホスの雪の戦い(反乱軍の砦を攻撃する帝国軍)	絵画
103	ジェイソン・アスキュー	ジオノーシス・アリーナ	絵画
104	ジェイソン・アスキュー	ラスト・スタンド	絵画
105	アイヴァン・ベリーマン	急追	絵画
106	ランドール・ウィルソン	修理中のスター・デストロイヤー	絵画
107	シド・ミード	荒廃したシスの惑星	絵画
108	デヴィッド・ベントランド	コスリスでの戦闘	絵画
109	デヴィッド・ベントランド	ジャガーノート、キャッシュークのための戦い	絵画
110	デヴィッド・ベントランド	ポッド・ウォーカー、キャッシュークのための戦い	絵画
111	デヴィッド・ベントランド	コスリスでの襲撃	絵画
112	デヴィッド・ベントランド	予期せぬ訪問者	絵画
113		オルデラン プラスター	小道具
114		バトルドロイド プラスター	小道具
115		ナプー プラスター	小道具
116		反乱軍 プラスター DH-17	小道具
117		ストームトルーパー プラスター	小道具
118	トム・オルデンバーグ	戦闘騎獣	絵画
119	スコット・M・フィッシャー	女性トルーパー	絵画
120	マイケル・グリマルディ	モス・アイズリー宇宙港での事件	絵画
121	アレックス・ロス	スタイルの帝国	絵画
122	ウィリアム・スタウト	矛盾を探して(ストームトルーパーとデューバック)	絵画
123	ドルフィー・ストキ	モシオトゥニャ(雷鳴の轟く水煙)	絵画
124		AT-AT	プラモデル
125		Yウィング(ゴールド2)	プラモデル
126		スノースピーダー	プラモデル

通し番号	作家名	タイトル	作品ジャンル
127		タイ・インターセプター	プラモデル
128		スレーヴ・ワン	プラモデル
129		シャトル・タイデアラム	プラモデル
130		スター・デストロイヤー	プラモデル
131		AT-AT	プラモデル
132		Aウィング	プラモデル
133		デス・スターII	プラモデル
134		Xウィング	プラモデル
135		トレンチの攻防	プラモデル
136		ホーム・ワン	プラモデル
137		ミレニアム・ファルコン	プラモデル
138		シャトルポート	プラモデル
139		ナプー・スターファイター	プラモデル
140		タイ・アドバンスド	プラモデル
141		タイ・ファイター	プラモデル
142		スノースピーダー	プラモデル
143		ヴェネター級デストロイヤー	プラモデル
144		AAT	プラモデル
145		ラディアントVII	プラモデル
146		グンガンサブ ボンゴ	プラモデル
147		LAAT/c&AT-TE	プラモデル
148		ガンシップ	プラモデル
149		レベル・ブロックード・ランナー	プラモデル
150		イータ2・アクティス級ライト・インターセプター	プラモデル
151		ミレニアム・ファルコン	プラモデル
152		ジオラマ(草原)	ジオラマ
153		ジオラマ(荒野)	ジオラマ
154		ジオラマ(宇宙)	ジオラマ
155		ジオラマ(砂漠)	ジオラマ
156		ジオラマ(雪)	ジオラマ
157		ジオラマ(森)	ジオラマ
158		ジャバ・ザ・ハット	小道具
159		タスケン・レイダー ガッフィ・スティック	小道具
160	エドワード・ピンクリー	タスケンの見張り	絵画
161	シルエロ・カブラル	タトゥイーン	絵画
162	トニー・クラナージ	掘出物、タスケン・レイダーの肖像	絵画
163	デヴィッド・ホー	いけにえ	絵画
164		イウォーク コスチューム	衣裳
165	マイケル・コールマン	森のなかへ狩りの一行	絵画
166		チューバック 胸像	衣裳
167		チューバック ボウキャスター	小道具

通し番号	作家名	タイトル	作品ジャンル
168		ウーキー ブラスター	小道具
169		ウーキー ライフル	小道具
170	カディール・ネルソン	ボウキャスターを持つチューバカの肖像	絵画
171	M・モーガン・コールマン	キャッシーク	絵画
172	ジュリー・ベル&ボリス・ヴァレホ	チューイーとレイアを攻撃するランコア	絵画
173	リーアム・シャープ	ランコア・ハンター	絵画
174	ニコラス・コールマン	ブラスターを発射するジャワ	絵画
175		ジャワ コスチューム	衣裳
176		ジャワ ブラスター	小道具
177		トワイレック コスチューム	衣裳
178	ダレン・キングズリー	ブルースクリーンとトワイレック	絵画
179	ジェレミー・リップキング	ヨバーナ	絵画
180	スコット・ワデル	トワイレックの美女	絵画
181	エヴァン・ウィルソン	眠れるアイラ	絵画
182		ランコア	人形
183		ハンサ	人形
184		トントーン	人形
185		ボスク	人形
186		フィグリン・ダン	人形
187		ガーモリアン	人形
188		グリード	人形
189		ジャワ	人形
190		ログレイ	人形
191		マフタック	人形
192		カーベ	人形
193		ハンマー・ヘッド	人形
194		サイ・スヌートルズ	人形
195		ワトー	人形
196		ザッカス	人形
197		リー・イーズ	人形
198		デューバック	ジオラマ
199		タスケン・レイダー	衣裳
200		R2-D2 コスチューム	衣裳
201		C-3PO コスチューム	衣裳
202		ビット・ドロイド	小道具
203	ロイ・グリーンネル	待て…このドロイドはただ挨拶をしたいだけだ	絵画
204	グレゴリー・マンチェス	C-3PO	絵画
205	ジョン・マツス	階段を下りるC-3PO	絵画
206	デヴィッド・タトワイラー	ドロイド	絵画
207	クリスチャン・ワガナー	衝突しあう世界	絵画
208	ジョン・マツス	バブロのキャンティーナ	絵画

通し番号	作家名	タイトル	作品ジャンル
209	ポール・G・オックスボロー	ジョージ・ルーカスがバーテンを務めるモス・アイズリー・キャンティーナ	絵画
210	ジェームス・クリステンセン	モス・アイズリーでの予期せぬ途中下車	絵画
211	ジャン＝ジロー・メビウス	クワイ＝ガンとイオビーの場面	絵画
212	ピーター・デセーヴ	緑でいるのも楽じゃない	絵画
213	ダグラス・フレイザー	24分の1スケール	絵画
214	ステファン・ハイ	裏庭のジェダイたち	絵画
215	C・F・ベイン	ジャバ・ザ・ハット:高校の同窓会	絵画
216	ライアン・ウッド	ディ・ワナ・ワンガ	絵画
217	西又葵	希望	絵画
218	ショウ・ムラセ	デューバック・ライダーたち	絵画
219	ショウ・ムラセ	プリンセス・レイアのトラブル	絵画
220	デイヴ・ネスラー	サイド・オブ・グラム付きダブルチーズバーガー	絵画
221	エリック・ジョイナー	メルズで食事	絵画
222～261		トルーパー・ヘルメット・アート	オブジェ
262		ダース・ベイダー	レプリカ衣裳
263		ストームトルーパー	レプリカ衣裳
264		ダース・ベイダー	レプリカ衣裳
265		BB-8	レプリカ小道具
266		カイロ・レン ライトセーバー	レプリカ小道具
267		カイロ・レン 仮面	レプリカ小道具

3. 交流事業(教育普及事業)目次

3-1 交流事業

1) Shizubi Project 5 抽象する場 福島敬恭	53
2) Shizubi シネマアワー	55
3) ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」	56
4) しずびオープンアトリエ	56
5) しずびチビッコプログラム	57
6) 暦とあそぶワークショップ	59
7) プレゼントワークショップ	59
8) 夜店市	61
9) 静岡市美術館開館5周年記念 ポスター展	61

3-2 連携事業

1) ミュージアム教室・展示解説	62
2) 静岡大学アートマネジメント力育成事業「めぐりアート静岡」	63
3) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」	64
4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)	65
5) キニナルスキニナルプロジェクト	66
6) その他施設との連携等	67

3. 交流事業(教育普及事業)

3-1 交流事業

1) Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭

概要：多くの人が行きかうエントランスホールの開放的な空間で、現代のさまざまな美術の姿を紹介してきたShizubi Project。今回は彫刻家・福嶋敬恭(1940-)の新作を展示した。福嶋は、1960年代半ば、はやくも20代の若さで、そのミニマルな作風により日本の芸術界に新鮮な驚きを与えた。以来ずっと、誰も見たことがないような作品を生み出し続けてきた。鉄やアルミ、グラファイトやワックス、ガラスなど多様な素材を使って生み出される、シンプルで厳密なその作品は、抽象や具象、彫刻や絵画といった枠を超えて、純粋な“色と形”の知覚体験をもたらす。そしてその体験は、私たちに人間の精神の働きである抽象とは何かを考えさせる。今回は、当館のエントランスホールの空間にあわせた新作により、決して写真や映像では伝わらない、特別な“色と形”を体験する大規模な展示となった。

会期：8月4日(火)～9月27日(日)

会場：エントランスホール

観覧者数：53,661人

作品リスト：

1. magenta BOX 2013年 66×82×82cm 桐・アクリル
2. magenta BOX 2013年 27×32×32cm 桐・アクリル
3. gray BOX 2013年 30×32×32cm 桐・アクリル
4. gray BOX 2013年 30×32×32cm 桐・アクリル
5. 抽象する場 2015年 100×130×130cm 桐・アクリル・銀粉
(φ6の発泡スチロール球1,300個とともに構成)
6. MIND GARDEN-magenta 1 2015年 78.5×91.5×91.5cm
桐・アクリル
7. MIND GARDEN-magenta 2 2015年 77.5×90×90cm
桐・アクリル
8. MIND GARDEN-magenta 3 2015年 28×32×32cm
桐・アクリル
9. MIND GARDEN-magenta 4 2015年 27.5×32×32cm
桐・アクリル

以上すべて 作家蔵

主要広報記録：

◆新聞

・「知覚体験即す 「抽象する場」 彫刻家福嶋さん個展」『静岡新聞』(夕刊)、8月13日。

◆雑誌他

・「展覧会紹介」『アトリエふじのくに』2015年秋号。
・「展覧会紹介」『月刊トコチャン』、10月号。
・沢山遼「スリー・ディメンションと3D 「Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭」展」『美術手帖』、11月号。

◆ウェブサイト等

・「カタログ&ブックス2015年11月」『artscape』、11月15日号。
以下媒体名のみ記載
「Japan Design Net」,「静岡市Facebook」,「ART iT」,「アットエス」

印刷物：

チラシ

＜仕様＞紙：スマッシュ 110kg

サイズ・数量：A4 30,000部



チラシ表面

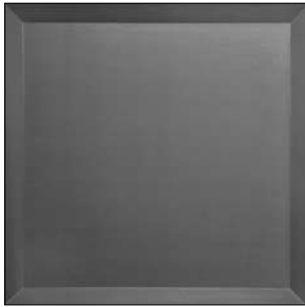


チラシ裏面



カタログ：

<仕様>300×300mm、191頁



カタログ表紙

カラー図版338点、モノクロ図版22点
参考図版(カラー1点、モノクロ29点)

上村博「トピカ・プラスチカ「抽象する場」を巡って」
以倉新「抽象する場 福嶋敬恭の作品について」

作品目録 1957-2015／年譜／参考文献／再録文献

監修：静岡市美術館

編集：以倉新(静岡市美術館学芸課長)、伊藤鮎(静岡市美術館学芸員)、伊藤雅俊(株式会社マイブックサービス)

翻訳：クリストファー・ステイヴンズ

発行者：村上正

発行所：株式会社マイブックサービス

関連事業：

◆アーティストトーク

概要：出品作家本人による作品解説。展示作品を前に、作品やこれまでの制作についての考え方などが語られた。60年代から日本の彫刻界で独自の道を歩んできた作家の肉声を聞く、貴重な機会となった。

日時：①8月4日(火) ②9月27日(日)

いずれも 14:00-14:30

会場：エントランスホール 参加者数：計66人



◆カタログ刊行記念

トークイベント

概要：公式カタログとしての作品集の刊行を記念して、カタログ執筆者と出品作家を含む計4人の登壇者によるトークイベントを実施した。福嶋氏のこれまでの作品を写真で巡りながら様々な話題が語られた。

日時：9月26日(土)14:00-16:30

会場：多目的室 参加者数：31人

パネラー：福嶋敬恭(本展出品作家)、岩城見一(京都大学名誉教授)、上村博(京都造形芸術大学教授)

司会：以倉新(静岡市美術館学芸課長)



2)Shizubi シネマアワー

(1)Shizubi シネマアワー vol.15

「印象派の画家ールノワールとモリゾ」

概要：美術館ならではのテーマとセレクトで、年間2〜3回程度映画上映を行う、Shizubiシネマアワーの15回目。フランス印象派の画家オーギュスト・ルノワール(1841-1919)とベルト・モリゾ(1841-1895)に関する伝記映画2本を紹介した。

日時：①10月17日(土) ②10月18日(日)

いずれも 14:00-(開場 13:30)

上映内容：

①『ルノワール 陽だまりの裸婦』(2012年、フランス、111分)

②『画家モリゾ マネの描いた美女 名画に隠された秘密』(2012年、フランス、105分)

会場：多目的室 **参加者数：**①85人 ②71人

参加料：500円 **企画協力：**(株)サールナートホール

印象派の画家
ルノワールとモリゾ

「Renoir」はルノワール、印象派の中心人物として知られる。また、その妻「Morisot」も印象派の中心人物として知られる。この2人の作品を、印象派の中心人物として紹介する。この2人の作品を、印象派の中心人物として紹介する。

2015年10月17日(土) 10月18日(日)

14:00~(開場 13:30) 500円(税込)

静岡市美術館

告知チラシ(当館作成)

(2)Shizubi シネマアワー vol.16

「世界一美しい本を作る男ーシュタイデルとの旅ー」

概要：ノーベル賞受賞作家ギュンター・グラス、アメリカを代表する写真家ロバート・フランク、シャネルのカリスマデザイナーのカール・ラガーフェルドなど、名だたるアーティストたちから本作りを依頼されているドイツの小さな出版社、シュタイデル社の秘密に迫ったドキュメンタリーを紹介した。

日時：1月9日(土)14:00-(開場 13:30)

上映内容：『世界一美しい本を作る男ーシュタイデルとの旅ー』(2010年、ドイツ、88分)

会場：多目的室 **参加者数：**104人 **参加料：**500円

企画協力：(株)サールナートホール

世界一美しい本を作る男ーシュタイデルとの旅ー

「Steidl」はドイツの小さな出版社で、世界一美しい本を作る男として知られる。この映画は、Steidlの秘密に迫るドキュメンタリーを紹介する。

2016年1月9日(土) 14:00~(開場 13:30)

500円(税込)

静岡市美術館

告知チラシ(当館作成)

(3)Shizubi シネマアワー vol.17

「美術館を手玉にとった男」

概要：30年以上にわたり、大量の贋作を無償で美術館に寄贈し続けた贋作作家マーク・ランディスを追ったドキュメンタリーを県内先行上映した。ランディスのバックグラウンドや、贋作行為をどう捉えているかなど、彼の素顔にせまった映像や、元学芸員をはじめ、彼に取り込まれてしまった人々の姿をシニカルに捉えるなど、贋作をめぐる様々な側面を浮き彫りにした内容であった。

日時：3月5日(土)17:00-(開場 16:30)

上映内容：

『美術館を手玉にとった男』(2014年、アメリカ、89分)

会場：多目的室 **参加者数：**91人 **参加料：**500円

企画協力：(株)サールナートホール

美術館を手玉にとった男

「The Man Who Took the Museum by the Reins」は、30年以上にわたり、大量の贋作を無償で美術館に寄贈し続けた贋作作家マーク・ランディスを追ったドキュメンタリーを紹介する。

2016年3月5日(土) 17:00~(開場 16:30)

500円(税込)

静岡市美術館

告知チラシ(当館作成)

3)ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」

第9回「MUSIC CARAVAN」

概要：テレビやラジオでブロードキャスターとして活躍中のピーター・バラカン氏が案内役を務めるトークシリーズの第9弾。開催中の「絵本をひらくと」展にあわせ、無類の音楽好きとして知られ、同展出品作家でもあるスズキコージ氏をゲストに迎えた。同氏は世界中を旅する中で見聴きした音楽を、そのエピソードと共に紹介し、バラカン氏はそれに関連した選曲でトークを展開した。

日時：11月3日(火・祝)14:00-16:00

会場：多目的室 **参加者数：**126人 **参加料：**500円

案内人：ピーター・バラカン氏(ブロードキャスター)

ゲスト：スズキコージ氏(絵本画家)



4)しずびオープンアトリエ

概要：春・夏の年2回、開催中の展覧会にあわせて実施する、鑑賞と創作が一体となったオリジナルワークショップ。

(1)「青磁の色とかたちをつくろう！」

概要：「青磁のいま」展にあわせ、出品作品の《青磁鳳凰耳瓶》などのかたちをもとに、プラバンに紙やすりで細かい傷をつけてパステルで彩色し、オープントースターで焼いて仕上げる内容を考案。「焼成による変化」と「まだ見ぬ青」の追求を楽しむという、青磁ややきもの特有の制作工程の疑似体験ができるよう工夫した。

日時：8月1日(土) - 16日(日) ※毎週月曜日を除く

いずれも ①13:30 - ②15:00 -

(各回約1時間、計14日間・28回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計304人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



(2)「未知の惑星と宇宙人でモビールをつくろう！」

概要：「スター・ウォーズ展」にあわせ、未知の惑星や宇宙人を考え、九曜の形にヒントを得たオリジナル切紙で表現した。「紙を折り重ねて切る」という一見シンプルな作業であるが、参加者の切り込みの大きさや位置、角度によって多様な表現が生まれた。学生ボランティアが制作した完成見本は、告知を兼ねエントランスホールに展示した。

日時：2月6日(土) - 3月20日(日・祝)の毎週土曜・日曜日

いずれも ①13:30 - ②15:00 -

(各回約1時間、計14日間・28回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計238人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



5) しずびちびっこプログラム

概要：2歳以上の未就学児を対象とした、鑑賞に基づく制作プログラム。保護者は展覧会を見学する。展覧会毎に様々なアプローチで未就学児の表現の可能性に迫っている。市内保育支援団体の協力を得て実施。(保護者は要観覧券)

(1) しずびちびっこプログラム

「大原美術館展 名画への旅」

概要：出品作品の一つアメデオ・モディリアーニ《ジャンヌ・エビュテルヌ》の肖像をもとに、モディリアーニの作風を捉えた自画像を描いた。あらかじめ作品の顔、目、鼻、口、体の輪郭をベニヤ板にトレースしたものを用意。そこに鏡を見ながら子どもたち自身の服、顔、髪、背景の順に絵の具で描いていった。出来上がった作品は、それぞれの子どもたちの特徴がよく表れたユニークな自画像となった。

日時：5月23日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計25人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・本田英寛「ボクだってモディリアーニ? 静岡市美術館 親子でアート体験、自画像描く」『中日新聞』静岡版、5月24日。



(2) しずびちびっこプログラム

「青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代まで」

概要：「しずびオープンアトリエ(夏)」の内容を未就学児向けにアレンジして実施。はじめに展覧会出品作品を鑑賞した後、《青磁鳳凰耳瓶》の形をもとに、雷文や花卉文などの文様を書き加え、プラバンに紙やすりで細かい傷をつけてパステルで彩色。その後オープントースターで焼いてマグネット等に仕上げた。

日時：7月26日(日)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計19人

参加料：子ども1人につき500円



(3) しずびちびっこプログラム

「錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!」

概要：展覧会出品作品である東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》をモチーフに、事前に準備したボール紙の「紙版」を用いて多色摺を体験した。版には紙の角をあわせる「見当」もつくり、多色摺におけるその重要性も説明した。見当を合わせながら摺り重ね、紙をめくると形がくっきりとあらわれること、版を重ねるごとに絵が完成していく様子に驚きの声があがった。

日時：9月12日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計18人

参加料：子ども1人につき500円



(4)しずびちびっこプログラム

「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」

概要：出品作品である、エリック・カールの『はらぺこあおむし』のイメージと、作家が制作の際に用いるオリジナルの色紙を鑑賞した後、参加者も同じ手法で「はらぺこあおむし」を制作した。オリジナルの色紙づくりでは、割り箸で引っかく等テクスチャを意識した。完成作品をとおして、同じモチーフでも色味やそのテクスチャによって見え方や感じ方が異なることを伝えた。

日時：11月8日(日)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計21人

参加料：子ども1人につき500円



(5)しずびちびっこプログラム

「芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様」

概要：さまざまな意匠のうちわやのれんなどをまず図版で鑑賞し、作品にみられる模様が「〇〇文」と呼ばれることを学んだ。その後、芹沢銈介の型染の技法で制作された作品を参考に、紙を折りたたみハサミで切りぬいた「型紙」を作成。偶然にできた形を各々「〇〇文」と名付けた後、和紙を彩色して、うちわを制作した。

日時：1月9日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計21人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「芹沢のうちわ鑑賞 子どもが制作体験 静岡市美術館」『静岡新聞』、1月10日。



(6)しずびちびっこプログラム

「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。」

概要：「しずびオープンアトリエ(春)」の内容を未就学児向けにアレンジして実施。まず遠い宇宙を想像しながら、惑星用の紙を青系統の絵の具で彩色した後、仕上げに金や銀の絵の具で思い思いの模様を描き、光沢感を加えた。その後、これを折り畳んで切り抜き「惑星」を、「宇宙人」は黒い紙を用い切り絵で表現。複雑な絵肌が美しい「惑星」と個性的な「宇宙人」が完成した。

日時：2月11日(木・祝)、3月21日(月・祝)

いずれも ①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計42人

参加料：子ども1人につき500円



6) 暦とあそぶワークショップ

概要：祭事や年中行事を通して季節を感じ、それをかたちにするワークショップシリーズ。暦の本来の意味や歴史を学びながら制作する。

(1) 暦とあそぶワークショップ vol.10

「こどもの日の準備をしよう！」

概要：こどもの日にあわせ、鯉のぼりの元となったとも言われる、“鯉の滝登り”の図の「絵幟」を制作した。参加者それぞれに鯉が滝を登る姿を自分に見立て、家紋代わりの自分のマークを描き入れるなど、願いを込めて作った。

日時：4月25日(土)13:00-16:30 **会場：**ワークショップ室

対象・参加者数：小学生21人

参加料：1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「色とりどり「絵のぼり」作り 市美術館で児童挑戦」『静岡新聞』、4月26日。



(2) 暦とあそぶワークショップ vol.11

「節分の準備をしよう！」

概要：節分にあわせ、世界各国のお面の要素を取り入れたオリジナル鬼面を制作した。まずは日本古来の鬼の絵やお面を紹介し、節分の由来や鬼の特徴について確認した後、世界各国のお面の要素も組み合わせ、参加者ひとりひとりに鬼面をデザイン。様々な生き物の寄せ集めとされる鬼の特徴を伝えた。素材には動物の毛である羊毛を使用し、完成度の高いお面に仕上げた。

日時：1月30日(土)13:00-16:30 **会場：**ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 親子9組19人

参加料：1人につき500円

主要広報記録：

◆テレビ

・「節分を前に 子どもたちが鬼のお面づくり」NHK静岡放送局『県内ニュース』、1月30日放送。

◆新聞

・「私だけの鬼できた」『静岡新聞』、2月3日。



7) プレゼントワークショップ

概要：子どもたちの創作意欲の原点である、家族や大切な人への想いをかたちにし、プレゼントを作る、という行為に焦点を当て、記念日にあわせて実施。プレゼントを「作って、贈る」ことから生まれるコミュニケーションに主眼を置く。

(1) 静岡市美術館開館5周年記念

プレゼントワークショップ vol.14

「母の日だ！柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」

概要：当館のロゴマークなどを手がけた柿木原氏を講師に招き、館内の案内サインと同じモザイクタイルで、母子一緒に母の似顔絵を制作した。デザイナーである柿木原氏による指導に加え、タイルの限定された色とかたちが、母の顔の特徴を端的に捉え、表現することにつながった。完成作品はエントランスホールに展示した。

日時：5月2日(土)13:00-17:00 **会場：**多目的室

対象・参加者数：母子15組34人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

講師：柿木原政広氏(アートディレクター)



主要広報記録：

◆新聞

・「タイル使い母の顔 静岡市美術館でワークショップ」『静岡新聞』、5月3日。

(2) 静岡市美術館開館5周年記念

プレゼントワークショップ vol.15

「父の日だ！柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」

概要：vol.14に引き続き、柿木原氏を講師に招き、案内サインと同じモザイクタイルで、父子一緒に父の似顔絵を制作した。父の顔をじっくり観察し、実際に顔や髪の毛を触りながら下絵を考えたことで、顔の特徴を掴んだバラエティ豊かな作品に仕上がった。完成作品はエントランスホールに展示した。

日時：6月13日(土)13:00-17:00 会場：多目的室

対象・参加者数：父子17組35人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

講師：柿木原政広氏(アートディレクター)

主要広報記録：

◆新聞

・「タイルで作る「お父さん」」『読売新聞』静岡版、6月14日。



(3) プレゼントワークショップ vol.16

「クリスマスの準備をしよう！」

概要：型染の技法で制作された芹沢銈介の作品を参考に、クリスマスに喚起されるイメージをもとに型紙をつくり、クリスマスカードを制作した。型紙は、下絵をトレーシングペーパーでトレース、ラミネート加工を施したものを切り抜いてつくった。なお大人編では、ラミネート紙を用いた型紙をより細かく仕上げるなどして、難易度を変えた。また楮100%の和紙に、和の色シリーズのアクрил絵の具で彩色して、より本格的な雰囲気の仕上がりを目指した。

日時：①子ども編 12月12日(土)

②大人編 12月13日(日)

いずれも 13:00-16:30

会場：①、②とも ワークショップ室

対象・参加者数：①小学生18人 ②中学生以上17人

参加料：1人につき500円(材料費含む)



子ども編



大人編

8)夜店市

概要：中央商店街恒例のイベント「夜店市」に、財団事務局、静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・ると共同で出店。当館ブースでは「錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！」、「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」のチケット、当館オリジナル茶アメ等を販売し、美術館の広報に努めた。また本年度が当館の5周年、静岡音楽館AOIの20周年であったことから、地元企業と協同してビールを製作・販売した。

日時：8月14日(金)・15日(土)・16日(日)

いずれも 16:00-21:00

場所：葵区紺屋町名店街「札幌かに本家」前「小梳神社」側

販売物：「錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！」当日券、「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」展前売券、静岡市美術館オリジナル茶アメ、同虹色えんぴつ&クリアファイルセット
※チケット・商品購入者には、スピードくじを実施した。

印刷物等：

◆うちわ

<仕様>サイズ：φ200mm (穴アキ部分φ30mm)

印刷：両面オフセット4色印刷 ニス引き

加工：二連うちわ、二つ折り

枚数：タイプA 6,000枚、タイプB 6,000枚 計12,000枚

※タイプA：当館の面を表面として折り加工

※タイプB：静岡音楽館AOI・キニナルスキニナルプロジェクトの面を表面として折り加工



うちわ A面



うちわ B面

9)静岡市美術館開館5周年記念 ポスター展

概要：展示替え期間を利用し、多目的室にて開館以来当館で開催した展覧会のポスターを一堂に展示した。あわせて過去の展覧会で作成した図録の閲覧コーナー、および展覧会事業・交流事業等を紹介する映像をスライドで紹介するコーナーを設けた。また、各展覧会ポスターを会場にて配布した。

会期：10月1日(木)～7日(水) **会場：**多目的室

来場者数：2,712人

主要広報記録：

◆新聞

・松本利幸「静岡音楽館AOI20年／市美術館5周年 記念ビール蔵出し」『中日新聞』静岡版、8月9日。

・「記念ビールで乾杯！ AOI20周年、市美術館5周年 夜店市14日から先行販売」『静岡新聞』、8月11日。

・「施設の節目 地ビールで祝杯 音楽館20周年・美術館5周年 静岡 記念に2種類」『朝日新聞』静岡版、8月11日。

・田中泰義「静岡音楽館AOIと市美術館 記念ビールを披露」『毎日新聞』静岡版、8月11日。

・「音楽館AOIと静岡市美術館 〇周年で地ビール アオイブリュージング「競演」」『日本経済新聞』静岡版、8月12日。



3-2 連携事業

1)ミュージアム教室・展示解説

概要：当館では、学校や生涯学習センター等からの団体を対象にして、展覧会担当学芸員が直接解説する鑑賞教室に力を入れている。幼稚園・保育園児～高校生については、子どもたちと当館学芸員等が対話形式で展覧会鑑賞を行う「ミュージアム教室」として実施。子どもたち自身が作品の魅力を発見し、考えるよう促すことで、美術を身近で楽しいものと感じることを目指すとともに、美術館でのマナーも学習することを目的とする。大学・専門学校生、および生涯学習センター・生涯学習交流館等の事業参加者については、展覧会の見どころを中心とした「展示解説」として実施している。

対象：＜ミュージアム教室＞幼稚園・保育園児～高校生
＜展示解説＞大学生・専門学校生～一般

実施内容・所要時間(共通)：

スタッフの解説30分＋自由鑑賞30分 計60分



利用状況：

◆ミュージアム教室利用状況

	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校 特別支援学級		児童クラブ		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
大原美術館展 名画への旅	0	0	1	26	10	335	2	54	0	0	0	0	13	415
青磁のいま ー受け継がれた技と美 南宋から現代まで	0	0	0	0	7	408	4	52	0	0	0	0	11	460
錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	0	0	1	46	4	71	5	74	0	0	0	0	10	191
ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	15	456	15	805	9	167	4	85	1	6	2	46	46	1,565
芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	0	0	0	0	4	72	1	5	0	0	1	27	6	104
スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1	46	2	56	18	439	3	57	0	0	3	74	27	672
計	16	502	19	933	52	1,492	19	327	1	6	6	147	113	3,407

計 113団体 3,407人

◆展示解説利用状況

	大学・専門学校		生涯学習センター 生涯学習交流館		その他		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
大原美術館展 名画への旅	1	34	0	0	3	124	4	158
青磁のいま ー受け継がれた技と美 南宋から現代まで	0	0	0	0	1	15	1	15
錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	0	0	5	208	4	226	9	434
ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	0	0	4	72	1	35	5	107
芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	1	11	1	7	0	0	2	18
スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	0	0	1	17	2	70	3	87
計	2	45	11	304	11	470	24	819

計 24団体 819人

2) 静岡大学アートマネジメント力育成事業

「めぐりアート静岡」

概要：静岡大学が開講した「アートマネジメント力育成事業」(文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」助成)の美術分野実習として、受講生とともに市内外8会場での現代の作家を紹介する展覧会「めぐりアート静岡」を実施した。当館ではエントランスで彫刻家・岩野勝人氏の作品を展示、実際に座ることのできる鉄筋で出来た人型の作品が好評であった。

会期：1月26日(火)～3月27日(日)

※他会場は2月14日(日)まで

会場：①当館エントランスホール ②金座ボタニカ ③Gallery PSYS ④ギャラリーとりこ ⑤サールナートホール ⑥Gallery UDONOS ⑦静岡県立美術館 ⑧鴨江アートセンター ロビー

出品作家：①岩野勝人 ②・⑧乾久子 ③門田光雅 ④成実憲一 ⑤株式会社大と小とレフ ⑥曾根光輝 ⑦岡本光市・前田直紀

来場者数：89,150人(当館分のみ記載)

出品リスト(当館分のみ)：

①《MENTAL CHAIR IV》1995-2015年、鉄・ウレタン塗料

②《MENTAL CHAIR IX》1997-2013年、鉄・ウレタン塗料

③《HUGE FOOT (2006)》2006-2015年、鉄・ウレタン塗料

主要広報記録：

◆ラジオ

・「展覧会紹介」SBSラジオ『山田辰美の土曜日はごきげん』、12月12日放送。

・「展覧会紹介」SBSラジオ『IPPO』、1月26日放送。

・「展覧会紹介」FM島田『g-sky☆いぶにんぐJAM!』、1月29日放送。

◆新聞

・荒木正親「7会場ぐるっと現代アート 静岡市で開幕 「不思議感覚体験を」」『中日新聞』静岡版、1月27日。

・「静岡でアートをはしご 7人と1組「めぐり」展」『静岡新聞』(夕刊)、1月27日。

・「めぐりアート静岡 回遊で触れる多様性」『静岡新聞』(夕刊)、1月28日。

◆雑誌

・「8会場で8人の作家に会おう「めぐりアート静岡」」『芸術新潮』、2月号。

・「展覧会紹介」『地域情報誌cocogane』、1月25日号。

・「展覧会紹介」『Chanp Magazine』、Issue 11。

◆ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「CINRA.NET」、「アットエス」、「the creators project」、「designboom」



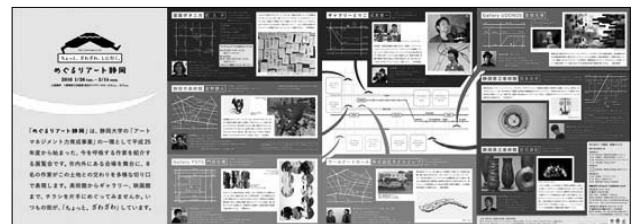
印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞サイズ・加工：297×840mm(仕上A4) 外四つ折り加工



チラシ 表



チラシ 裏

◆記録集

＜仕様＞A4版、32頁



記録集 表紙

白井嘉尚「ちょっと、ざわざわ、しに行く」

ごあいさつ／展覧会趣旨／作家紹介／会場と展示／作家プロフィールと作家コメント／実習記録／受講者企画によるキュレーションの実践／来場者の声／受講者メッセージ 等

編集：白井嘉尚、平野雅彦

発行：国立大学法人 静岡大学

関連事業：

◆アーティストトーク

概要：出品作家本人による作家解説。“街の中の小さなパン屋”のような身近なアーティストと美術の在り方を目指して活動してきた作家の活動の様子を、一部多目的室でスライドも交えながら詳しく聞くことができた。

日時：1月26日(火)15:00－

会場：エントランスホール

参加者数：20人

講師：岩野勝人氏(彫刻家)



3)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業

「しずび出前講座」

概要：「しずび出前講座」は、開催中の展覧会にかかわらず、生涯学習センターに当館学芸員を講師として派遣し、座学やワークショップを実施する連携講座。本年度は座学7講座、その他事業1講座を実施した。

<講義>

①高齢者学級みのり大学 西部学級での講義

概要：西部生涯学習センターロビーでの芹沢銈介パネル展にあわせ開催。芹沢銈介の人となり作品、静岡とのゆかりについて紹介した。

日時：7月16日(木)9:30－

会場：西部生涯学習センター 参加者数：59人

講師：山本香瑞子

②高齢者学級みのり大学 長田学級での講義

概要：「春信一番！写楽二番！」展にあわせ、本展の出品作を中心に、浮世絵とは何かを解説、展覧会の見どころも紹介した。

日時：8月28日(金)9:30－11:30

会場：長田生涯学習センター 参加者数：101人

講師：大石沙織

③「浮世絵入門講座」

概要：「春信一番！写楽二番！」展にあわせ実施。1回目の座学では、はじめに浮世絵とは何かを解説し、続いて江戸後期の浮世絵師、北斎・広重を比較しながら風景版画を紹介した。2回目は当館で開催中の展覧会を展示解説つきで鑑賞した。

日時：①8月29日(土)10:00－11:00

②9月5日(土)9:00－10:00

会場：①西奈生涯学習センター ②当館展示室

参加者数：①20人 ②23人 講師：大石沙織

④「浮世絵の楽しみ方」

概要：「春信一番！写楽二番！」展にあわせ、1回目は本展出品作をもとに、浮世絵とは何かを解説、展覧会の見どころも紹介した。2回目は当館で開催中の展覧会を展示解説つきで鑑賞した。

日時：①9月3日(土)13:30－15:30

②9月10日(木)13:00－14:00

会場：①北部生涯学習センター ②当館展示室

参加者数：①23人 ②28人 講師：大石沙織

⑤「家康、慶喜と静岡の美術・工芸」(全2回)

概要：1回目は家康の甲冑を中心に、「久能山東照宮展」の調査の成果を、2回目は慶喜の油彩画、書など、「没後100年徳川慶喜展」の調査成果を中心に紹介した。

日時：①9月8日(火) ②9月15日(火)

いずれも14:00－16:00

会場：南部生涯学習センター 参加者数：計28人

講師：吉田恵理

⑥「～見比べ！宗達と光琳～」

概要：宗達「風神雷神図屏風」と光琳「紅白梅図屏風」は両者の代表作として知られる。講座ではスライドを見比べ、両者の他の作品も紹介し、その造形性の違いを示した。日本美術の鑑賞の手引きとなるような内容とした。

日時：2月28日(日)14:00－

会場：西奈生涯学習センター 参加者数：31人

講師：吉田恵理

⑦「まるっと富士山 富士山よもやま話 赤富士ってなんだ！－富士山と太陽の関係」

概要：大里生涯学習センター主催の連続講座「まるっと富士山、富士山よもやま話」の1つとして行った出前講座。北斎の「赤富士」の最新の研究を踏まえ、描かれた「赤富士」の意味をさぐる内容とした。

日時：3月26日(土)10:00－12:00

会場：大里生涯学習センター 参加者数：12人

講師：吉田恵理

<その他>

①「懐かしの映画音楽 ～大正琴の調べ～」

概要：「スター・ウォーズ展」に合わせ、地元の大正琴サークルによる映画音楽のコンサートが実施された。映画「スター・ウォーズ」の音楽の演奏の合間に、展覧会の見どころを紹介した。

日時：3月5日(土)14:00－

会場：東部生涯学習センター 参加者数：114人

講師：小川かい

4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)

概要：JR静岡駅前に位置する静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館が特徴を活かして、音楽、科学、美術の境界を越え、総合的な文化空間の創造を目指して連携実施する事業。本年度は5事業を実施した。

(1) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト 科学茶房「青磁のひみつー魅力ある“青”が生まれるまで」

概要：静岡科学館る・く・るの定例事業を、「青磁のいま」展会期中に関連イベントとして実施。本展出品作家である浦口雅行氏を講師として紹介するなどの企画協力を行ったほか、当日講師が持参した作品の取扱いについて、参加者にレクチャーも行った。

日時：6月21日(日)14:00-15:30

講師：浦口雅行氏(「青磁のいま」展出品作家・陶芸家)

会場：静岡科学館る・く・る **参加料：**科学館入館料

参加者数：34人



(2) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト 「青磁釉作りに挑戦！丹波青磁の小皿を作ろう」

概要：「青磁のいま」展巡回館の一つである兵庫陶芸美術館で開催された青磁釉の調合ワークショップを科学館主催事業として実施。当館より兵庫陶芸美術館指導員で、若手陶芸家でもある市野氏を紹介、丹波土にあう青磁釉の調合・施釉を体験できる内容となった。貫入の入るタイプ、入らないタイプの2種の施釉が体験でき、後日焼成され持ち帰ることもできた。

日時：8月5日(水)13:00-15:00

講師：市野秀作氏(兵庫陶芸美術館 陶芸指導員)

会場：静岡科学館る・く・る

参加料：1,500円および科学館入館料

対象・参加者数：小学生以上 32人



(3) 静岡音楽館AOI 第17回「子どものための音楽ひろば」

概要：静岡音楽館AOI主催の、音楽を通した幅広い経験することによって、子どもたちが自らの能力に気付くことを願い、実施される年間講座。本年度当館では、「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」にあわせ、出品作品の絵本を使用した出前講座(①)と、スライドトーク後に展覧会鑑賞(②)を実施した。

日時：①8月15日 ②10月31日 いずれも(土)13:30-15:00

会場：①静岡音楽館AOI講堂 ②当館展示室・多目的室

対象・参加者数：小4～中3 計68人



(4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡・室内楽フェスティバル2015 ミュージアム・コンサート

「後藤幸治&水島結子 琵琶デュオ・コンサート」

概要：「春信一番！写楽二番！」展にあわせ、平家物語や忠臣蔵など、本展に出品されている浮世絵にちなみ、日本の伝統音楽に親しむためのコンサートを実施した。現代風にアレンジした琵琶の力強い演奏と解説により、観客を古典の世界へ引き込んでいた。

日時：9月27日(日)15:00-16:00

会場：多目的室 **参加料：**500円 **参加者数：**89人

出演：後藤幸治氏、水島結子氏

曲目：《平家物語》より〈祇園精舎〉～〈那須与一〉／《梁塵秘抄》より〈うたえやうたえ〉／《閑吟集》より〈逢瀬〉／《忠臣蔵》より八段目〈道行旅路嫁入〉



(5)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
「“この一曲”をとことん語る J.ウィリアムズ：映画『スター・ウォーズ』の音楽」

※48頁および本頁5)キニナルスキニナルプロジェクトを参照。

5)キニナルスキニナルプロジェクト

概要：当館を指定管理する静岡市文化振興財団が、しずおか文化を知って「キニナル」、楽しんで「スキニナル」、そして魅力ある「しずおか文化」を創り出していくことを目的として、平成26年度から実施しているプロジェクト。財団内各施設で実施される「ダンス」「美術」「音楽」「科学」「生涯学習」等の各事業のうち、次の世代に伝えたい文化や、その担い手を育成する事業を対象としている。当館では本年度、講演会、ワークショップ、見学ツアー等計5事業を実施した。

印刷物：

◆事業告知チラシ(静岡市文化振興財団事務局作成)
＜仕様＞ サイズ・加工：A3二つ折り(仕上A4)



10月発行チラシ



12月発行チラシ

(1)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
科学茶房「青磁のひみつー魅力ある“青”が生まれるまで」

※65頁を参照。

(2)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
「青磁釉作りに挑戦！丹波青磁の小皿を作ろう」

※65頁を参照。

(3)キニナルスキニナルプロジェクト
「芹沢銈介の家」お二階拝見ツアー

※38頁を参照。

(4)キニナルスキニナルプロジェクト
芹沢銈介の作品をめぐる 見学ツアー

※39頁を参照。

(5)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
「“この一曲”をとことん語る J.ウィリアムズ：映画『スター・ウォーズ』の音楽」

概要：「スター・ウォーズ展」にあわせ実施。内容については48頁記載の展覧会関連事業と同一だが、本事業は展覧会開催前の実施のため、展覧会の見どころも合わせて紹介した。

日時：1月21日(木)19:00-20:30

会場：南部生涯学習センター **参加者数：**計23人

講師：小林句氏(静岡音楽館AOI学芸員)



6)その他施設との連携等

(1)Kids Art Project Shizuoka

概要：平成27年4月～平成28年3月末まで、「Kids Art Project Shizuoka 実行委員会」に参画、県内の小学生全児童に参加各館のオリジナルスタンプを集めるスタンプラリー付の「しずおかミュージアムパスポート」を配布した。

実施期間：4月1日(水)～3月31日(木)

対象：静岡県内の全小学生(165校・約21万人)

参加料：子ども1人につき500円

加盟館：静岡県内の美術館・博物館計43館



(2)JR東海「アート&トレイン」

概要：JR東海が企画した、電車を利用して、静岡県および山梨県にある全7館の美術館をめぐるスタンプラリー「アート&トレイン」へ協力。パンフレット持参の来館者には当館オリジナルクリアファイルを進呈した。

実施期間：7月18日(土)～11月23日(月・祝)

利用者数：991人



パンフレット表紙

(3)静岡市立中央図書館 2015しずとしょフェスタ

「出張スライドトーク」

概要：「絵本をひらくと」展開連イベント「絵本を楽しむおはなし会」の朗読協力を依頼した、静岡図書館友の会主催による「しずとしょフェスタ」にて、当館学芸員による出張スライドトークを実施した。「絵本をひらくと」と題し、展覧会のコンセプトや視覚芸術としての絵本の絵の魅力について、多角的に紹介した。

日時：11月1日(日)14:00～15:00

場所：静岡市立中央図書館 **参加者数：**32人

講師：安岡真理(当館学芸員)

主要広報記録：

◆新聞

- ・「葵区 絵本を原画展に合わせ展示」『静岡新聞』、10月17日。
- ・「静岡市中央図書館 来月1日フェスタ」『中日新聞』静岡版、10月18日。



4. 受託事業等

4-1 受託事業等

1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展

概要：志田コレクションの優品を、夢二と同時代に建てられた国登録有形文化財の旧五十嵐邸で展示する、毎年恒例の展覧会。

会期：9月10日(木)～13日(日) **来場者数：**283人

展示内容：志田コレクションより

1. 竹久夢二《小春・時雨の炬燵》(双幅)
2. 竹久夢二《羽衣(セノオ楽譜原画)》
3. セノオ楽譜12番『お江戸日本橋』
4. セノオ楽譜27番『唯我心悩ぞ知らめ』
5. セノオ楽譜56番『汝が碧き眼を開け』
6. 中山晋平作曲全集『波浮の港』
7. 夢二名作集 第八回『宵待草』
8. 夢二装幀著作『青い船』
9. 夢二装幀著作『夢二画手本』一～四
10. 夢二装幀著作『風』
11. 夢二装幀著作『春』

計11件15点

主要広報記録：

◆新聞

- ・「竹久夢二の肉筆掛け軸 清水区で展示」『静岡新聞』、9月10日。
- ・「竹久夢二展」『庵原新聞』、9月12日。



2) 静岡市清水文化会館マリナート常設展示

「平野富山ー清水が生んだ彩色木彫の名匠」

概要：今年度で4年目となる静岡市清水文化会館マリナートにおける、彩色木彫家・平野富山の常設展示。静岡市が収蔵する富山作品(彩色木彫35点、塑像等約35点、書2点)と富山の収集品454件を活用し、各期テーマを設けて展示した。また、それに係る展示施工、保存管理、調査研究もあわせて実施した。特に第3期では富山の息子で彩色木彫家の平野千里の作品3点を初めて紹介するなど、収蔵品の活用に努めたほか、富山の収集品のうち、陶磁器の調査を専門家を招いて行った。

テーマ・会期：

【第1期】写実的表現 4月1日(水)～7月28日(火)

【第2期】縁起物 7月29日(水)～11月18日(水)

【第3期】平野富山・千里ー父から子へ

11月19日(木)～2月23日(火)

【第4期】五月飾り 2月24日(水)～6月30日(木)＜予定＞



第2期



第3期



第4期



第1期

作品リスト：

【第1期】テーマ：写実的表現

彩色の濃淡表現による《おさな心》《紀州犬》など、写実的な作品を中心とした富山の彩色木彫を展示。装飾性を重視した日本の伝統的な彩色木彫だけでなく、写実性ある西洋彫刻にも取り組んだ富山の両側面を紹介した。

1. 平野富山《筒井筒》昭和16年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《孫》昭和19年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《紀州犬》昭和49年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《おさな心》昭和59年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《花ごころ》昭和55年、彩色木彫、静岡市
6. 平野富山《敬吉》《しづか》※第6回改組日展出品、昭和49年、石膏、静岡市

【第2期】テーマ：縁起物

《福寿恵比寿尊像》《福寿大黒天尊像》など縁起物をテーマに富山の彩色木彫を展示。また、富山晩年の作《マフラーの女》など、西洋の塑像によく見られる裸婦像を彩色木彫で表現した、斬新な主題の作品も紹介した。

1. 平野富山《福寿恵比寿尊像》昭和47年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《福寿大黒天尊像》昭和47年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《瑞果喜猿》昭和54年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《欄間扇面散らし》昭和22年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《マフラーの女》昭和59年、彩色木彫、静岡市
6. 平野敬吉(富山)《おもがえり》※第4回改組日展出品作品、昭和47年、FRP、静岡

3)徳川家康公顕彰四百年記念事業

神の葵と将軍の葵—京都洛北世界遺産 上賀茂神社展—

概要：昨年度に引き続き、上賀茂神社の御神宝26件(重要文化財2件11点を含む)により、上賀茂神社の概要、葵祭の概要と歴史、徳川家と上賀茂神社の関係、上賀茂神社の遷宮について、展示公開した。展覧会の詳細および出品作品等については、「静岡市美術館年報 No.5」70～71頁を参照。

会期：3月28日(土)～4月5日(日)(第2部：4月1日(水)～5日(日))

会場：第1、第3展示室

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、徳川家康公顕彰四百年記念事業静岡部会事業実施本部

特別協力：賀茂別雷神社

観覧料：無料 **観覧者数：**1,829人

関連事業：

◆「葵祭のヒロイン・斎王代」

概要：第2部では、展示室の内容を補い、多目的室にて上賀茂神社の斎王代を紹介する展示を実施。斎王や賀茂祭に関する和歌パネルを吊り、平安時代の雅を演出した。また、期間限定で斎王代が実際に身に付ける十二単も展示、360度どの角度からでも鑑賞できるようにした。なお、斎王代が静岡まつり「葵使歓迎式」へ隣席したのにあわせ、会期中に斎王代との撮影会も実施した。

会期：4月1日(水)～5日(日)

※斎王代との撮影会は4月4日(土)15:30～16:00に実施。

会場：多目的室

入場者数：1,829人

【第3期】テーマ：平野富山・千里—父から子へ

富山の作品に加え、その次男・千里が手掛けた彩色木彫作品で静岡市が所蔵する《不動明王半跏像》《矜羯羅童子》《制吒迦童子》の3点すべてを出品。父・富山の技を受け継ぎ、現在も活躍する彩色木彫家・千里と富山父子の作品を紹介する初の機会となった。

1. 平野富山《稚児雛》昭和15年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《親王雛》昭和51年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《母子順風》昭和55年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《顔》昭和40年代、ブロンズレリーフ、静岡市
5. 平野千里《不動明王半跏像》平成7年、彩色木彫、静岡市
6. 平野千里《制吒迦童子》平成6年、彩色木彫、静岡市
7. 平野千里《矜羯羅童子》平成7年頃、彩色木彫、静岡市

【第4期】テーマ：五月飾り ※一部展示替え有

五月飾りをテーマに「鍾馗」などを主題とした富山の彩色木彫を展示。あわせて、400点にのぼる富山の収集品より、伝 円山応挙のほか、加納鉄哉や松本楓湖など、近世・近代の画家が描いた鍾馗図などを紹介した。

1. 平野富山《天満大自在天神》昭和54年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《韋駄天童子》昭和49年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《鍾馗》昭和50年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《敬吉》《裸婦》※第2回新日展出品 特選、昭和34年、FRP、静岡市
5. 平野富山《敬吉》《楽園》※第7回新日展出品、昭和39年、FRP、静岡市
6. 加納鉄哉《鍾馗》大正13年、絹本着色一幅、静岡市/平野富山コレクション ※～3月末まで展示
7. 松本楓湖《鍾馗》明治時代、絹本着色一幅、静岡市/平野富山コレクション ※3月末～5月初旬まで展示
8. 伝 円山応挙《鍾馗》江戸時代、紙本着色一幅、静岡市/平野富山コレクション ※5月初旬～6月まで展示予定



「葵祭のヒロイン・斎王代」展示風景



斎王代との撮影会

◆記念シンポジウム「葵をめぐる 京都×静岡」

概要：静岡まつりにあわせて「斎王代」が来静するのを記念し、上賀茂神社と徳川家の“葵”をめぐる交流を探る基調講演とシンポジウムを実施した。葵使および上賀茂神社の文書調査の研究に長く携わってきた、宇野氏のユーモアあふれる明解な基調講演に導かれながら、上賀茂神社宮司、斎王代の太田氏をパネラーに当館館長が司会を務め、京都と静岡を結ぶ、葵使について理解を深めることができた。

日時：4月4日(土)10:30-12:00

会場：多目的室 **参加者数：**131人

講師等：

<第1部(基調講演)> 宇野日出生氏(京都市歴史資料館)

<第2部(ディスカッション)>

パネリスト：太田梨紗子氏(第59代斎王代)、

田中安比呂(上賀茂神社宮司)、宇野日出生氏

コーディネーター：田中豊稲(当館館長)



宇野氏基調講演



シンポジウム
(右より宇野氏、太田氏、田中宮司、当館田中)

4)中勘助生誕130年・没後50年

中勘助文学記念館開館20周年記念事業

展覧会『縁の作家、中勘助展～静岡の人々と共に』

概要：静岡で4年半をすごした作家・中勘助に関する展覧会開催への協力を行った。中勘助の代表作『銀の匙』の由来となった「匙」をはじめ、『銀の匙』を称賛した夏目漱石からの書簡、遺族より寄贈された草稿や愛用品、物心ともに中夫妻を支えた稲森道三郎らとの交流の証、来静前の心の拠り所であった兄嫁末子の遺品等、初公開を含め約60点を展示した。また、顕彰誌の発刊、鑑賞ガイドの作成・配布などにも協力した。

会期：2月3日(水)-2月18日(木)

会場：静岡市民ギャラリー 第4展示室 **入場者数：**1,333人

主催：静岡市

企画・制作：(公財)静岡市文化振興財団

協力：静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

監修：木内英実(東京都市大学准教授)

主要広報記録：

◆新聞

・「静岡市ゆかりの作家 中勘助の文学たどる 葵区 貴重な書簡や初版本」『静岡新聞』、2月4日。

・荒木正親「静岡での中勘助たどる 顕彰誌が完成」『中日新聞』静岡版、2月6日。

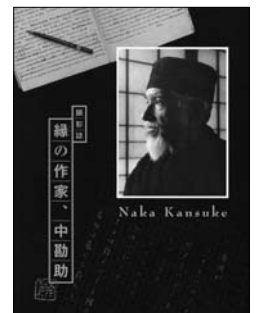
制作物：

◆顕彰誌

<仕様>295×225mm、71頁

編集：(公財)静岡市文化振興財団

発行：静岡市



◆鑑賞ガイド

<仕様>182×128mm、10頁

編集：(公財)静岡市文化振興財団

発行：静岡市



5. 調査研究・研修受入等

5-1 調査研究

平成27年度中に当館職員が行った、館外での主な活動および執筆・寄稿等は下記のとおりである。

●以倉新

<館外での活動>

・静岡市立芹沢銈介美術館 協議会委員(第1回:8月29日、第2回:2月27日)

・「Art Court Frontier 2015 #13」展推薦委員

(会期:8月1日～9月12日 会場:アートコートギャラリー<大阪>主催:アートコートフロンティア展実行委員会)

・静岡県立美術館 専門評価員(11月25日)

・静岡大学アートマネジメント力育成事業 実習

・京都造形芸術大学通信教育部博物館学芸員課程 非常勤講師

<展覧会カタログ編集・執筆>

・「大原美術館展 名画への旅」カタログ、作品解説(第5章)執筆

・「Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭」展カタログ監修、作家論執筆「抽象する場 福嶋敬恭の作品について」『Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭』マイブックサービス、145-154頁。

<雑誌・新聞等寄稿>

・以倉新「少女は強くなったか? : ブロック報告(東海ブロック)」『ZENBI 全国美術館会議機関誌』vol.8、12-13頁。

・「Art Court Frontier 2015 #13」展推薦文執筆「(谷口嘉の作品について)」『Art Court Frontier 2015 #13』7頁。

・以倉新「岩野勝人さんと『MENTAL CHAIR』の20年」『めぐりアート静岡 ちょっと、ざわざわ、しにいく』静岡大学、5頁。

●吉田恵理

<館外での活動>

・東京文化財研究所企画情報部『第49回オープンレクチャー モノ／イメージとの対話』講演会講師(10月31日)

演題「池大雅の山水画を考える—二つの「六遠図」を手がかりに—」

・静岡産業大学『浦田周社木版画美術館』開設準備(2月26日)

<展覧会カタログ編集・執筆>

・「錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!」カタログ編集、作品および絵師解説、浮世絵版画の様式、錦絵「摺り」の工程、浮世絵師・浮世絵関連年表執筆

・「顕彰誌 緑の作家、中勘助」編集

・「緑の作家、中勘助」鑑賞ガイド執筆と編集

<雑誌・新聞等寄稿>

・吉田恵理「声に乗る美人 その実態は…ダルマ!? 植物が登場するアートたち」『小原流草花』7月号

・吉田恵理「春信一番! 写楽二番! ①: ダルマ紅一色の美人に鈴木春信「やつし芦葉達磨」中判錦絵: フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月4日。

・吉田恵理「春信一番! 写楽二番! ②: 今にも躍動 迫力の構図 東洲斎写楽「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」大判錦絵: フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月5日。

・吉田恵理「春信一番! 写楽二番! ⑥: 「線」に表情「赤」効果的に 初代鳥居清信「二代目市川團十郎の鳴神上人と中村竹三郎の雲の絶間姫」大判丹絵: フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月25日。

・吉田恵理「春信一番! 写楽二番! ⑦: 「古歌を絵に 翻案の妙」

鈴木春信「風俗四季哥仙 五月雨」中判錦絵: フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月26日。

・吉田恵理「生誕130年没後50年 中勘助と静岡 熱砂の中のオアシス」『静岡新聞』、2月8日。

●山本香瑞子

<展覧会カタログ編集・執筆>

・「大原美術館展 名画への旅」作品解説(第3章)執筆。

・「静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様」カタログ編集、章解説および作品解説執筆。

●小川かい

<館外での活動>

・静岡県博物館協会事業推進グループ委員

・静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科「芸術文化基礎」『博物館資料論』特別講師(11月24日)

<展覧会カタログ編集・執筆>

・「大原美術館展」カタログ編集補助

<雑誌・新聞等寄稿>

・小川かい「あの銀河へ 小道具や絵画、映像がいざなう スター・ウォーズの世界を堪能 1月23日(土)～3月27日(日)静岡市美術館 スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。」『中日新聞』静岡版、1月22日。

・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。①: スター・ウォーズの原点 脚本を忠実に視覚化」『中日新聞』静岡版、2月3日。

・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。②: ダース・ベイダーとC-3PO 魅力あふれる登場者」『中日新聞』静岡版、2月4日。

・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。③: フォースの光と闇 善と悪の壮絶な戦い」『中日新聞』静岡版、2月5日。

・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。④: 戦いと兵器 数々の名シーンが登場」『中日新聞』静岡版、2月6日。

・小川かい「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。⑤: 銀河と生態系/アートに広がるギャラクシー 現代アートに広がり」『中日新聞』静岡版、2月7日。

<その他>

・「静岡美術50年史: 80's 静岡市美術館学芸員 小川かいさん」『静岡時代』40号。

●森谷紗世

<館外での活動>

・「日本平動物園写生大会」審査(静岡市立日本平動物園、12月3日)

<展覧会カタログ編集・執筆>

・「青磁のいま」展カタログ編集、作家解説および略歴執筆

・「青磁のいま」展展覧会ガイド執筆、編集

・「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」カタログ編集

<雑誌・新聞等寄稿>

・森谷紗世「理想の“青”を求めて 青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで 憧れを原動力に 時代を映す多様な表

現』『新美術新聞』No.1381、7月11日。

＜その他＞

・「静岡市美術館 ワークショップシリーズ記録集」カタログ編集、エッセイ「未就学児と美術、未就学児と美術館」および扉解説、事業解説執筆

●伊藤鮎

＜展覧会カタログ編集・執筆＞

・「大原美術館展 名画への旅」カタログ編集、章解説、作品解説執筆。

・「Shizubi Project5 抽象する場 福岡敬恭」カタログ編集。

＜雑誌・新聞等寄稿＞

・伊藤鮎「大原美術館展 名画への旅 上一児島虎次郎《芝の上》」『静岡新聞』（夕刊）、4月14日。

・伊藤鮎「大原美術館展 名画への旅 中一アメデオ・モデリアーニ《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》」『静岡新聞』（夕刊）、4月15日。

・伊藤鮎「大原美術館展 名画への旅 下一芹沢銈介《伊曾保物語屏風》」『静岡新聞』（夕刊）、4月16日。

●大石沙織

＜展覧会カタログ編集・執筆＞

・「錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！」カタログ編集、浮世絵版画の様式、錦絵「摺り」の工程、浮世絵師・浮世絵関連年表執筆。

・「静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様」カタログ、資料編集。

＜雑誌・新聞等寄稿＞

・大石沙織「春信一番！写楽二番！③：恋する女 鮮やかな表情 初代喜多川歌麿「歌撰恋之部 逢恋」大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月6日。

・大石沙織「春信一番！写楽二番！④：赤く染まる富士 刻一刻 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」横大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月7日。

・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑤：写実より物珍しい「浮絵」 奥村政信「風雅火鉢無間鐘浮絵根元」横大判墨摺筆彩：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月8日。

・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑧：「人々が驚く「鶯の目線」 初代歌川広重「名所江戸百景 深川洲崎十万坪」大判錦絵：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月27日。

・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑨：「江戸の粋」びっしりと」千社札貼込帖5帖：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月28日。

・大石沙織「春信一番！写楽二番！⑩：「「ありのまま」が上方流」 有楽斎長秀「二代目沢村田之助のこし元千鳥」八角团扇判合羽摺：フィラデルフィア美術館所蔵」『読売新聞』静岡版、8月29日。

●安岡真理

＜館外での活動＞

・「日本平動物園写生大会」審査（静岡市立日本平動物園、12月10日）

・2015しずとしょフェスタ「絵本をひらくと」、静岡市立中央図書館、11月1日。

＜研究発表・論文等＞

・発表：「静岡市美術館の教育普及事業について」（美術科教育法Ⅱ・前期）、静岡大学、6月23日。

・発表：「静岡市美術館の教育普及事業について」（美術科教育指導論・後期）、静岡大学、12月16日。

＜展覧会カタログ編集・執筆＞

・「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」カタログ編集、エッセイ「絵本をひらくと」および章解説、作品解説執筆

・「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」親子ガイド執筆、編集

＜雑誌・新聞等寄稿＞

・安岡真理「「絵本をひらくと」展の準備をしながらおもうこと」『静岡図書館友の会 会報』、第14号。

・安岡真理「山本二三展：魅力を語る 下 登場人物の心情補う」『南日本新聞』、8月8日。

・安岡真理「思い出す あのこと あす静岡市美術館で開幕 11月23日まで ちひろ美術館世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」『中日新聞』静岡版、10月9日。

・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介①：イメージの源流 探る 赤羽末吉《だいくとおにろく》表紙 1962年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月18日。

・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介②：色づかいを楽しんで 長新太《ゴムあたまボンたろう》表紙 1998年 ちひろ美術館蔵」『中日新聞』静岡版、10月19日。

・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介③：子どものころの感覚 茂田井武《我ハ野ノ鳥》 1946年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月20日。

・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介④：母のまなざし いわさきちひろ《あめのひのおるすばん》より 1968年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月21日。

・安岡真理「絵本をひらくと 静岡市美術館 原画展紹介⑤：リズムミカルな色 エリック・カール《はらぺこあおむし》のイメージ 1999年 ちひろ美術館」『中日新聞』静岡版、10月22日。

＜その他＞

・「静岡市美術館 ワークショップシリーズ記録集」カタログ編集、エッセイ「見ること、感じること、そしてつくること」および扉解説、事業解説執筆

◆教育プログラム企画・制作(担当：森谷・安岡)

・「しずびチビッコプログラム」オリジナルプログラム(各展覧会・計6種)

・「しずびオープンアトリエ」オリジナルプログラム(計2種)

夏：「青磁の色とかたちをつくろう！」

春：「未知の惑星と宇宙人でモビールをつくろう！」

・「プレゼントワークショップ」(計4種)

vol.14「母の日だ！柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」、

vol.15「父の日だ！柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」、

vol.16「クリスマスの準備をしよう！」(子ども編・大人編)

・「暦とあそぶワークショップ」(計2種)

vol.10「こどもの日の準備をしよう！」、vol.11「節分の準備をしよう！」

5-2 研修受入等

平成27年度に当館で受け入れた学校・他施設等の職員研修は下記のとおりである。

1) 教員10年目経験者研修の受入

受入日時：①8月12日(水)10:10-16:50 ②8月13日(木)9:10-15:50 ③8月14日(金)13:00-19:00 計3日間

研修者：徳山大輔(静岡市立千代田小学校)

内容：展覧会の展示演出・美術館での作品保存についての講義聴講、「夜店市」従事、「オープンアトリエ」の体験等。

5-3 博物館実習

以下の要領で学芸員資格取得を目指す学生を対象に博物館実習を行った。

対象：博物館法施行規則第一条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中で、以下の要件を満たす者。ただし学芸員資格を既に取得済みの者は除く。

- ①美学・美術史または美術教育専攻であること。(美術館で研修する理由がある者)
- ②静岡県内在学者もしくは県内に帰省先があること。
- ③パソコンのメールアドレスを持っていること。(携帯メールは不可)
- ④学部3年生以上であること。(4年生を優先する)

実習期間：8月11日(火)-15日(土) 計5日間

実習場所：当館および静岡市清水文化会館マリナート

受入大学・人数：静岡大学、静岡文化芸術大学、広島大学、大阪芸術大学、京都造形芸術大学 計5大学5人

実習日	時 間	実 施 内 容
11日(火)	9:10- 9:55 10:10-11:00 11:10-12:00 13:40-14:30 15:00-16:50	ガイダンス・職員紹介・施設案内 静岡市美術館の特色について(講義) 展覧会見学 静岡市美術館の教育普及活動について(講義) オープンアトリエ体験(実習)
12日(水)	10:10-11:00 11:10-12:00 13:00-13:50 14:00-16:50	展覧会の作り方(講義) 展示・演出について(講義) 美術品の調査の仕方・作品の取扱い(実習) 作品調査①(実習)＜於：静岡市清水文化会館マリナート＞
13日(木)	9:10- 9:55 10:10-11:00 11:10-12:00 13:00-14:50 15:00-15:50	自記温湿度計の取扱い(実習) 美術館の展示・保存について(講義) 図書の整理①(実習) 作品調査②(実習)＜於：静岡市美術館＞ 夜店市の準備・展示準備室の整理等
14日(金)	13:00-13:50 14:00-14:50 15:00-19:00	館長講話(講義) 静岡市美術館の広報活動について(講義) 夜店市補助(実習)
15日(土)	10:10-12:00 13:00-15:50	図書の整理②(実習) 「これまでの実習で学んだこと」(実習生による発表)

5-4 視察等受入

平成27年度受入分は下記のとおりである。

	日 付	視察団体名	人数
1	4月23日(木)	静岡市立中央図書館	16人
2	6月25日(木)	指定都市科学館連絡会議	25人
3	8月27日(木)	静岡市役所広報課	16人
4	9月9日(水)	静岡市役所青少年育成課適応指導教室	27人
5	10月14日(水)	久留米市文化振興課	5人
6	11月19日(木)	静岡市役所青少年育成課適応指導教室	33人
7	1月28日(木)	静岡市役所青少年育成課適応指導教室	14人
8	2月10日(水)	静岡市役所青少年育成課適応指導教室	40人

(※外部施設との連携事業における展示解説分は除く。) 計 8件 176人

6. 収蔵品・図書等

6-1 収蔵品・画像貸出等

平成27年度は、収蔵品・画像貸出等は行わなかった。

6-2 図書等

平成27年度図書等受入数

	購入	寄贈	合計
カタログ	12冊	548冊	560冊
雑誌	54冊	117冊	171冊
一般図書・その他	102冊	564冊	666冊
合計	168冊	1,229冊	1,397冊

7. 広報活動

7-1 広報印刷物

1)年間スケジュール

平成27(2015)年度展覧会スケジュールを下記のとおり制作し、ウェブサイトに掲載した。

<仕様>紙：マットコート 110kg

サイズ・数量：210×396mm（仕上 210×99mm）45,000部(日本語版)、500部(英語版)

加工：観音折り(四つ折り)加工

印刷：オフセット印刷(日本語版)、オンデマンド印刷(英語版)

◆日本語版年間スケジュール



◆英語版年間スケジュール



2) ワークショップシリーズ年間スケジュール

平成27(2015)年度ワークショップシリーズ年間スケジュールを下記のとおり制作した。

＜仕様＞紙：片艶晒クラフト 86kg

サイズ・数量：A4(仕上A5) 20,000部

加工：二つ折り加工



表紙



表面



中面

7-2 ウェブサイト

展覧会情報を中心に、関連イベントの情報や施設概要、ショップ情報についても掲載。スマートフォンサイトとも連動している。また、ブログ、ツイッターも開設し、常にタイムリーな情報発信を行っている。

ウェブサイト構成：(<http://www.shizubi.jp>)

- 展覧会
 - ・これからの展覧会
 - ・開催中の展覧会
 - ・年間スケジュール
 - ・過去の展覧会
- イベント
 - ・これからのイベント
 - ・今までのイベント
- ショップ&カフェ
 - ・ショップ&カフェ
 - ・アーカイブ
- 学校・団体鑑賞
- プレス
- アクセス・利用案内
 - ・アクセス/利用案内
 - ・駐車場
- 美術館の概要
 - ・館長挨拶
 - ・コンセプト
 - ・施設概要
 - ・ロゴについて
 - ・沿革
- その他(リンク)
 - ・ブログ(<http://www.shizubi.jp/blog/index.php>)
 - ・ツイッター(http://twitter.com/shizubi_jp)

アクセス数：339,839件(1日平均 約929件)



パソコン版ホームページ



スマートフォン版ホームページ

7-3 施設広報記録

展覧会事業・交流事業以外の美術館施設に関する主な取材記録は下記のとおりである。

1)新聞

- ・「しずおかドリル　びじゅつ：修善寺温泉のはじまり・2016年4月から2017年3月の展覧会スケジュール」『静岡新聞』、3月31日。

2)雑誌等

- ・「施設紹介」『しずおか　生活ガイドブック　2015』、6月1日。
- ・「施設紹介」『静岡駅周辺のご案内』、7月29日。
- ・「施設紹介」『Baratee　タプロイドバラッティ』、vol.2、8月31日。
- ・「開館5周年を迎えた静岡市美術館(写真)」『静岡の博物館』、No.75。
- ・「おとなの遠足：感性を刺激する　アートな休日」『月刊トコチャン』、10月号。
- ・「08 静岡市美術館　ジャンルにとらわれない多彩な展覧会が魅力」『しずおかアートさんぽ』、11月5日。
- ・「施設紹介」『まっふるマガジン　静岡2016』、11月15日。
- ・坪井則子「思いのままに、展覧会そぞろ歩き」『ZEMBI　全国美術館会議機関誌』vol.9、12-13頁。
- ・「施設紹介」『日本の美術館　2016　ベスト200最新案内』、3月10日。

3)ウェブサイト(媒体名のみ記載)

- ・「JRウェブサイト　shupo」

8. 管理運営

8-1 利用者数

1)利用者数(月別) (単位:人)

	展覧会 観覧者	展覧会関連事業 参加者	交流事業 参加者	連携事業 参加者	その他事業 参加者	事業参加者 計	総入館者
4月	5,990	311	21	0	3,789	10,111	22,376
5月	26,143	850	59	0	0	27,052	44,871
6月	3,156	225	35	34	0	3,450	13,138
7月	5,063	508	19	59	0	5,649	15,946
8月	9,029	443	24,135	188	0	33,795	25,621
9月	13,134	528	29,945	140	283	44,030	29,850
10月	17,875	9,792	2,868	0	0	30,535	38,458
11月	23,961	1,430	147	1,023	0	26,561	46,550
12月	3,973	730	35	0	0	4,738	15,112
1月	10,921	68	144	10,716	0	21,849	28,035
2月	16,690	416	163	37,083	1,333	55,685	37,052
3月	19,871	375	208	41,551	0	62,005	42,790
計	155,806	15,676	57,779	90,794	5,405	325,460	359,799
月平均	12,984	1,306	4,815	7,566	450	27,122	29,983

2)利用者数 事業別

展覧会名	実施期間	入場者等
静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	4月18日～5月31日 (開館39日間)	32,133人 (824人/日)
青磁のいま－受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6月13日～8月16日 (開館56日間)	13,907人 (248人/日)
錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!	8月23日～9月27日 (開館36日間)	16,475人 (458人/日)
静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10月10日～11月23日 (開館39日間)	41,836人 (1,073人/日)
静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12月5日～1月11日 (開館29日間)	7,502人 (259人/日)
スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日～3月27日 (開館57日間)	43,953人 (771人/日)
展覧会 観覧者 計		155,806人
普及事業参加者 (展覧会関連事業参加者+交流事業参加者+連携事業参加者+その他事業参加者)		169,654人
事業参加者 総計 (展覧会観覧者+普及事業参加者)		325,460人
総入館者数(エントランス入口自動カウンター集計数)	4月1日～3月31日	359,799人

3)利用者数(事業別詳細)

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会 事業	展覧会		計6本 155,806人		
	大原美術館展 名画への旅	4/18-5/31 (39日間)	25,000	32,133	128.5%
	青磁のいま-受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6/13-8/16 (56日間)	13,000	13,907	107.0%
	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!	8/23-9/27 (36日間)	24,000	16,475	68.6%
	ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10/10-11/23 (39日間)	30,000	41,836	139.5%
	芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12/5-1/11 (27日間)	13,000	7,502	57.7%
	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1/23-3/27 (57日間)	35,000	43,953	125.6%
展覧会 関連事業	ミュージアム教室		計3,407人(113団体/117回)		
	大原美術館展 名画への旅	4/18-5/31 (全15回)	415(13団体/15回)		
	青磁のいま-受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6/13-8/16 (全12回)	460(11団体/12回)		
	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!	8/23-9/27 (全10回)	191(10団体/10回)		
	ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10/10-11/23 (全46回)	1,565(46団体/46回)		
	芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12/5-1/11 (全6回)	104(6団体/6回)		
	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1/23-3/27 (全28回)	672(27団体/28回)		
	その他展示解説		計819人(24団体/24回)		
	大原美術館展 名画への旅	4/18-5/31 (全4回)	158(4団体/4回)		
	青磁のいま-受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6/13-8/16 (全1回)	15(1団体/1回)		
	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!	8/23-9/27 (全9回)	434(9団体/9回)		
	ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10/10-11/23 (全5回)	107(5団体/5回)		
	芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12/5-1/11 (全2回)	18(2団体/2回)		
	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1/23-3/27 (全3回)	87(3団体/3回)		
	大原美術館展 名画への旅		計6本 588人		
	葵タワー・静岡市美術館開館5周年スペシャルイベント 開幕式・内覧会&特別講演会にご招待!	4/17	50 (開幕式・内覧会)	49 (開幕式・内覧会)	98.0% (開幕式・内覧会)
			70 (特別講演会)	91 (特別講演会)	130.0% (特別講演会)
	特別講演会 「絵画の冒険 大原美術館所蔵作品にみる西洋と東洋」	4/18	70	122	174.3%
	当館学芸員によるギャラリートーク	5/2、5/23	40	109	272.5%
	シズオカ×カンヌウィーク2015連動企画 映画上映会『モンパルナスの灯』	5/3	70	112	160.0%
	講演会「洋画家たちの挑戦-大原美術館所蔵作品を中心に」	5/10	70	105	150.0%

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会 関連事業	青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代まで		計4本 320人		
	アーティストトーク①	6/27	70	58	82.9%
	講演会 「青磁ー受け継がれた技と美 近・現代陶芸作品を中心にー」	7/4	70	109	155.7%
	アーティストトーク②	7/11	70	70	100.0%
	学芸員によるギャラリートーク	7/18、8/8	40	83	207.5%
	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！		計4本 284人		
	講演会①「フィラデルフィア美術館の浮世絵ー春信・写楽・千社 札を中心にー」	8/23	70	96	137.1%
	講演会②「春信の浮世絵革命ー錦絵の誕生」	9/5	70	110	157.1%
	当館学芸員によるスライドトーク	9/6、9/13	40	78	195.0%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 静岡・室内楽フェスティバル2015 ミュージアム・コンサート 「後藤幸治&水島結子 琵琶デュオ・コンサート」	9/27	※静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業欄に記載		
	ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと		計6本 9,550人		
	講演会「絵本の絵の読み方ー世界の絵本画家とちひろの絵」	10/10	100	110	110.0%
	スズキコージのライブペインティング	10/11、10/12	-	8,211	-
	絵本を楽しむおはなし会	10/17ー11/21 (全6回)	240	926	385.8%
	当館学芸員によるスライドトーク	10/25、11/15	40	94	235.0%
	テレビ静岡アナウンサーの絵本読み語り会	10/31	-	106	-
	講演会「長新太とボク」	11/22	70	103	147.1%
	芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様		計5本 251人		
	記念講演会「芹沢銈介の表現と視点」	12/5	100	128	128.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト 「芹沢銈介の家」お二階拝見ツアー	12/12	20	20	100.0%
	記念セミナー「芹沢銈介について」	12/19	70	58	82.9%
	学芸員によるギャラリートーク	12/20	-	24	-
	キニナルスキニナルプロジェクト 芹沢銈介の作品をめぐる 見学ツアー	12/23	20	21	105.0%
	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。		計2本 457人		
	HOTひといきコンサート『映画音楽特集』	12/16	-	357	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「この1曲」とことん語る J.ウィリアムズ：映画『スター・ウォーズ』の音楽」	2/13	70	100	142.9%
交流事業	Shizubi Project		計3本 53,758人		
	Shizubi Project 5 抽象する場 福嶋敬恭	8/4ー9/27 (53日間)	-	53,661	-
	アーティストトーク	8/4、9/27	40	66	165.0%
	カタログ刊行記念 トークイベント	9/26	50	31	62.0%
	Shizubiシネマアワー		計4本 351人		
	Shizubiシネマアワー vol.15「印象派の画家ールノワールとモリゾ」 ①『ルノワール 陽だまりの裸婦』	10/17	70	85	121.4%
	Shizubiシネマアワー vol.15「印象派の画家ールノワールとモリゾ」 ②『画家モリゾ マネの描いた美女 名画に隠された秘密』	10/18	70	71	101.4%
	Shizubiシネマアワー vol.16 『世界一美しい本を作る男ーシュタイデルとの旅ー』	1/9	70	104	148.6%
	Shizubiシネマアワー vol.17 『美術館を手玉にとった男』	3/5	70	91	130.0%

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
交流事業	ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」		計1本 126人		
	第9回「MUSIC CARAVAN」	11/3	100	126	126.0%
	しずびオープンアトリエ		計2本 542人		
	夏・「青磁のいま」展関連プログラム 「青磁の色とかたちをつくろう！」	8/1－8/16 (14日間)	196	304	155.1%
	春・「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。」 関連プログラム 「未知の惑星と宇宙人でモビールをつくろう！」	2/6－3/20 (14日間)	196	238	121.4%
	しずびチビッコプログラム		計6本 14回 146人		
	大原美術館展 名画への旅	5/23 (全2回)	20	25	125.0%
	青磁のいま－受け継がれた技と美 南宋から現代まで	7/26 (全2回)	20	19	95.0%
	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	9/12 (全2回)	20	18	90.0%
	ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	11/8 (全2回)	20	21	105.0%
	芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	1/9 (全2回)	20	21	105.0%
	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	2/11、3/21 (全4回)	40	42	105.0%
	暦とあそぶワークショップ		計2本 40人		
	暦とあそぶワークショップ vol.10 「こどもの日の準備をしよう！」	4/25	20	21	105.0%
	暦とあそぶワークショップ vol.11 「節分の準備をしよう！」	1/30	20	19	95.0%
	プレゼントワークショップ		計4本 104人		
	静岡市美術館開館5周年記念 プレゼントワークショップ vol.14 「母の日だ！柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」	5/2	24	34	141.7%
	静岡市美術館開館5周年記念 プレゼントワークショップ vol.15 「父の日だ！柿木原さんとタイルでプレゼントをつくろう」	6/13	24	35	145.8%
	プレゼントワークショップ vol.16 「クリスマスの準備をしよう！」(子ども編)	12/12	20	18	90.0%
	プレゼントワークショップ vol.16 「クリスマスの準備をしよう！」(大人編)	12/13	20	17	85.0%
	その他交流事業		計2本 2,712人		
	夜店市	8/14－8/16 (3日間)	-	-	-
	静岡市美術館開館5周年記念 ポスター展	10/1－10/7 (6日間)	-	2,712	-
連携事業	■静岡大学アートマネジメント力育成事業「めぐるりアート静岡」		計2本 89,170人		
	静岡大学アートマネジメント力育成事業 「めぐるりアート静岡」	1/26－3/27 (61日間)	-	89,150	-
	静岡大学アートマネジメント力育成事業 「めぐるりアート静岡」アーティストトーク	1/26	-	20	-
	■生涯学習センターとの連携事業				
	展示解説付き講座		計9本		
	駿河生涯学習センター 高齢者学級みのり大学 小鹿学級	8/25	※その他展示解説に含む		

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
連携事業	西奈生涯学習センター しずび出前講座「浮世絵入門講座」②	9/5	※その他展示解説に含む		
	北部生涯学習センター しずび出前講座「浮世絵の楽しみ方」②	9/10	※その他展示解説に含む		
	キニナルスキニナルプロジェクト 西奈生涯学習センター 「読み聞かせと絵本の世界」③	10/21	※その他展示解説に含む		
	西部生涯学習センター 「絵本を楽しむ～美術館鑑賞と絵本解説～」②	10/24	※その他展示解説に含む		
	駿河生涯学習センター 「ちひろ美術館～コレクション鑑賞会～」	10/31	※その他展示解説に含む		
	キニナルスキニナルプロジェクト 藁科生涯学習センター 「「絵本」とあそび」①	11/11	※その他展示解説に含む		
	長田生涯学習センター 「知ろう 芹沢銈介の世界」①	12/9	※その他展示解説に含む		
	北部生涯学習センター美和分館 「星の美術展と夜空と月の観望会」①	2/6	※その他展示解説に含む		
	しずび出前講座(座学)※当館学芸員が講師として参画		計7本 274人		
	西部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学 西部学級	7/16	110	59	53.6%
	長田生涯学習センター 高齢者学級みのり大学 長田学級	8/28	150	101	67.3%
	西奈生涯学習センター しずび出前講座「浮世絵入門講座」①	8/29	30	20	66.7%
	北部生涯学習センター しずび出前講座「浮世絵の楽しみ方」①	9/3	30	23	76.7%
	南部生涯学習センター しずび出前講座「家康、慶喜と静岡の美術・工芸」	9/8、9/15	30	28	93.3%
	西奈生涯学習センター しずび出前講座「～見比べ！宗達と光琳～」	2/28	30	31	103.3%
	大里生涯学習センター 「まるっと富士山 富士山よもやま話 赤富士ってなんだ！－富士山と太陽の関係」	3/26	30	12	40.0%
	しずび出前講座(その他)		計1本 114人		
	東部生涯学習センター 「懐かしの映画音楽 ～大正琴の調べ～」	3/5	100	114	114.0%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)		計5本 190人		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 科学茶房「青磁のひみつ－魅力ある"青"が生まれるまで」	6/21	30	34	113.3%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「青磁釉作りに挑戦！丹波青磁の小皿を作ろう」	8/5	30	32	106.7%
	静岡音楽館A O I 第17回「子どものための音楽ひろば」	8/15	50	35	70.0%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡・室内楽フェスティバル2015 ミュージアム・コンサート 「後藤幸治&水島結子 琵琶デュオ・コンサート」	9/27	70	89	127.1%
	静岡音楽館A O I 第17回「子どものための音楽ひろば」	10/31	※その他展示解説に含む		
	キニナルスキニナルプロジェクト		計6本 23人		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 科学茶房「青磁のひみつ－魅力ある"青"が生まれるまで」	6/21	※静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業欄に記載		

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
連携 事業	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「青磁釉作りに挑戦！丹波青磁の小皿を作ろう」	8/5	※静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業欄に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト 「芹沢銈介の家」お二階拝見ツアー	12/12	※展覧会関連事業欄に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト 芹沢銈介の作品をめぐる 見学ツアー	12/23	※展覧会関連事業欄に記載		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「この1曲」とことん語る J.ウィリアムズ：映画『スター・ウォーズ』の音楽」(南部生涯学習センター開催分)	1/21	30	23	76.7%
	■その他連携事業		計3本 1,023人		
	Kids Art Project Shizuoka	4/1-3/31	-	-	-
	JR東海「アート&トレイン」	7/18-11/23	-	991	-
	静岡市立中央図書館 2015しずとしょフェスタ 「出張スライドトーク」	11/1	-	32	-
その 他 事業	■その他事業		計6本 5,405人		
	「旧五十嵐邸・竹久夢二」展	9/10-13 (4日間)	500	283	56.6%
	静岡市清水文化会館マリナート常設展示 「平野富山-清水が生んだ彩色木彫の名匠」 【第1期】テーマ：写実的表現 【第2期】テーマ：縁起物 【第3期】テーマ：平野富山・千里-父から子へ 【第4期】テーマ：五月飾り	【第1期】4/1-7/28 【第2期】7/29-11/18 【第3期】11/19-2/23 【第4期】2/24-6/30 <予定>	-	-	-
	徳川家康公顕彰四百年記念事業 神の葵と将軍の葵-京都洛北世界遺産 上賀茂神社展-(第2部)	4/1-4/5 (5日間)	-	1,829	-
	「神の葵と将軍の葵-京都洛北世界遺産 上賀茂神社展-」 関連イベント 「葵祭のヒロイン・斎王代」	4/1-4/5 (5日間)	-	1,829	-
	「神の葵と将軍の葵-京都洛北世界遺産 上賀茂神社展-」 関連イベント 記念シンポジウム 「葵をめぐる 京都×静岡」	4/4	-	131	-
	中勘助生誕130年・没後50年 中勘助文学記念館開館20周年記念事業 展覧会『縁の作家、中勘助展～静岡の人々と共に』	2/3-2/18 (15日間)	840	1,333	158.7%
	計		144,720	325,460	224.9%

8-2 過去展覧会一覧

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成22(2010)年度			計3本 93,654人
1	開館記念展<Ⅰ> ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ	10月2日(土)～11月28日(日) <開館51日間>	38,695人 (759人/日)
2	開館記念展<Ⅱ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 家康と慶喜－徳川家と静岡	12月11日(土)～1月30日(日) <開館42日間>	34,424人 (820人/日)
3	開館記念展<Ⅲ> 棟方志功 祈りと旅	2月11日(金・祝)～3月27日(日) <開館39日間>	20,535人 (527人/日)
●平成23(2011)年度			計5本 131,904人
1	ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新	4月9日(土)～6月26日(日) <開館69日間>	16,395人 (238人/日)
2	没後150年 歌川国芳展	7月9日(土)～8月21日(日) <開館38日間> ※前期：7月9日(土)～31日(日) 後期：8月2日(火)～21日(日)	30,404人 (801人/日)
3	開館1周年記念展<Ⅰ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 アルプスの画家 セガントーニ－光と山－	9月3日(土)～10月23日(日) <開館44日間>	17,806人 (405人/日)
4	開館1周年記念展<Ⅱ> レオナルド・ダヴィンチ美の理想	11月3日(木・祝)～12月25日(日) <開館46日間>	53,136人 (1,156人/日)
5	竹久夢二と静岡ゆかりの美術 (前期：中川雄太郎と静岡の創作版画の世界 後期：平野富山“彩色木彫”の美)	1月7日(土)～3月25日(日) <開館64日間> ※前期：1月7日(土)～2月12日(日) 後期：2月18日(土)～3月25日(日)	14,163人 (222人/日)
●平成24(2012)年度			計6本 100,862人
1	森村泰昌モリエナーレ まねぶ美術史	4月7日(土)～6月10日(日) <開館57日間>	7,976人 (140人/日)
2	静岡音楽館AOI×静岡科学館・く・る×静岡市美術館 共同事業 七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる	6月23日(土)～8月19日(日) <開館51日間> ※前期：6月23日(土)～7月22日(日) 後期：7月24日(火)～8月19日(日)	10,929人 (214人/日)
3	フィンランドのくらしとデザイン－ムーミンが住む森の生活	9月1日(土)～10月8日(月・祝) <開館38日間>	41,258人 (1,086人/日)
4	ストラスブール美術館展 モダンアートへの招待	10月27日(土)～12月16日(日) <開館44日間>	12,016人 (273人/日)
5	滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展	1月2日(水)～2月11日(月・祝) <開館36日間> ※前期：1月2日(水)～1月20日(日) 後期：1月22日(火)～2月11日(月・祝)	11,256人 (313人/日)
6	新美南吉生誕100年 ごんぎつねの世界	2月23日(土)～3月31日(日) <開館32日間>	17,427人 (545人/日)
●平成25(2013)年度			計5本 156,594人
1	藤田嗣治 渡仏100周年記念 レオナルド・フジタとパリ	4月20日(土)～6月23日(日) <開館57日間>	22,451人 (393人/日)
2	静岡朝日テレビ 開局35周年記念 オーディロン・ルドン 夢の起源 幻想のふるさと、ボルドーから	6月29日(土)～8月25日(日) <開館51日間>	16,907人 (332人/日)
3	はじめての美術 絵本原画の世界2013	9月14日(土)～10月27日(日) <開館38日間>	44,385人 (1,168人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業 没後100年 徳川慶喜	11月2日(土)～12月15日(日) <開館38日間> ※前期：11月2日(土)～11月24日(日) 後期：11月26日(火)～12月15日(日)	15,260人 (402人/日)
5	テレビ静岡開局45周年記念 シャガール展	1月2日(木)～3月30日(日) <開館76日間>	57,591人 (758人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成26(2014)年度			計6本 155,028人
1	巨匠の眼 川端康成と東山魁夷	4月12日(土)～6月1日(日) <開館44日間>	15,475人 (352人/日)
2	読売新聞創刊140周年記念・静岡第一テレビ開局35周年 法隆寺展―聖徳太子と平和への祈り―	6月14日(土)～7月27日(日) <開館38日間>	26,566人 (699人/日)
3	日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～	8月4日(月)～9月23日(火・祝) <開館48日間>	66,773人 (1,391人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業・静岡市文化振興財団設立20周年記念事業 国宝・久能山東照宮展―家康と静岡ゆかりの名宝	10月4日(土)～11月24日(月・祝) <開館45日間>	20,353人 (452人/日)
5	ロイヤル・アカデミー展 イギリス美術の華麗なる150年	12月6日(土)～1月25日(日) <開館41日間>	16,034人 (391人/日)
6	没後100年 小林清親展 文明開化の光と影をみつめて	2月7日(土)～3月22日(日) <開館38日間>	9,827人 (259人/日)
●平成27(2015)年度			計6本 155,806人
1	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	4月18日(土)～5月31日(日) <開館39日間>	32,133人 (824人/日)
2	青磁のいま―受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6月13日(土)～8月16日(日) <開館56日間>	13,907人 (248人/日)
3	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番! 写楽二番!	8月23日(日)～9月27日(日) <開館36日間>	16,475人 (458人/日)
4	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10月10日(土)～11月23日(月・祝) <開館39日間>	41,836人 (1,073人/日)
5	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12月5日(土)～1月11日(月・祝) <開館29日間>	7,502人 (259人/日)
6	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日(土)～3月27日(日) <開館57日間>	43,953人 (771人/日)

8-3 静岡市美術館運営協議会

(公財)静岡市文化振興財団では、当館の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、平成23年度より静岡市美術館運営協議会を設置している。年2回の開催を基本とし、平成27年度まで計10回開催した。

【静岡市美術館運営協議会委員】(敬称略・50音順)

氏名	肩書
●第1期【平成23年6月19日～平成25年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長)
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	学習院大学名誉教授・前千葉市美術館長
小針由紀隆	静岡県立美術館学芸部長
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
●第2期【平成25年6月19日～平成27年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長) ＜～平成26年4月1日＞
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長) ＜平成26年4月2日～＞
●第3期【平成27年6月19日～平成29年6月18日】	
天野一夫	豊田市美術館チーフキュレーター
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会 (静岡紺屋町名店街代表理事)
増田安由	静岡市校長会 (図工美術部会長・富士見小学校校長)

※委員の肩書については、各期就任時のものを記載した。

静岡市美術館運営協議会設置要綱

(目的)

第1条 公益財団法人静岡市文化振興財団(以下「当法人」という。)は、静岡市美術館(以下「美術館」という。)の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、静岡市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。

(委員)

第3条 協議会の委員は、専務理事が選定し、理事長が委嘱する。

2 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

3 補欠又は増員により選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

4 委員は、任期満了後においても、後任者が就任するまで、なおその職務を行うものとする。

5 委員は別表のとおりとする。

(会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により選出する。

2 会長は、会議の議長となり、会務を総括する。

(会議)

第5条 協議会は、館長からの求めに応じ、会長が随時召集する。

2 会長は、協議会を招集しようとするときは、委員に対し、開催日の1週間前までに、書面等により、あらかじめ日時、場所及び議題その他必要な事項を通知しなければならない。ただし、委員全員の同意があるときは、この限りではない。

3 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

4 会長は、必要と認めた時は協議会に諮り、関係者に参考人として会議への出席を求め、資料の提供、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

5 副会長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(議事録)

第6条 会議の議事については、その経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成するものとする。

(庶務)

第7条 協議会の事務は、静岡市美術館総務課において処理する。

2 美術館の職員は、協議会その他の事務処理を通じて知り得た事項を他に漏らしてはならない。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会において定める。

附 則

この要綱は、平成23年6月19日から施行する。

附 則

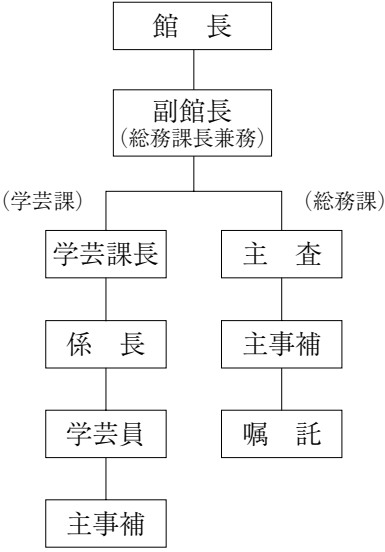
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年10月30日から施行する。

8-4 組織図・職員名簿

<組織図>



<職員名簿> (平成27年度)

館長	田中	豊稻
副館長(総務課長兼務)	大澤	眞明
(総務課)		
主査	村上	眞琴
主事補	青島	祐司
嘱託	岩倉	牧
嘱託	望月	俊佑
(学芸課)		
学芸課長	以倉	新(近・現代美術)
係長	吉田	恵理(日本美術)
学芸員	山本	香瑞子(日本近代美術)
学芸員	小川	かい(西洋美術)
学芸員	森谷	紗世(教育普及)
学芸員	青木	良平(西洋美術)
学芸員	伊藤	鮎(西洋美術)
学芸員	大石	沙織(日本史)
学芸員	安岡	眞理(教育普及)
主事補	大庭	千恵子(広報)

8-5 条例・施行規則

○静岡市美術館条例

平成21年7月16日
条例第50号

(設置)

第1条 静岡市は、多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目的として、次の施設を設置する。

名称	位置
静岡市美術館	静岡市葵区紺屋町17番地の1

(事業)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術文化に係る展示会の開催に関すること。
 - (2) 美術文化の教育及び普及に関すること。
 - (3) 美術文化に係る講演会、講習会等の開催に関すること。
 - (4) 美術文化に係る調査及び研究に関すること。
 - (5) 美術文化に係る情報の収集及び提供並びに広報活動に関すること。
 - (6) 美術作品及び美術に係る資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
 - (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業(開館時間)
- 第3条 美術館の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。ただし、第7条の規定による指定を受けて美術館の管理を行うもの(以下「指定管理者」という。)が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(当日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「休日」という。)に当たるときは、その翌日以降の最初の休日以外の日)
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(入館の制限)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 美術館の管理上支障があると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、必要があると認めるとき。

(損害賠償の義務)

第6条 美術館の施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(指定管理者による管理)

第7条 美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって市長が指定するものに行わせるものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第8条 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添付して市長に申請しなければならない。

(指定管理者の指定の基準)

第9条 市長は、前条の規定による申請を審査し、次に掲げる基準に適合するもののうちから、最も効率的かつ

適切な管理を行うことができると認めるものを指定管理者として指定するものとする。

- (1) 事業計画が美術館の設置の目的を達成するためにふさわしいものであること。
- (2) 事業計画が美術館の効果的な管理を実現するものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を行うために必要な物的・人的能力を有していると認められること。
- (4) 管理の業務を適切かつ円滑に行うための経理的基礎を有していること。

(指定管理者の指定等の公告)

第10条 市長は、指定管理者を指定したとき、又はその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告するものとする。

(指定管理者の業務の範囲)

第11条 指定管理者が行う業務の範囲は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 第2条に掲げる事業の実施に関すること。
- (2) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める業務(指定管理者の原状回復の義務)

第12条 指定管理者は、その指定に係る管理の業務の期間が満了したとき、又は指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった施設又は設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、市長の承認を得たときは、この限りでない。

(委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して12月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。ただし、第1条、第8条から第11条まで及び第13条の規定は、公布の日から施行する。

(平成22年規則第9号で、規則で定める日を平成22年5月1日とした。)

○静岡市美術館条例施行規則

平成21年11月12日
規則第103号

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡市美術館条例(平成21年静岡市条例第50号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館者の遵守事項)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をしないこと。
- (2) 騒音又は大声を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 動物(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条第1項に規定する身体障害者補助犬を除く。)又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を持ち込まないこと。
- (4) 美術館資料、器物又は施設を汚損し、又は損傷するおそれのある行為をしないこと。
- (5) 許可を受けないで広告類を掲出し、又はまき散らす行為をしないこと。
- (6) 所定の場所以外の場所へ立ち入らないこと。
- (7) 所定の場所以外の場所で飲食をしないこと。
- (8) 喫煙をしないこと。
- (9) 許可を受けないで寄附金品の募集、物品の販売若しくは陳列又は飲食物の販売若しくは提供をしないこと。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、指定管理者が管理上支障があると認める行為をしないこと。

(指定管理者の指定の申請書類)

第3条 条例第8条の規定による申請は、静岡市美術館指定管理者指定申請書(様式第1号)に、次に掲げる書類を添えて行うものとする。

- (1) 静岡市美術館事業計画書(様式第2号)
- (2) 静岡市美術館事業計画に関する収支予算書(様式第3号)
- (3) 定款、寄附行為又はこれに準ずるものの謄本
- (4) 役員名簿
- (5) 経営(事業)状況に関する書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める書類(協定の締結)

第4条 市長は、指定管理者を指定したときは、当該指定管理者と美術館の管理に関する協定を締結するものとする。

2 前項の協定には、次に掲げる事項を掲載するものとする。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 市が支払うべき管理費用に関する事項
- (3) 管理業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
- (4) 事業報告に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事項(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、静岡市美術館条例附則本文に規定する規則で定める日から施行する。

様式第1号(第3条関係)

静岡市美術館指定管理者指定申請書

年 月 日

(あて先)静岡市長

所在地(法人以外の団体にあっては、その代表者の住所)

申請者 名称

代表者氏名

印

電話

静岡市美術館の指定管理者の指定を受けたいので、静岡市美術館条例第8条及び静岡市美術館条例施行規則第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

様式第2号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画書

事業計画の理念・方針

実施事業の概要(事業の構成及び年間計画表)

実施体制図

特記事項(効果的に事業を行うための方策、市民サービスの向上のための施策等)

様式第3号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画に関する収支予算書

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
支出			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円

8-6 施設・建築概要

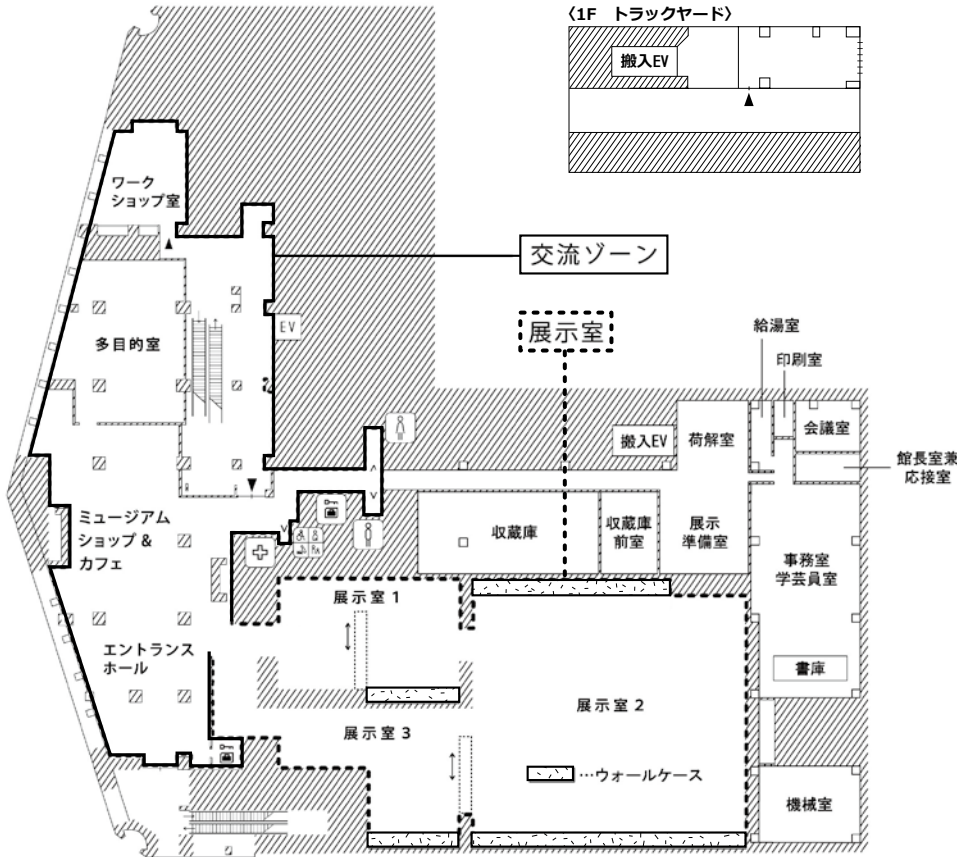
所在地：静岡市葵区紺屋町17番地の1号 葵タワー3階
設置者：静岡市
構造：S造（一部RC・SRC造）
内装設計：株式会社丹青研究所
内装建築工事：株式会社木内建設
延床面積：3,393.22㎡
館内施設：
（展示関係）展示室1：209.76㎡ 展示室2：713.03㎡
展示室3：204.17㎡
天井高：4.1m～4.5m
総壁面長（可動壁含む）：290m
床荷重：500kg/㎡
ウォールケース：総長60m（エアータイト型壁面ガラスケース）
（収蔵関係）収蔵庫：141㎡ 収蔵庫前室：46㎡
（管理関係）事務室・学芸員室：179㎡ 会議室31㎡
館長室兼応接室：19㎡
（交流ゾーン）エントランスホール：612㎡（天井高6m） 多目的室：180㎡（天井高5m） ワークショップ室：92㎡（天井高3m）
設備：
（電気）[本体ビル]3相3線6.6KV（地中引込方式）、非常用発電設備
（給排水）[本体ビル]給水：上水、雑用水2系統 排水：汚水、雑排水分流方式

（消火）N2ガス消火設備（展示収蔵エリア）、スプリンクラー（その他エリア）、消火用散水栓、消火器、自動火災報知設備
（空調）[本体ビル]ガス焼き吸収冷温水機及び排熱冷温水機（熱源）、4管方式により冷温水供給
[美術館]展示室：エアハンドリングユニット（床置きコンパクト型）
収蔵庫：空冷パッケージ（インバータ・セパレート型）エアコン
その他エリア：ファンコイルユニット

＜静岡市美術館整備費内訳(単位：円)＞

保留床購入費 （葵タワー再開発組合からの占有床購入経費）	¥ 2,461,200,000
内装・展示工事費	¥ 859,533,150
（内訳）建築工事費	¥ 712,007,100
電気工事費	¥ 132,826,050
衛生工事費	¥ 14,700,000
整備費合計	¥ 3,378,123,924
（内訳）まちづくり交付金（国庫補助金）	¥ 1,180,000,000
市債（合併特例債）	¥ 1,571,200,000
一般財源	¥ 626,923,924

施設見取り図



平成27(2015)年度
静岡市美術館 年報 No.6
2017年3月 発行

編集・発行 静岡市美術館
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3階
TEL 054-273-1515(代)
FAX 054-273-1518

印刷 株式会社アプライズ

©Shizuoka City Museum of Art 2017

